ろう通訳カリキュラム

2016 デジタル版

NCIEC
National Consortium of Interpreter Education Centers

ろう通訳カリキュラム（日本語版）

発　　行　　日　：　2021 年 7 月 15 日

日　本　語　訳　：　岡　典栄・高木　真知子・森　亜美

レイアウトデザイン　：　杉原　大介

日本語版発行
特定非営利活動法人手話教師センター

日本財団助成事業
（コミュニティ＆学術分野におけるろう通訳者・フィーダー養成事業）

献辞

（聴者の）世界を私たちのために
いつも通訳してくれた
マリー・ジーン・フィリップへ

改訂の時点（2016 年）で、私たちは
リリアン・ガルシア・ピーターキンの死
を悼みます。ろう通訳の養成と専門
性の向上に対する彼女の献身なくし
ては、カリキュラムの改訂は
達成できなかったでしょう

謝辞

このたび、日本財団の助成を得て、『ろう通訳カリキュラム（日本語版）』を発行できたことを大変喜ばしく思います。2016 年『Deaf Interpreter Curriculum』の刊行以来、日本語訳に取り組んでまいりました。本書には日本におけるろう通訳者の養成のみならず、手話通訳教育に参考になることがたくさん書かれています。通訳翻訳技術をはじめ通訳者の職業倫理や規範など、手話通訳に携わる人たちに不可欠な知識と情報が満載です。ぜひ、ろう通訳者を目指す方にも通訳者養成を担っている方々にもご活用いただきたいと思います。本書の発行にご協力いただいた関係各位ならびに日本語版発行を許可してくださった NCIEC に心より御礼申し上げます。

特定非営利活動法人手話教師センター
理事長　赤堀仁美

目次

献辞 ..... ***iii***

目次 ..... ***iv***

はじめに ..... ***ix***

序文 ..... ***xi***

概要 xi

構成 xi

用語 xiii

複写、配布について xiii

NCIEC の使命 xiv

ガイドライン ***15***

概要 15

条件とアプローチ 15

カリキュラムの利用について 15

学習機会について 16

講師の条件 16

指導環境 16

言語と内容 17

複写と配布について 17

第1編:ろう通訳者—過去、現在、未来 ***19***

本編と各章の概要 19

第 1 章:ろう通訳実践の歴史的展開 21

第 2 章:基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力 25

第 3 章:通訳モデルと通訳方法 31

第 4 章:言語、文化、抑圧とろう社会 35

第 5 章:ろう通訳者？それともアドボケイト(代弁者)？ 39

第 2 編:ろうコミュニティ内の人種、文化の多様性 ***41***

本編と各章の概要 41
第 1 章:人種的文化的多様性 43
第 2 章:文化の違いについて調べる 47
第 3 章:偏見とステレオタイプについて調べる 53
第 4 章:移民と難民 59
第 5 章:ろう通訳者に必要な知識とスキル 63
第 3 編:通訳利用者の把握ー文化、言語、コミュニケーションスタイルの確認... 69
本編と各章の概要 69
第 1 章:コミュニティと文化的アイデンティティ 71
第 2 章:通訳利用者の言語使用の把握 77
第 3 章:効果的なコミュニケーション方略 87
第 4 章:抑圧の意味と影響 93
第 4 編:ろう通訳者の倫理の考察および課題..... 97
本編と各章の概要 97
第 1 章:倫理の基礎 - まず自分を知ること 99
第 2 章:RID と NAD の専門職行動規範の歴史 105
第 3 章:ろう通訳者と倫理 111
第 4 章:アライとしてのろう通訳者 115
第 5 編:ろう通訳者の通訳理論と実践.....119
本編と各章の概要 119
第 1 章:通訳モデル 121
第 2 章:翻訳 127
第 3 章:逐次通訳 135
第 4 章:同時通訳 143
第 6 編:ろう/聴通訳チームとろう/ろう通訳チーム..... 151
本編と各章の概要 151
第 1 章:チーム作り 153
第 2 章:DI/HI チームーその役割、機能、プロセス 157

第 3 章:準備-通訳前と通訳後の話し合い 163
第 4 章:DI/HI チームの実践 167
第 5 章:DI/DI チームの実践 173
第 6 章:DI/HI チームの力関係と駆け引き 177
付録 A:ろう通訳者としての能力 182
内容 182
各編ごとの能力 187
付録 B: ワークシート 195
内容 195
組織の比較ワークシート 196
事例 1 ワークシート 197
事例 2 ワークシート 198
事例 3 ワークシート 199
事例 4 ワークシート 200
事例 5 ワークシート 201
立場の優劣確認ワークシート 202
行動レベルワークシート 204
コミュニティ観察ワークシート 205
ろう者へのインタビューワークシート 206
レジスターワークシート 207
事前打ち合わせ分析ワークシート 208
通訳利用者との打ち合わせ分析ワークシート 209
付録 C: 分類表 211
内容 211
アメリカ手話の分類表 212
ホームサイン分類表 214
視覚的ジェスチャーコミュニケーション分類表 216
付録 D:用語集 219

付録 E:参考資料 ***225***

付録: F 発表 スライド ***247***

内容 247

第1編 249

第2編 253

第3編 261

第4編 267

第5編 277

第6編 287

はじめに

2010 年、全米通訳教育センター連合会（National Consorium of Interpreter Education Centers, NCIEC）は、ろう通訳者の実践に関する画期的な研究として、Toward Effective Practice: Competencies of the Deaf Interpreter『より効果的な実践にむけて：ろう通訳者の能力』を発行しました。この研究は、全国的な調査をもとにしており、ろう通訳者や通訳指導者団体を主な対象にしたものです。その当時から、私たちはこの作業がろう通訳者に特化した研修の機会の不足を解消するためのカリキュラムの作成へと発展することを願っていました。

今ここに NCIEC のろう通訳カリキュラム(Deaf Interpreter Curriculum)を、楽しく有意義な新しい道への第一歩、出発点としてお送りします。このカリキュラムは、ろう通訳者がその独特な仕事を実践するために必要な研修を検討し、ろう通訳者の発展を支援し、彼らが継続的に専門性を高めていくために必要な重点的支援を考える新たな対話の出発点です。

これまでこの作業を企画した人は誰もいませんでした。ろう通訳実践の分野にはごくわずかな研究しかありません。それでも、私たちは、最も困難な状況で最も対応が難しく多様な通訳利用者を相手に、経験を積んだろう通訳者が本能的に持つ知識、そして素晴らしく巧みに実践してきた手法を記録する努力をしました。それを実現するために、経験を積んだろう通訳者や通訳指導者を集め、彼らが知っていること、成し遂げてきたことを語ってもらいました。そこで確認できたろう通訳者に必要な独特な能力やスキルを身に着けるための学習のカリキュラムを作成しました。

多くの人たちがこのカリキュラム作りのために一生懸命働いてくれました。私たちは彼らに心からの感謝を申し上げたいと思います。その人たちをここに列記します。

- NCIEC 2006 Critical Issues Forum で本調査開始当時の 12 名のメンバー：
  Dr. Patrick Boudreault, Janis Cole, Jan DeLap, Dr. Eileen Forestal, Carole Lazorisak, Terry Malcolm, Mark Morales, Priscilla Moyers, Cynthia Napier, Sharon Neumann Solow, Deborah Peterson, Stacey Storme.

- NCIEC Deaf Interpreter Competencies の文書作成を継続して行った 8 名：
  Jimmy Beldon, Dr. Patrick Boudreault, Dr. Steven Collins, Dr. Eileen Forestal, Carole Lazorisak, Priscilla Moyers, Cynthia Napier, Deborah Peterson.

はじめに

- これまでの作業を引き続き行い、本カリキュラムに新たに提案した 7 名：
  Jimmy Beldon, Stephanie Clark, Dr. Eileen Forestal, Dr. Christopher Kurz, Jim Lipsky, Cynthia Napier, Dr. Rico Peterson.
  ベータ版にフィードバックを行い最終カリキュラムに貢献した、Train the Trainer 参加者 12 名：Jennifer Briggs, Bradley Dale, Rosemary Diaz, Kirsi Grigg, Ann Horn, Trenton Marsh, Rayni Plaster, Jeff Pollock, Keven Poore, Brenda Schertz, Jacqueline Schertz, Christopher Tester.

- 技術チーム:Nancy Bloch, consultant, Touchpoint Group; Doug Bowen-Bailey, videographer; Nancy Creighton, creative designer, Purple Swirl Arts; Cynthia Napier, NCIEC ろう通訳者チームメンバーかつ連絡担当; Madeleine Eames, 校正担当.

この草分けともなるカリキュラムの今後の発展、改訂に、ろう通訳専門家、研究者、指導者が情報、アイデア、意見を出すというように協力してくださると嬉しいです。

Cathy Cogen、ディレクター
ノースイースタン大学全米通訳教育センター

Diana Doucette、ディレクター
ノースイースタン大学地域通訳教育センター

Lillian Garcia Peterkin、コミュニケーション＆アウトリーチコーディネーター
ノースイースタン大学全米通訳教育センター

2014 年 9 月

The NCIEC Deaf Interpreter Curriculum © 2016 Digital Edition was developed by the National Consortium of Interpreter Education Centers (NCIEC), and replaces the 2015 edition.

序文

概要

2010 年より NURIEC（ノースイースタン大学地域通訳者教育センター）ディレクターの Diana Doucette、NIEC（全米通訳者教育センター）ディレクターの Cathy Cogen、NIEC コミュニケーション&アウトリーチコーディネーターの Lillian Garcia Peterkin がこの NCIEC ろう通訳カリキュラムの開発に取り組んだ。彼女たちは 6 名の現役ろう通訳者、教育者、カリキュラムの専門家とチームを作り、カリキュラムのねらいとする範囲や成果を決めることで、段階的に学習体験を進め、ある程度の成果を出せるようにした。このチームは、一年以上、マサチューセッツ方式の Road to Deaf Interpreting(RDI)プログラムでこのカリキュラムを試し、フィードバックをもとにカリキュラムの内容をさらに詰めた。2014 年指導者研修で、カリキュラムの構成、内容、リソースについて掘り下げたテストを行いさらに詳しい内容にした。

NCIEC はこのカリキュラム開発に携わった多くの人たちのご協力に感謝したい。

構成

ろう通訳カリキュラムは 6 つの編を柱にして、順序に従って進めるようになっており、ろう通訳者の能力、ワークシート、注釈、発表スライド、用語解説の付録もある。また、包括的な参考資料のリストもあり、そのほとんどはこのカリキュラムで引用されているものである。また、ビデオへのハイパーリンク、ろう通訳者教育で使われる関連教材もある。

このカリキュラムは、コミュニティ通訳者養成に焦点を当てており、ハイレベル会議や法律関係の通訳については扱っていない。NCIEC はすでに、法廷のろう通訳向けの専門カリキュラムや養成プログラムを作成している。

第 1 編：ろう通訳者—過去、現在、未来

この編ではろう通訳実践の基本を扱う。ろう通訳の起源やこれまでどのような歴史的な変遷があったのかを見る。学習者はろう通訳者に必要な基本的な知識やスキルの概要を知る。この分野をさらに深め、コミュニケーションアクセスを向上させ、ろうコミュニティや通訳者が果たす役割についても探求する。学習者は自分個人の人格形成期の体験がいかにろう通訳者としての可能性に影響するかについても熟考する。

第 2 編：ろうコミュニティ内の人種、文化の多様性

ここでは、アメリカのろうコミュニティ内の民族的文化的多様性、とりわけ、有色人種のろう者について扱う。学習者はどのような偏見やステレオタイプの概念を持っているか、自己分析し、それがろう通訳者としての仕事にどう影響するか考える。また、ろう者の人種的、文化的集団を代表する様々な団体について調べ、自分のリソースをさらに増やす。

第 3 編：通訳利用者の把握―文化、言語、コミュニケーションスタイルの確認

ここでは、ろう通訳利用者の、広範囲にわたる言語、コミュニケーションスタイル、教育レベル、身体特徴、認知能力、社会言語的要因を扱う。学習者はろう通訳実践に関係する利用者の性質を把握する方法を学ぶ。

第 4 編：ろう通訳者の倫理の考察および課題

ろう通訳者の意思決定の倫理的考察と課題を扱う。学習者は、全米ろう協会と全米手話通訳者協会が作った専門職行動規範について、またそれがいかに様々な状況や場面での倫理的意思決定を促進させるかを学ぶ。学習者は、NAD-RID の倫理綱領の歩みがろう通訳の分野にどう関わってきたかについても学ぶ。

第 5 編：ろう通訳者の通訳理論と実践

ここでは、通訳理論モデルをろう通訳者の仕事に適用する。学習者は、逐次通訳、同時通訳、サイト（テキスト）トランスレーション（見て翻訳する）の理論と実践を学ぶ。学習者は観察やロールプレイ学習に参加することで、様々なアプローチや談話スタイルの経験を積む。

第 6 編：ろう/聴通訳チームとろう/ろう通訳チーム

ここでは、ろう／聴、ろう／ろう通訳チームの理論的解釈、理論、実践を扱う。学習者は、チームを組むことの正当性や、完全なコミュニケーションアクセスのためのチームメンバーたちの不可欠な役割や貢献について話し合う。学習者は効果的なチーム方略を学び実践する。

用語

カリキュラム全体を通して、「ろう」「盲ろう」の用語を使用する。「ろう」は、ろう者、難聴者、中途失聴者を含む。「盲ろう」は目の見えないろう者、見え方がさまざまなろう者を含む。

一般にろう（Deaf）は文化的ろうを指し、この用語は、本カリキュラムでは、音声言語を第一言語とする人たちの文化が中心となっている中で生きるろう者や盲ろう者を指す。ろう者、盲ろう者はコミュニケーションアクセスを模索するマイノリティの一部であり、アクセスのためにろう通訳を利用することが多い。

複写、配布について

目的が教育、非営利であれば NCIEC Deaf Interpreter Curriculum@2015 Digital Edition の複写、配布を許可する。NCIEC が原作者であり複写にはいずれも原作者を明記すること。
Creative Commons Attribution Non-Commercial, No Derivs 3.0 License.

NCIEC の使命

全米通訳教育センター連合会（NCIEC）の使命は、多方面にわたる関係者と連携し、協働し、通訳という仕事の卓越性を極めることである。

本書にあるモノクロ写真は、ミシガン州ブルックリンで 2014 年 6 月 16-20 日に開かれた the Train the Trainers Session で Jimmy Beldon が撮影したものである。その参加者たちの協力とそのセッション中に録画や撮影を許可してくださったことに感謝したい。後列（左から右へ）Cynthia Napier, Stephanie Clark, Christopher Tester, Kevin Poore, Ann Horn, Rayni Plaster, Trenton Marsh, Jeff Pollok。前列（左から右へ）Jimmy Beldon, Kirsi Grigg, Bradley Dale, Jennifer Briggs, Jacqueline Schertz, Brenda Schertz, Carole Lazorisak, Lillian Garcia Peterkin, Rosemary Diaz。カメラの後ろにいるのは、撮影者の Doug Bowen-Bailey（右）。

ガイドライン

概要

ASL を母語とする人の通訳は ASL 話者にとって理解しやすいものである（McDermid, 2010）。また、経験、練習の両方を行うことで通訳の効果性が高められる。

ろう通訳教育者、専門家、研究者が、ろう通訳者に、通訳専門職として求められる役割や責任を身につけさせる教材としてこの NCIEC ろう通訳カリキュラムを作成した。カリキュラム使用者には、コースワーク（学習課題）を高めるような実践、ロールプレイ、チーム活動といった教育学的アプローチが必要である（Forestal,2005）。また、本カリキュラムは、ろう通訳実践に取り組む ASL を母語とする者たちの完全な参加を奨励しサポートする。

条件とアプローチ

本カリキュラムを使用する講師は、少なくとも 5 年間 500 時間の通訳経験がある**現役の**ろう通訳者でなければならない。また、ASL が流暢で通訳プロセス、倫理、ASL 言語学、ジェスチャーコミュニケーション、道具の使用、ろう文化、通訳理論、通訳の役割についての知識や経験を要する（Bouderault,2005）。本カリキュラムの著者たちはそれらの分野を扱う学習単元を考案した。

ろう通訳者養成への私たちのアプローチには、ろうの学習者に文化的に受け入れられるようなカリキュラム学習を組み入れている。学習者全員が同じというわけではないことを私たちは承知しており、講師たちは、個々の受講生たちがこのカリキュラムから最大限学べるよう彼らの学習スタイルを評価し認めるよう強く勧めたい。

カリキュラムの利用について

この NCIEC ろう通訳カリキュラムは、大学・短期大学などでの正式な手話通訳者養成プログラムだけでなく、各地域で行われるワークショップ、勉強会、その他短期の講習会、またはオンライン授業などにも使用可能である。その場合には、個々の編を取り上げて使うのも可能である。場所がどこであれ、その時の状況に合わせてカリキュラムを順序よく使うよう強く勧める。

第 1 編では、学習者はろう通訳者の歴史や通訳専門の重要性を学ぶことになっている。各編は、順を追うごとに内容が積み重ねられ、ろう通訳専門職としての学習者の能力を伸ばす土台を作るよう考えられている。そのため、講師はこのカリキュラムの順序に従うよう強く勧める。

学習機会について

体験学習の機会は全ての通訳教育プログラムに重要なものである。講師は、NCIEC ろう通訳カリキュラムで扱われているアカデミックまたはコミュニティを基盤とした教育場面にふさわしい、学習者が観察したり実用講座を体験したりする機会を設けるのが望ましい。

ガイドライン

講師の条件

このろう通訳カリキュラムはろう通訳者の実践が成功裏に行われるために必要な能力・スキルに焦点を当てている。このカリキュラムの指導は、向上心を持って実践してきた経験豊富なろう通訳者たちが直面してきたであろう課題、挫折、問題などを実際に自分自身が直接経験し、その知識を有するろう通訳者が中心的に行うべきである。

加えて、講師は、現役であるだけでなく、以下を満たさなくてはならない。

- 母語が ASL であり流暢であること
- ろう文化の知識があり、ろうや盲ろうのコミュニティの一員であること
- ろう通訳者として優れた知識やスキルがあること
- 書記英語から ASL に翻訳できること
- 国または州の認定を得ていること
- 過去 5 年間 500 時間以上の通訳経験があること
- 5 年以上アカデミックなあるいはコミュニティを基盤とする場での指導経験があること
- BA またはそれ以上の学位を有していること

指導環境

NCIEC ろう通訳カリキュラムの各編は 1 対 1 またはグループで使用できる。資材や設備が必要である。

- ノートパソコン、コンピューター
- USB ドライブ
- インターネット環境
- LCD プロジェクター
- ビデオカメラ、三脚
- 書かれたもの（ハードコピー）、電子機器
- フリップチャート、イーゼル、ペーパーパッド、マーカー
- 講師が必要と判断したもの

言語と内容

NCIEC ろう通訳カリキュラムは、各編が連続しており、ろう通訳実践に関係する多くのテーマを取り扱っている。直接指導、ロールプレイ、ケーススタディ、少人数での練習、各自の課題、などが、学習参加者たち向けの様々なオプションとして講師に提供する目的で、作られている。

一般的に、この編は、ろう通訳者養成クラスの教材として考え出されたものである。しかし、一部には、特にろう／聴通訳チームワークのように、上級レベルの聴通訳者養成クラスの学生を含めたグループでやらなければならないものもある。

当カリキュラムには印刷できるようになっており、ビデオ教材も含まれている。追加されたビデオは DVD で見ることができる。また、講師は、このカリキュラムに記載されているリソースを十分に活用してほしい。

- *NCIEC Deaf Interpreter Institute Annotated Bibliography*
- *NCIEC Deaf Interpreters at Work: Mock Trial*
- *NCIEC Deaf Interpreting: Team Strategies*
- *NCIEC Deaf Interpreter: Team Strategies for Working in a Mental Health Setting*
- *NCIEC Examples of a Deaf Interpreter's Work*
- *NCIEC Interpreting in Vocational Rehabilitation Settings*
- *NCIEC Interpreting in Spanish-Influenced Settings: Video Vignettes of Working Trilingual Interpreters (ASL/Spanish/English)*
- *NCIEC Teaching Modules for the Classroom: DeafBlind Interpreting, Deaf/Hearing Interpreter Teams and Faces of the Deaf Consumer*

複写と配布について

目的が教育、非営利であれば *NCIEC Deaf Interpreter Curriculum@2015 Digital Edition* の複写、配布を許可する。NCIEC が原作者であり複写にはいずれもそれを掲載のこと。

Creative Commons Attribution Non-Commercial に従い、No Derivs 3.0 License

第1編：ろう通訳者ー過去、現在、未来

本編と各章の概要

概要

本編ではろう通訳実践の基本を扱う。ろう通訳者の起源やこれまでどのような流れがあったのかを見る。学習者はろう通訳者に必要な基本的な知識やスキルの概要を知る。この分野の今後の発展におけるろうコミュニティや通訳者が果たす役割や、コミュニケーションアクセスの改善についても探求する。学習者は、自分個人の経験がろう通訳者としての可能性にどう影響するかについても熟考する。

ねらい

ろう通訳者の実践の増加、この分野での現状が今後の実践にどう影響するかを分析することで、ろう通訳者の仕事についての理解を深める。講義、クラス内の活動、提出課題を通して、ろう通訳実践の歴史、ろう通訳者に必要な基本的なスキルや知識、通訳サービスのモデル、通訳方法、ろう通訳実践に対する抑圧の影響、ろう通訳者とアドボケイト（訳注：代弁者、支援者）の役割の比較、について学ぶ。

能力

1.0 基礎力(1.1, 1.2, 1.3, 1.4)
2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.1, 2.2, 2.3)
4.0 通訳実践力(4.8)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4, 5.5)

目標

本編を履修した学習者は：

1. ろう通訳者の歴史で画期的な出来事、変化していくろう通訳者の役割、ろう者や盲ろう者がろう通訳を利用するメリット、について述べることができる。
2. ろう通訳者として効果的に行動する能力が向上した経験を少なくとも２つ挙げることができる。

3. 自分の個人的、専門的な強みについて知り、言語、文化、コミュニケーション能力で改善が必要な部分に取り組む計画を考えることができる。
4. 少なくとも２つの歴史的な出来事と、現在の通訳サービスやプロセスのモデルを最低２つ挙げることができる。
5. コミュニケーションや情報アクセスの欠如に基づく個人的な差別、抑圧、葛藤の経験がいかにろう通訳者にとって役に立つか、また、ろう通訳者への挑戦となるかについて述べることができる。
6. ろう通訳とアドボケイト（代弁者）の役割と責任の違いについて述べることができる。

事前に必要な知識とスキル

- ネイティブ、またはネイティブに近い流暢な ASL
- スキルや状況がさまざまな、ろう者や盲ろう者の通訳の経験

アプローチと順序

課題読書、ビデオ、発表スライド、クラス内での練習やオープンダイアローグ（「開かれた対話」）を行う活動を含め、この編の5つの章に沿って順序よく指導するのがよい。そうすることで、また関連資料を自宅学習の課題として補うことで、学習者がろう通訳の効果的な実践に必要な重要コンセプト（概念）を理解できるようになる。

課題読書、ビデオ、発表スライド、クラス内での練習やオープンダイアローグを行う活動を含め、本編の５つの章に沿って順序よく指導するのがよい。講師がそれを行うことで、また課題は当然ながら、さまざまな資料はもちろんリソースを使った補習を進めることで、学習者がろう通訳の効果的な実践に重要なコンセプトを理解できるようになる。

第1章　ろう通訳実践の歴史的展開
第2章　基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力
第3章　通訳業のモデルと通訳方法
第4章　言語、文化、抑圧とろう社会
第5章　ろう通訳者か、アドボケイト（代弁者）か？

第 1 章:ろう通訳実践の歴史的展開

ねらい

ろう通訳者の起源と変遷を知り、ろう通訳者の社会的ニーズへの理解を深める。講義、クラス内の活動や提出課題を通して、ろう通訳者の実践の歴史を調べる。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.1, 2.2, 2.3)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.5)

目標

本章を履修することで、学習者は:

1. ろう通訳者の実践の歴史における、少なくとも 2 つの画期的な出来事を述べることができる。
2. ろう通訳者の役割を説明できる。
3. ろうや盲ろう者がろう通訳により得られるメリットを少なくとも 2 つ挙げられる。

主要課題

1. ろう通訳者にはどのような知識やスキルが必要か？
2. ろう通訳者には、これまでの通訳養成プログラムにある従来のカリキュラムだけでなく、特別なカリキュラムが必要なのはなぜか？
3. ろう通訳者が必要である、あるいは有用だという状況は何か？
4. どうすれば、ろう通訳者に対する社会の認識を改善できるか？

演習 1

Relay Interpreting in the 90's(Bienvenue & Colonomos, 1992)を読んでそこにあるコンセプトについて話し合う。

1. RSC(リバース通訳資格)が RID(訳注:全米登録手話通訳者協会)により認定されたのはいつか？
2. RSC の当初の目的は？
3. いつろう者が通訳を開始したか、それはどういう状況だったか？
4. なぜ RID は RSC を 1986 年に停止したのか？
5. RID ろう集会とは何か？1987 年の主なテーマは何か？
6. リレー通訳のプロセスはどういうものだったか？リレー通訳は今ではなんと呼ばれているか？

7. 今日ろう通訳者を利用するのはだれか？どういう状況で利用されるか？

以下のビデオを見て話し合う:

1. *Teaching Modules for the Classroom - Deaf Interpreter/Hearing Interpreter Teams* (NCIEC, 2013)にあるろう通訳者と聴通訳者の仕事を定義づける。
2. *Teaching Modules for the Classroom - Deaf Interpreter/Hearing Interpreter Teams* (NCIEC, 2013)の資格化の歴史をまとめたもの
3. *The Benefits of Deaf Interpreters* (ASLized, 2014)

演習 2

Certified Deaf Interpreter - WHY?(Egnatovich, 2008)を見て、そのコンセプトについて話し合う。

1. なぜ、聴通訳者の中にはろう通訳者と一緒に仕事をすることを躊躇する人がいるのか？
2. ろう通訳者と仕事を共にする聴通訳者の躊躇にどう対処するのが一番良いか？
3. Egnatovich による、ろう/聴通訳チームを利用する5つの理由は何か？それぞれの理由について説明し、良い例を挙げよ。
4. ろう通訳者を利用する典型的な通訳利用者について述べよ。
5. その他、ろう通訳者のサービスがためになるという人について述べよ。
6. どのような形の特別トレーニングが、将来のろう通訳者と現役のろう通訳者にとって役立つか？それぞれのグループについて説明せよ。
7. これまでどのような状況のときに、ろう通訳者を利用したことがあるか、あるいはろう通訳を利用すべきだったと思ったか？説明せよ。

演習 3

2007 National Deaf Interpreter Survey: Work Settings (NCIEC, 2012)を見て話し合う。

1. 社会福祉関係やヘルスケアで仕事をするろう通訳者の割合が多いのはなぜだと思うか？
2. 調査回答者の 16%は教育現場で仕事をしているという。そこでろう通訳者はどういう仕事をしているか？
3. ろう通訳者の勤務状況について報告された統計で驚くことは何か？

演習 4

RID 実践の指針（*SPP*、*Standard Practice Paper*）*: Use of a Certified Deaf Interpreter* (RID, 1997)を読んで話し合う。*Perspectives on the 1997 RID CDI Standard Practice Paper: Panel Discussion* (NCIEC, 2014)による Introduction を見る。

1. SPP に記載されている以外にろう通訳者が行う職務に何があるか？
2. SPP にはろう通訳と組むことをどのように推奨しているか？説明せよ
3. SPP を改善できる点は何か。特に何を加えるか？
4. この演習でどんな新しい語彙や用語が出てきたか？

演習 5

So You Want to Be an Interpreter (Humphrey & Alcorn, 2007)を読んで、通訳の歴史と専門化について話し合う。とりわけ、どのような方法でろう通訳者の専門性を促進できるか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの活動に積極的に参加する
4. 書面(レポート)や動画の課題を提出する

参考資料

ASLized. (August 10, 2014). *The benefits of Deaf interpreters.* [Video]. Retrieved from http://www.deafvideo.tv/235079 and https://www.youtube.com/watch?v=Ec8LjnVuJx8&list=UU0jdsYSKy1VNhKw79mw0RsA

Bienvenu, M., & Colonomos, B. (1992). Relay interpreting in the 90s. In L. Swabey (Ed.), *The challenge of the 90s: New standards in interpreter education* (pp. 69-80). United States: Conference of Interpreter Trainers. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/ uploads/2012/07/Bienvenu.pdf

Carty, B., Macready, S. & Sayers, E.E. (2009). A grave and gracious woman: Deaf people and signed language in colonial New England in *Sign Language Studies,* 9(3), pp. 297-323. [Curriculum Resource]

Egnatovitch, R. (1999). Certified Deaf interpreter–WHY? Registry of Interpreters for the Deaf, *RID VIEWS*, 16 (10). Also retrieved from http:// www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/Egnatovitch.pdf

Forestal, E. (2005). The emerging professionals: Deaf interpreters and their views and experiences on training. In M. Marschark, R. Peterson, & E.A. Winston (Eds.), *Sign language interpreting and interpreter education: Directions for research and practice* (pp. 235-258). New York, NY: Oxford University Press. [Curriculum Resource]

Humphrey, J. & Alcorn, B. (2007). *So you want to be an interpreter? An introduction to sign language interpreting (4th ed.).* Everett, WA: H&H Publishing Co., Inc.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Perspectives on the 1997 RID CDI standard practice paper: Introduction and panel discussion.* [Videos]. Retrieved from https://vimeo.com/104121344 and https://vimeo.com/104121341

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Deaf interpreter/hearing interpreter teams.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/ online/

- Unit 1.2.1−Defining the work of Deaf interpreters and hearing interpreters. [ASL Translation, Segment 1.1]. Also retrieved from http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/ presentation/56a13b13-b824-446b-b7ab-344c385f2927/
- Unit 1.2.2−Brief history of certification in the U.S. [ASL Translation, Segment 1.2] Also retrieved from http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/3bbb27bc-93d4-4ab8-8b2c- 3855e6e442e9/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *2007 National Deaf interpreter survey: Work settings.* [Includes video clip]. Retrieved from http://www.diinstitute.org/study-results-2/2007-national-di-survey/work-settings/

Registry of Interpreters for the Deaf (1997). S*tandard practice paper: Use of a certified Deaf interpreter.* Retrieved from http://rid.org/ about-interpreting/standard-practice-papers/

第 2 章：基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力

ねらい

ろう通訳に不可欠な基礎力に対する、成長期の体験の影響を分析する。講義、クラス内での活動や提出課題を行うことで、基礎力がいかにろう通訳の特殊な知識やスキル向上に役立つかを知る。

能力

1.0 基礎力(1.1, 1.2)
2.0 言語力、文化、コミュニケーション力(2.1, 2.2, 2.3)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.1, 3.2, 3.3, 3.4)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3)

目標

本章を履修した学習者は：

1. 将来のろう通訳者、あるいは現役のろう通訳者として改善が必要な部分も含め、自分の個人としての力および専門的な力を知ることができる。
2. 言語、文化、コミュニケーション面の改善に向けた行動計画を立てることができる。

主要課題

1. ろう通訳者は自分自身について学ぶために、自分の成長期の経験をどう評価し活用するか？
2. どのように基礎力は、それぞれのろう通訳者がろう通訳者として仕事ができるように準備するのか？
3. どんなろう通訳のスキルが基礎力に支えられているか？

演習 1

ここでは、学習者が集団主義的傾向と個人主義的傾向について学び議論することを目的としているが、それは学習者の文化適応の度合いを知ってもらう演習 2 に向けての事前学習となる。ろう、コーダ、聴者としての価値観と行動について、学習者に各自考えてもらい、それぞれについてたくさん付箋に書いてテーブルにそれらを並べる。

次に、グループとしてそれぞれの付箋が、ろう、コーダか、または聴者か、どちらのカテゴリーに入るか、見直して分類させる。集団主義的傾向（ろうとコーダ）と、個人主義的傾向（聴者）について話し合う。

演習 2

ろう通訳者とコーダは文化の架け橋としてどのように行動しているかについて話し合う。学習者に「文化変容」について調べてもらい、クラスでの話し合い用の vlog に投稿することで個人それぞれの見方を共有する。

DID YOU KNOW? *文化変容の連続については、次から調べられる。Reading Between the Signs (Mindness, 2014)、Stephanie Clark (Road to Deaf Interpreting Training Series) はプレゼンの材料、Trenton Marsh (NCIEC Deaf Interpreter Curriculum Train the Trainers Session, 2014)は視覚適応教材。*

演習 3

以下の連続線を使って、集団主義的傾向と個人主義的傾向がいかに文化変容に関係しているかについて話し合う。学習者に、*Reading Between the Signs* (Mindess, 2014)で説明されている文化変容の程度を決めてもらう。

1. 一般的には、ろう通訳者はこの連続線のどこに位置するか
2. 個人主義的傾向を持つ、効果的なろう通訳者になれる可能性はあるか、ないか？それはなぜか？
3. あなたはこの線上のどこに位置するか？
4. ろう者を中心とした、あるいは聴者を中心とした文化変容は増やすことはできるか、できないか？それはなぜか？

連続線

ろう中心 ←→ 聴者中心
ろうの親、ろう学校　　聴の親、聴の学校
ろう中心の社会活動　　聴中心の社会活動

演習 4

So You Want to be an Interpreter? (Humphrey & Alcorn, 2007)中の、”The Importance of Communication and The Challenge of Mediating ASL and English”（「コミュニケーションの重要性と ASL と英語を繋げる挑戦」）を読んで、クラスで、またはオンラインの話し合いで鍵となる点について議論する。

Relay Interpreting in the 90´s (Bienvenu & Colonomos, 1992)にある、下記のようなコンセプトを復習し、議論する。

1. リレー通訳に必要な4つのスキルとは何か？
2. なぜ自分自身の偏見を調べ、認識することが重要なのか？
3. ろう通訳者に必要な言語的スキルの例を挙げよ。
4. コミュニケーションの巧みな人の要素を定義せよ。例を挙げよ。
5. さまざまなバイリンガル、バイカルチュラルの状況の中で無理なく自然でいられる状態であることがなぜ重要なのか？例を挙げよ。
6. ろう通訳者が通訳実践において以下のコンセプトを理解していることが重要なのはなぜか？
   - マイノリティ集団の力関係
   - 抑圧
   - 言語獲得
   - 通訳過程
   - チーム通訳
7. どのような状況下でろう通訳者が必要になるのか

Teaching Modules for the Classroom: Deaf Interpreter/Hearing Interpreter Teams (NCIEC, 2013)にある、”What It Takes to be a Deaf Interpreter and How Deaf Interpreter/Hearing Interpreter Teams Form”「どうすればろう通訳者になれるのか、ろう通訳/聴通訳のチームはどのように作られるのか」を読んで、議論する。

演習 5

Toward Effective Practice: Competencies of the Deaf Interpreter (NCIEC, 2010)にある基礎力について復習し、議論する。また、付録 A の「ろう通訳者としての能力」も参考にする。

1. あなたは、どういう時に ASL またはその他の手話に接するか
2. ろう者の様々な形のコミュニケーションに接したこれまでの経験を思い出し、述べよ（例えば、家族、友人、同僚、コミュニティのメンバー）
3. あなたの家族、友人、同僚に初めて通訳した頃の経験は、ろう通訳者としてあなたにどう影響しているか。例を述べよ
4. 状況の把握、通訳者、さまざまなコミュニケーション方法についてこれまであなたが苦労した経験を思い出し、例を述べよ。
5. 個人的に差別されたり抑圧されたり、またコミュニケーションや情報アクセスの欠如による不満を持ったりした経験を話し合う。これらのことがろう通訳者としてあなたにどう影響している/しうるか？

演習 6

Toward Effective Practice: Competencies of the Deaf Interpreter (NCIEC, 2010)にある、特殊トレーニングや専門職力の向上の条件を含む、ろう通訳者に必要な言語力、文化・コミュニケーション力について見て、話し合う。また、付録 A の「ろう通訳者としての能力」も参考にする。

1. 付録 A の「ろう通訳者としての能力」を利用して、あなたの言語力を評定してみる。あなたの強みは何か？あなたの課題とは？改善が必要なのは何か？特に、ネイティブ並みになるにはどこを改善すればよいか？
2. 他にも流暢にできる手話はあるか？説明せよ。
3. あなたは ASL の語用論的かつ社会言語学的な特性を自然に活用できるか？
4. ろう、盲ろうの通訳利用者の年齢、ジェンダー、人種と結びつく、ASL のレジスター、ジャンル、バリエーションを広い範囲にわたって巧みにかつ柔軟に通訳できるか？できない場合には、どのようにしてそのような巧みさと柔軟性を身につけることができるか。

演習 7

言語の評価について、付録 C の *American Sign Language, Home Signs, and Visual Gestural Communication* の評価水準を使ってカテゴリーや定義について振り返り、話し合う。

1. 講師の選定したろうの手話話者のビデオをクラスで見せる。3つの評価水準を利用して学習者はその手話話者の言語スキルを評定する。
2. 学習者それぞれの評価を知るためにグループの話し合いに関わる。
3. 提出課題として、学習者は自分のこれまでの経験を共有できるビデオを3つ別々に作成し、それをウェブサイト（ユーチューブ、Vimeo など）にアップロードする。ペア学習をすることで、学習者は自分やペアの相手の言語スキルを評価するために評価水準を使うことができる。
4. 教室内での話し合いを通して、学習者は自分の ASL、視覚的ジェスチャーコミュニケーション、ホームサインの使用について話し合い、そのスキルの評定を議論し、分かったことを共有する。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの活動に積極的に参加する
4. 書面(レポート)や動画の課題を提出する

参考資料

Bienvenu, M., & Colonomos, B. (1992). Relay interpreting in the 90s. In L. Swabey (Ed.), *The challenge of the 90s: New standards in interpreter education* (pp. 69-80). United States: Conference of Interpreter Trainers. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/ uploads/2012/07/Bienvenu.pdf

Humphrey, J. & Alcorn, B. (2007). *So you want to be an interpreter? An introduction to sign language interpreting (4th ed.)*. Everett, WA: H&H Publishing Co., Inc.

Kegl, J., McKinley, F., & Reynolds, D. (2005). *The role of Deaf interpreters: Lessons from the past and a vision for the future.* Interpres, 18(4), 16-18. [Curriculum Resource]

Mindess, A. (2014). *Reading between the signs: Intercultural communication for sign language interpreters (3rd edition).* Yarmouth, ME: Intercultural Press.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Deaf interpreter/hearing interpreter teams.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/ online/

- Unit 1.3– What it takes to be a Deaf interpreter and How Deaf interpreter/hearing interpreter teams form. [ASL translations]. Also retrieved from http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/ presentation/c4eb38f5-392c-44d7-9bd4-7fb363e97e0f

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2010). *Toward effective practice: Competencies of the Deaf interpreter.* Retrieved from http://www.interpretereducation.org/wp-content/uploads/2011/04/ DC_Final_Final.pdf

Road to Deaf interpreting. (2009). *Road to Deaf interpreting training series.* Retrieved from http://roadtodeafinterpreting.webs.com/ [Curriculum Resource]

ASLized. (August 10, 2014). *The benefits of Deaf interpreters.* Retrieved from http://www.deafvideo.tv/235079

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *2007 National Deaf interpreter survey: Work settings.* [Includes video clip]. Retrieved from http://www. diinstitute.org/study-results-2/2007-national-di-survey/work-settings/

第 3 章:通訳モデルと通訳方法

ねらい

通訳モデル、通訳方法を詳しく知る。講義、クラス内での活動や提出課題を通して、学習者は通訳サービスモデルの変遷や、ろう通訳者がさまざまな通訳方法をどう用いるかについて考察する。

能力

5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. さまざまなサービスモデルを用いて通訳の歴史的な変化を説明できる。
2. さまざまな通訳方法を説明できる。

主要課題

1. どの通訳サービスモデルがろう通訳者の仕事を一番反映しているか？どのような場面でか？
2. ろう通訳者がよく使う通訳方法とは何か？どのような状況で使うか？
3. 通訳、トランスリテレーション、翻訳という用語は、ろう通訳者の仕事にどうあてはまるか？

演習 1

次の教材を読んで話し合う

1. How We Approach Our Work in *So You Want to be an Interpreter*? (Humphries and Alcorn, 2007)
2. *Integrating the Interpreting Service Models* (Bar-Tzur, 1999)
3. *Culture Brokers, Advocates, or Conduits: Pedagogical Considerations for Deaf Interpreter Education* (McDermid, 2010)

通訳モデルについて復習し、話し合う

1. ヘルパー(支援者)
2. 案内役/機械
3. 言語ファシリテーター

4. バイリンガルバイカルチュラル媒介者
5. アライ(訳注:理解しあい、協働できる人)

これまで見てきた通訳者について学習者に考えてもらう。使われたモデルを確認しその人たちの仕事について考えを話し合う。また、学習者がさまざまなモデルにトライしてみることができるような一連のロールプレイを作っておく。議論する。

TRAINER NOTE *Interpreting in Vocational Rehabilitation Settings (NCIEC, 2013)はこの取り組みに役立つものである。講師はクラス用にビデオを選んで使える。*

演習 2

Focus Group Results: Deaf Interpreting Processes (NCIEC, 2012)を見て、ろう通訳者が説明しているような、ろう通訳者が使う同時通訳および逐次通訳の方法や心的プロセスについて話し合う。

TRAINER NOTE *演習 2 は同時通訳、逐次通訳という方法の概念を導入できる。講師はこの方法のモデルを示し、学習者に練習の機会を与える。*

演習 3

Interpreting in Vocational Rehabilitation Settings (NCIEC, 2013)などを見て復習、批判的に読み、下記について話し合う。

1. 通訳
2. トランスリテレーション(言語内通訳としても知られる)
3. サイト(テキスト)トランスレーション(原文を見ながらの通訳)
4. ミラーリング(舞台通訳)

DID YOU KNOW? *「ミラーリング」という言葉は、観客の発言をコピーして通訳する時のろう通訳者の仕事として説明するのは適切でない。手指言語使用者からの情報を正確に並行して訳す行為も意味に含める用語にするには、さらに議論を要する。*

学習者は通訳、トランスリテレーション、サイト(テキスト)トランスレーションを使うロールプレイを通して、それぞれのプロセスを実践し、それぞれの実際の適用について話し合う。
ミラーリングと舞台通訳の違いについても述べる。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの活動に積極的に参加する
4. 書面(レポート)や動画の課題を提出する

参考資料

Bar-Tzur, D. (1999). *Integrating the interpreting service models.* Retrieved from http://www.theinterpretersfriend.org/misc/models.html

Humphrey, J. & Alcorn, B. (2007). *So you want to be an interpreter? An introduction to sign language interpreting (4th ed.).* Everett, WA: H&H Publishing Co., Inc.

McDermid, C. (2010). Culture brokers, advocates, or conduits: Pedagogical considerations for Deaf interpreter education. *International Journal of Interpreter Education,* 76-101. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2014/01/pp_76-101_McDermid__Vol22.pdf

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Focus group results: Deaf interpreting processes.* [Includes video clip]. Retrieved from http://www.diinstitute.org/study-results-2/focus-groups/deaf-interpreters/deaf-interpreting-processes/.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Interpreting in vocational rehabilitation settings.* http://www.interpretereducation.org/ tim/video-series/. Boston, MA: NCIEC.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Focus group results: Deaf interpreting processes*. [Includes video clip]. Retrieved from http://www.diinstitute.org/study-results-2/focus-groups/deaf-interpreters/deaf-interpreting-processes/

Jarashow, B. (2011). *Journey into the Deaf world.* [Video].
Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=93RxomTzcws

第 4 章：言語、文化、抑圧とろう社会

ねらい

差別、抑圧、コミュニケーションアクセスの欠如による不満といった個人的経験を考察する。これらはろう通訳者の成長期の経験の一部であることが多い。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、これらの経験がいかにろう通訳者の仕事に影響するかを詳しく学習する。

能力

1.0 基礎力(1.2, 1.3, 1.4)
2.0 言語力、文化、コミュニケーション力(2.3)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2)

目標

本章を履修した学習者は、個人的にも通訳利用者と共通点が多い経験が（例えば差別、抑圧、コミュニケーションアクセスの欠如）、いかにろう通訳の仕事の効果を高めるか、あるいは損なうかという具体的な例を示すことができる。

主要課題

1. ろう通訳者自身が抑圧されているマイノリティの一員であるということはどういうことか？
2. なぜろう者は抑圧されたマイノリティだと考えられるのか？
3. 何がスティグマ(汚名）で何がステレオタイプ(固定概念）なのか、それが抑圧されたマイノリティにどう影響するか？
4. 抑圧がろう通訳者の仕事にどのように影響するか？

演習 1

以下のような講師が選んだ、一人のろう個人として直面する、コミュニケーション、通訳者、状況把握に関する課題についての本やビデオを復習、批判的に読解して話し合う。

1. *Characteristics of Oppressed and Oppressor People in Interpreting* (Baker-Shenk, 1986)
2. *The Sociolinguistics of the Deaf Communities* (Lucas, 1995)
3. *Dysconscious Audism: A Theoretical Proposition* (Gertz, 2008)
4. *NCHDHH: Are You a Victim of White Privilege, Hearing Privilege, or Both?* (Gallaudet, 2007)

5. *Redefining D-E-A-F* (Commerson, 2008)
6. *Journey into the Deaf World* (Jarashow, 2011)

演習 2

スティグマやステレオタイプについて自分の経験を話し合ってもらう。これは、学習者が自分が関わる人たちをどう見ているかを内省する機会となる。下記について考えること。

1. ステイグマ（悪い評価で見られる）やステレオタイプ（既成観念で判断された）の経験はあるか？説明せよ。
2. 他人を無意識に抑圧したことがあるか？議論せよ。。
3. 障害、ろう、デフゲインをどう定義するか？これらの用語について他人はどう見ているか？
4. 自分や他人の見方が、ろう通訳者の効果や実践にどう影響するか？議論せよ。
5. 聴者が好きか？聴者、聴通訳者とはどのような関係にあるか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの活動に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)や動画の課題を提出する。

参考資料

Baker-Shenk, C. (1986). Characteristics of oppressed and oppressor peoples: Their effect on the interpreting context. In M. McIntire (Ed.), *Interpreting: The art of cross cultural mediation. Proceedings of the Ninth National Convention of the Registry of Interpreters for the Deaf* (pp. 43-54). Silver Spring, MD: RID Publications.

Commerson, R. (2008). *Redefining D-E-A-F.* [Video]. Master's thesis. Washington, DC: Gallaudet University. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=JH0n342f9lA&list=PL0E80FFAC6FA77C76

Gallaudet University. (2007). *NCHDHH: Are you a victim of white privilege, hearing privilege, or both?* [Video, 53:50-58:43]. Retrieved from http://videocatalog.gallaudet.edu/?video=16649

Gertz, G. (2008). Dysconscious audism: A theoretical proposition. In Bauman, H-D.L. (Ed.), *Open your Eyes: Deaf studies talking.* (pp. 219-234). Washington, DC: Gallaudet University Press.

Jarashow, B. (2011). *Journey into the Deaf world.* [Video]. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=93RxomTzcws

Lucas, C. (Ed.). (1995). *The sociolinguistics of the Deaf communities.* Washington, D.C.: Gallaudet University Press.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Oppression: Introduction and panel discussion.* [Videos]. Retrieved from https://vimeo.com/104122969 and https://vimeo.com/104121343 respectively.

- Experiences with oppression: IEP session by Clark S. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104093026
- Experiences with oppression: Courtroom process by Tester, C. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104093027

National Consortium of Interpreter EducationCenters. (2014). *Experiences with oppression: IEP session by Clark S.* Retrieved from https:// vimeo.com/104093026

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Experiences with oppression: Courtroom process byTester, C.* Retrieved from https://vimeo.com/104093027

第１編
第4章

National Consortium of Interpreter Education Centers.(2014).
Oppression: Introduction and panel discussion.
[Videos]. Retrieved from https://vimeo.com/104122969 and https://vimeo.com/104121343 respectively.

Oppression: Introduction by Clark, S.; Panel discussion by (L-R) Tester, C., Diaz, R., Schertz, J., Napier, C., and Forestal, E.

第 5 章：ろう通訳者？それともアドボケイト（代弁者）？

ねらい

ろう通訳者とアドボケイト（代弁者）の役割と責任の違いについて理解を深める。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、ろうや盲ろうコミュニティにおける今の自分の役割や、ろう通訳者としての今後の役割について自分の考えを明確にする。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.3)
4.0 通訳実践力(4.8)

目標

本章を履修した学習者は：

1. ろう通訳者とアドボケイトの役割や責任の違いを知ることができる。
2. 自分の実力を分析し、通訳者の役割、アドボケイトの役割のどちらを果たす方がよいか決める。
3. コミュニケーションアクセスを確実にするろう通訳者の職務や責任の範囲内で、適切なアドボカシーとしての役割が何かを説明することができる。

主要課題

1. アドボカシー（訳注：理解し、権利を擁護する）とはどういうことか？
2. ろう通訳者の仕事の範囲にろう、盲ろうの通訳利用者のアドボカシーも含まれるか？
3. ろう通訳者とアドボケイト（権利擁護者）の役割や責任で似ているところ、違うところは何か？
4. あなたはろう通訳者、アドボケイト、どちらの役割を担うのがよいか？

演習 1

クラスで話し合う前に、学習者は以下のものを見ておくこと。

1. Advocating for Yourself and Others in *Deaf Self-Advocacy Training Curriculum Toolkit* (NCIEC, 2012)
2. *Use of a Certified Deaf Interpreter* (RID, 1997)
3. *Professional Sign Language Interpreting* (RID, 2007)

アドボカシーの概念について、またそれがろう通訳者にどう影響するかについて話し合う。

1. アドボカシーとは何か。
2. アドボカシーはろう通訳者の仕事の一部か。
3. あなたはろう通訳者になりたいのか、それともアドボケイトになりたいのか。
4. ろうや盲ろうコミュニティは狭い。専門職としてまたはコミュニティの一員として、あなたには他にどんな役割があるか（例；組織、クラブ、団体などで）？あなたのその役割はろう通訳者としての仕事にどう影響するか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Advocating for yourself and others. In Deaf self advocacy training curriculum toolkit (2nd edition), Trainer version.* Boston, MA: NCIEC.

Registry of Interpreters for the Deaf (1997). *Standard practice paper: Multiple roles of in interpreting.* Retrieved from http://rid.org/about- interpreting/standard-practice-papers/ [Curriculum Resource]

Registry of Interpreters for the Deaf (2007). *Standard practice paper: Professional sign language interpreting.* Retrieved from http://rid.org/ about-interpreting/standard-practice-papers/

Registry of Interpreters for the Deaf (1997). *Standard practice paper: Use of a certified Deaf interpreter.* Retrieved from http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/

第 2 編：ろうコミュニティ内の人種、文化の多様性

本編と各章の概要

概要

本編では、アメリカのろうコミュニティ、特に有色人種のろう者の人種的文化的多様性を扱う。いかに偏見やステレオタイプが作られるか、自己分析し、これらの要因がいかに自分のろう通訳者の仕事に影響するかを考える。また、ろうの人種的文化的集団を代表する様々な組織を調べ、さらに自分の資質を向上させる。

TRAINER NOTE *本編では、人種の異なる人たちを相手に仕事をする際の独特な配慮に焦点を当てる。これには彼らが持っている伝統、信条、文化的慣習も含む。他の文化（例えば盲ろう、LGBT、高齢者のコミュニティなど）は対象としていない。*

ねらい

アメリカのろうコミュニテイの人種的文化的多様性についての理解を深める。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、いかに偏見やステレオタイプが生じるか、さまざまな人種のろう者を相手に仕事をする時にそれらが及ぼす影響、有色人種のろう者と効果的なやりとりをするための方略について検証する。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.2, 2.3, 2.4, 2.6.1, 2.6.4)
3.0 通訳資料者のニーズを把握する力(3.2, 3.4)
4.0 通訳実践力(4.5.3, 4.5.4)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本編を履修した学習者は：

1. 効果的なコミュニケーションのために、文化的行動、価値観、慣習、ディスコースの特徴やスタイルについて知り、交渉することができる。
2. ろうの有色人種の支援団体を知ることができる。

3. 既存のステレオタイプ や偏見を知ることができる。
4. 個人のステレオタイプ や偏見を知ることができる。
5. 有色人種のろう者を相手に効果的に仕事をすることができる。

事前に必要な知識とスキル

第2編

第1編　ろう通訳者の過去、現在、未来

アプローチと順序

読書課題、ビデオ、発表スライド、クラス内での練習やオープンダイアローグを行う活動を含め、本編の 5 つの章に沿って順序よく指導するのがよい。講師がそれを行うことで、また関連資料を自宅学習の課題として補うことで、学習者がろう通訳の効果的な実践に必要で重要な概念を理解できるようになる。

第1章　人種的文化的多様性
第2章　文化の違いについて調べる
第3章　偏見やステレオタイプについて調べる
第4章　移民と難民
第5章　ろう通訳者として必要な知識とスキル

National Consortium of Interpreter Education Centers (2014). *Reflections on cultural & religious diversity by Peterkin, L.G.* Retrieved from https://vimeo.com/104122971

第 1 章: 人種的文化的多様性

ねらい

アメリカのろうコミュニティの人種的文化的多様性について知り、考えることができる。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、有色人種のろう者の支援団体について学ぶ。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.3)
3.0 通訳利用者を評価する力(3.4)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.3)

目標

本章を履修した学習者は:

1. アメリカのろうコミュニティに存在する、人種的文化的に異なる集団について少なくとも 3 つ、説明できる。
2. 有色人種のろう者がコミュニテイ内で直面する少なくとも 2 つの問題を挙げることができる。
3. 国内の有色人種のろう者の支援団体を少なくとも3つ挙げることができる。

主要課題

1. 有色人種のろう者を支援するために設立された団体は、被支援者たちのニーズに対しどのように取り組んでいるか？どのようにしたら被支援者にさらに十分サポートできるか？
2. 有色人種のろう者の支援団体はろう通訳者の仕事をサポートするために何ができるか
3. 有色人種でないろう通訳者が、例えば NBDA（訳注：黒人ろうの団体）や NCHDHH（訳注：英語、スペイン語、ASL の3カ国語通訳者団体）のような団体に参加することで彼らの文化についてどのように知識を深めることができるか？
4. 個々人がどんなステレオタイプも偏見も持たないということは可能か？

演習 1

Deaf Plus: A Multicultural Perspective (Christensen, 2000)の中の Exploring Students' Personal Cultures を読む。以下について話し合う。

1. ろうコミュニティにはどんな民族文化があるか。

2. 有色人種のろう者を支援するためにどんな団体があるか。
3. これらの団体は移民や難民特有の問題にどう取り組んでいるか。
4. あなたはどの民族に属しているか。
5. もし該当するのであれば、あなたは有色人種としてどんな経験をしてきたか。
6. 自分とは違う人種のろう者の通訳をしたことがあるか？そうであれば、自分の経験をもとに、有色人種のろう者の通訳をするろう通訳者に参考になるような見解はあるか？

DID YOU KNOW? *デフプラス (Deaf Plus) という言葉は、ろうであるだけでなく、医学的、身体的、心的、教育的あるいは社会的に困難がある者を指す。*

演習 2

Appendix B の組織比較分析ワークシートを活用して、下記にあるろうコミュニティの中の民族集団を支援する団体を 3 つ調べる。

- Council de Manos（訳注：NCHDHH の現在の名称）
- Mano a Mano（訳注：英語、スペイン語、ASL の3カ国語通訳者団体）
- 全米黒人通訳者同盟
- 全米アジアろう会議
- 全米ろう協会
- 全米ろう黒人団体
- RID（訳注：全米登録手話通訳者協会）
- Sacred Circle（訳注：宗教団体）

この学習を行うことで、これらの団体の目的、支援内容、ろう通訳者をサポートする方法、そして、これらの団体から通訳を依頼された時のろう通訳者の心構えについてはっきりと知ることができる。

同僚や他の専門職の人との交流も含め、これらの団体や関連団体を通じて専門力を高める活動をすることの価値について、話し合ってもらう。

学習者には、ろう通訳者のコミュニティでの専門的な学習に参加し、通訳、言語学、文化の研究や調査、また、他の主題領域（例えば、医学、法学）での最新の動向に遅れないようにしてもらう。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Christensen, K. (2000). Exploring students' personal cultures. In *Deaf plus: A multicultural perspective* (pp. 221-223). San Diego, CA: DawnSignPress.

Mano a Mano. (n.d.) *Mano a Mano*. Retrieved from http://www.manoamano-unidos.org/

National Alliance of Black Deaf Interpreters. (2008). *National Alliance of Black Interpreters.* Retrieved from http://www.naobidc.org/

National Asian Deaf Congress. (2012). *National Asian Deaf Congress.* Retrieved from http://www.nadcusa.org/

National Association of the Deaf. (2013). *National Association of the Deaf*. Retrieved from http://nad.org/

National Black Deaf Advocates. (2013). *National Black Deaf Advocates*. Retrieved from http://www.nbda.org/

National Council of Hispano Deaf and Hard of Hearing. (n.d.). *NCHDHH renamed its organization to Council de Manos (2015).* Retrieved from http://www.councildemanos.org/

Registry of Interpreters for the Deaf. (2014). *Registry of Interpreters for the Deaf.* Retrieved from http://www.rid.org/

Sacred Circle. (2010). *Sacred Circle.* Retrieved from http://www.deafnative.com

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Reflections on cultural & religious diversity by Napier, C. Retrieved from https://vimeo.com/104047057

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Reflections on cultural & religious diversity by Forestal, E. Retrieved from https://vimeo.com/104121347

第 2 章：文化の違いについて調べる

ねらい

本章では、文化の違いが、いかに個人の信条や行動に影響を与えるかについて知る。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、多様な文化を持つ通訳利用者に効果的に通訳するための課題や方策を、学習者に知ってもらう。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.2, 2.3, 2.4. 2.6.1, 2.6.4)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.3, 3.4)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.3)

目標

本章を履修した学習者は:

1. 異なる文化の人と交流した個人的な経験を 2 つか 3 つ挙げることができる。
2. 異なる文化を尊重し続けるための 4 つの方法を挙げることができる。
3. 自分たちとは違う文化の人を相手に仕事をする時の課題を最低 2 つ述べることができる。

主要課題

1. ろう通訳者にとって、文化の違う人の通訳をする前にその人たちの文化について理解することが大切なのはどうしてか？
2. その人たちの文化圏以外のところで通訳する際、ろう通訳者にとって何が課題となるか？
3. ろう通訳者は、自分と異なる人種、異なる文化の通訳利用者の信条や慣習を尊重しているということをどうやって示すか？
4. ろう通訳者にとって、マイノリティグループの集団としての動き方やろうコミュニティー般に対する抑圧の影響を理解することが重要なのはどうしてか？有色人種のろう者の場合はどうか。

TRAINER NOTE 学習者に大切なのは、文化的価値観、想定、行動の違いについて議論する際に、それらを理解し、自由に討論することである。

演習 1

Deaf Plus: A Multicultural Perspective (Christensen, 2000)にある、Exploring Students' Personal Cultures(「学生たち個々の文化の探求」)を、学習者に以下の指針にしたがって引き続き、分析と議論をしてもらう。

1. 言語的行動
   - アクセント、方言、手話表現の選択の中から例を選ぶ。例えば、南部の黒人ろう者のアクセント。彼らの手話にはアフリカ系アメリカ人の口語からの借用があるかもしれない。
   - 追加的な学習として、*The Hidden Treasure of Black ASL* (McCaskill et al., 2011)にある語彙的変異についても読んでもらう。

2. 非言語的動作
   - 顔の表情、ジェスチャー、空間の使用、アイコンタクトの例を示す。学習者に例を出してもらう。

3. 時間の見方
   - ろうと聴者、黒人と白人の時間の見方の違いについて例を示す。学習者に例を出してもらう。

4. 思考と認知のプロセス
   - 救命ボードに 3 人がいてそこから一人が踏み出そうとしているスライドを見せる(付録 F にある第 2 編のスライド参照)。
   - 初めにどう思ったか話してもらう。このプロセスにおいて、いかなる選別も適性審査も考え方に対する分析も行わないことを説明する。
   - これは、会社の責任者が自分の従業員に「泳げ」または「救助が来るのを待て」と言っているようなイメージであることを説明し、話し合ってもらう。

5. 宗教的あるいは精神的な帰属
   - 通訳時に、信条、儀式、伝統がにいかに決定に影響するか説明する。学習者にその例を挙げてもらう。

6. 慣習
   - ネイティブアメリカンパウワウとアジアの葬儀のビデオクリップ(NMIP, 2000)を使って、祝い事、祝日、祭典での自分の経験が通訳場面での決定や行動にいかに影響するか話し合う。学習者に例を出してもらう。

7. 優位な民族的アイデンティティ
   - 自己意識、出身国との関わり、集団内での人種の重なり度合いがいかに通訳場面での決定や行動に影響するか、上で示した二つのビデオ教材（NMIP, 2000）を使って説明する。学習者にも例を出してもらう。

8. 意思決定と行動する時の態度
   - 個人主義的な態度（西欧文化）と集団的、共感的態度（非西欧文化）が通訳場面での決定や行動にいかに影響するか話し合う。学習者にも例を挙げてもらう。

上記の箇条から一つ選び、話し合ってもらう。

1. 学んだことは自分の文化とどう関連づけるか？
2. この情報を他の文化にどう関連づけられるか？
3. この情報はなぜ通訳者にとって重要なのか？
4. この情報はろう通訳者としての自分にどう役立つか？

演習 2

Deaf Plus: A multicultural Perspective (Christensen, 2000)からとった 5 つの事例ワークシートを読んでもらう。*Demand Control Schema* (Dean & Pollard, 2013)を紹介する。

デマンド（仕事の要求）:

1. *現場の環境*—その現場の環境、あるいは状況が理由で起きる課題。 例：物理的な状況、座席、専門用語
2. *人間関係*—通訳利用者と通訳者の関係 例：通訳を利用するのは聴者かろう者か、聴の利用者/ろうの利用者、聴の利用者/聴の通訳者
3. *パラ言語*—通訳利用者の表現方法 例：速度、大きさ、手話のスタイル、アクセント
4. *内的なもの*—通訳者本人に起因する課題 例：安全、通訳の出来栄え、責任などへの不安や懸念

TRAINER NOTE *EIPI という略語は、上記に示したデマンド（課題）を頭文字でまとめたもので、「Demand Control Schema」(Dean & Pollard, 2013) で説明されている。*

コントロール（通訳者の裁量）:

1. *任務前*—教育、経験、業務の準備
2. *任務中*—承認→自分自身を励ます、RID 専門家行動規範、通訳モデル
3. *任務後*—指示→スーパービジョン（指導）を受ける、報告、フォローアップ

Demand Control Schema (Dean & Pollard, 2013)を参考にして、付録 B にある 5 つの事例から、ある通訳利用者の通訳をする時の方策を学習者に作ってもらう。その利用者の通訳をする時に生じるかもしれないデマンドを分析するよう指導する。その利用者に対する通訳がうまくいくためには、どのようなコントロールが必要か？

下記について話し合ってもらう。

1. 課題について、また談話に関わる人たちの態度や行動が、談話の通訳にどのような影響を与えるか説明する。
2. 生じうるコミュニケーションの壁や人間関係の対立について述べる。
3. コミュニケーションの壁を減らし、人間関係における対立をうまく扱うためにできる方法を示す。

演習 3

From the Deaf Multicultural Perspective (NMIP, 2000)を見て、その発表者たちについて学んだことを書くか、話し合ってもらう。

文化が同じでない通訳者と仕事をすることについても話し合う。*Demand Control Schema* (Dean & Pollard, 2013)を参考に、下記について話し合う。

1. それぞれの通訳業務において、通訳者はどのようなデマンドに直面したか？
2. それに対し、どのコントロールを用いればよかったか？
3. この活動から何を学んだか？
4. ある業務を受けるか否かを決める時この活動がどう役に立つか？
5. あなた、あるいはあなたが知っている人で、同じような経験をした人がいるか。いるならば、通訳をより効果的にするためにどの学習を利用できたか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Christensen, K. (2000). Exploring students' personal cultures. In *Deaf plus: A multicultural perspective* (pp. 221-223). San Diego, CA: DawnSignPress.

Dean, R.K., & Pollard, R.Q. (2013). *The demand control schema: Interpreting as a practice profession.* CreateSpace. See also http://demandcontrolschema.com

Dean, R. & Pollard, R. (n.d.). *Introduction to demand control theory.* [Videos]. Retrieved from http://www.interpretereducation.org/aspiring-interpreter/mentorship/mentoring-toolkit/ mentoring-toolkit-videos/

McCaskill, C., Lucas, C., Bayley, R., & Hill, J. (2011). *The hidden treasure of Black ASL: Its history and structure.* Washington, DC: Gallaudet University Press. See also http://blackaslproject.gallaudet.edu/BlackASLProject/Welcome.html

National Multicultural Interpreter Project. (2000). *Cultural and linguistic diversity series: Life experiences of Donnette Reins, American Indian, Muskogee Nation.* [ASL with English voiceover]. El Paso, TX: El Paso Community College. Retrieved from http://ncrtm.ed.gov/. Instructional supplement retrieved from http://ncrtm.ed.gov/. *This curriculum contains resources from The National Clearinghouse of Rehabilitation Training Materials (NCRTM).*

National Multicultural Interpreter Project. (2000). Cultural and linguistic diversity series: Life experiences of Donnette Reins, American Indian, Muskogee Nation.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Reflections on cultural & religious diversity by Beldon, J. Retrieved from http://vimeo.com/104121348

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Reflections on cultural & religious diversity by Peterkin,
L.G. Retrieved from https://vimeo.com/104122971

第 3 章：偏見とステレオタイプについて調べる

ねらい

本章では、アメリカのろうコミュニティ内のさまざまな人種的マイノリティに対する、自分の個人的な偏見やステレオタイプを調べることができる。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、このような偏見やステレオタイプが、文化の異なる通訳チームとの仕事を含む、ろう通訳者としての仕事にどう影響を及ぼすかについて、理解をさらに深める。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.2, 2.3, 2.4, 2.6)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.4)
4.0 通訳実践力(4.1, 4.2, 4.5)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.3)

目標

本章を履修した学習者は：

1. 偏見やステレオタイプを定義し、個人的な経験を説明できる。
2. 偏見やステレオタイプがいつ、どのように通訳プロセスの妨げになりうるかに関する例を 2、3 つ挙げることができる。
3. 通訳依頼を受けた時に適切な選択ができる。
4. 通訳プロセスにおいて偏見やステレオタイプの影響を減らす方策を少なくとも 2 つ述べることができる。

主要課題

1. 偏見やステレオタイプは何から生じるのか？
2. 個人の偏見を知るのはなぜ重要なのか？
3. 偏見やステレオタイプはどのように通訳プロセスに影響するのか？
4. 偏見やステレオタイプ（自分のも他人のも）が通訳に影響したり、妨げとなる時に、どのような方策が効果的か？

TRAINER NOTE *偏見やステレオタイプの概念について、学習者に理解し、自由に討論することの大切さを強調すること。本章を学ぶ際には、他人の意見を尊重し、開かれた気持ちを持ち、学びとる姿勢で、積極的に参加し、安全でオープンな学びに協力し、客観的な立場でコメントを受け入れる、ということを念を押して伝える。*

演習 1

偏見やステレオタイプについて、それぞれのことばの定義を含めて、話し合ってもらう。偏見は否定的な意味だけなのかを問う。

- 偏見ーー方的、相手に有利な、または不利な偏見
- ステレオタイプー簡略化しすぎた、または標準化したイメージ、否定的

DID YOU KNOW? *ステレオタイプや偏見が無意識に起きるのを避けるのは不可能かもしれないが、そのことを意識し、正しい行動をとるのは確実に可能である。Test Yourself for Hidden Bias Online (Teaching Tolerance, n.d.)に詳細がある。*

演習 2

Redefining D-E-A-F (Commerson, 2008)を見て話し合う。「スチュアート・ホール」と「相反するステレオタイプ」の 2 つのビデオは教室内またはオンラインでの話し合いの課題にできる。両方のビデオで使われる用語について話し合う。（例：「限られた情報」「変化に対する無力さ」

演習 3

この学習指導の目的は、肯定的または否定的な偏見の両方の影響を受けたときにどのように感じるかについて、指導者が学習者に観察させ、理解させることにある。もともとは有色人種のろう通訳指導者がこの指導の先駆者であった。学習者、とりわけ人種的マイノリティでない者が、偏見を受けるとどう感じるか、直接体験してもらった。だからこそ、指導者がこの体験演習を気持ちよく行い、学習者に対し、有色人種の人たちが受ける偏見の影響を印象付ける方法を工夫することが必須なのである。

アトランダムに、2, 3 人の学習者を慎重に選ぶ。質問やコメントをその 2 人だけに向け、関心を集中させる。ほかの学習者は加わらないようにして、選択された学習者のみに集中する

TRAINER NOTE *注意＝この活動は始めから終わりまで15-20分以上かからないようにする。参加していない学習者が居づらくなったとき止める。この演習内容についてのビデオとして、Napier, C.によるReflections on Cultural & religious Diversity (NCIEC, 2014)も参照のこと。*

次に、グループで何が起こったのか、それはなぜか、を話し合う。アトランダムに否応なしに除外されるとどういう気持ちになるか、学習者に聞くことでこの目的を知ってもらう。

DID YOU KNOW? *個人的な偏見を自覚するようになると、与えられた状況下で行動をとったり反応したりする前に自分を調整し偏見を取り除くことができる。*

演習 4

Characteristics of Oppressed and Oppressor Peoples: Their Effect on the Interpreting Context (Baker-Shenk, 1986)を読んで話し合う。例えば押しのけられる、劣等感を持つ、権利・機会・サービスを否定される、などさまざまな抑圧について考える。

Life Experiences of Donette Reins (NMIP, 2000)を見て話し合う。このビデオに関連する質問をして、学習者からドネットが成長する過程で経験した抑圧についてどう感じていたかについて答えてもらう。

Are You a Victim of White Privilege, Hearing Privilege, or Both? (Gallaudet, 2007)を見て話し合う。この目的は、学習者が特権の意味を理解できるようになることである。

学習者の、ろうコミュニティの抑圧の歴史や意味に関する理解を下記にどう活かすか、話し合いをしてもらう。

1. 通訳場面でのそこにいる人たちの力関係の分析
2. 通訳場面内の力関係における利用者の立場と、それが通訳決定や方略にどう影響するかを確定

DID YOU KNOW? *抑圧は常に周りから見えるものとは限らない。Microaggressions（マイクロアグレッション、自覚のない差別）は意識的なまたは無意識の無視、軽視といった、個人の言動に現れるものである。マイクロアグレッションについて考察し話し合う。もっと学びたければPracticing Awareness of Microaggression (2013)をオンラインで参照のこと。*

演習 5

付録 B のワークシートを積極的に使って立場の優劣確認（Privilege Walk）に取り組んでもらう。その後に下記の話し合いを行う。

1. 何が起きたのか？
2. この作業でどう感じたか？
3. この作業をしてあなたの考えはどんなだったか？
4. この作業から何を学んだか？
5. ここで得た情報で今後何ができるか？

演習 6

立場の優劣確認（Privilege Walk）についての話し合いの後に、下記について話してもらう。

1. 民族文化や言語グループでは、あなたが最も快適に作業できたのはどの文化、グループか？
2. 民族文化や言語グループでは、作業であなたが一番快適でなかったはどの文化、グループか？
3. これまで偏見やステレオタイプを経験したことはあるか？あるならば、あなたはどう反応したか？
4. 他の人やグループに偏見やステレオタイプを示したことはあるか？説明しなさい。
5. あなたに対する人種や聴力に基づく偏見を乗り越えるために何ができるか？
6. 偏見やステレオタイプを目撃したらあなたは行動すべきか？
7. 自分の個人的な偏見やステレオタイプを減らすにはどうすればよいか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Baker-Shenk, C. (1986). Characteristics of oppressed and oppressor peoples: Their effect on the interpreting context. In M. McIntire (Ed.), *Interpreting: The art of cross cultural mediation. Proceedings of the Ninth National Convention of the Registry of Interpreters for the Deaf* (pp. 43-54). Silver Spring, MD: RID Publications.

Commerson, R. (2008). *Redefining D-E-A-F.* [Video]. Master's thesis. Washington, DC: Gallaudet University. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=JH0n342f9lA&list=PL0E80FFAC6FA77C76

Gallaudet University. (2007). *NCHDHH: Are you a victim of white privilege, hearing privilege, or both?* [Video, 53:50-58:43]. Retrieved from http://videocatalog.gallaudet.edu/?video=16649

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Reflections on cultural & religious diversity by Napier, C.* [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104047057

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Interpreting in vocational rehabilitation: Faces of Deaf consumers.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/

- Characteristics of oppressed and oppressor peoples: Their effect on the interpreting context. (Baker-Shenk, 1986).

National Multicultural Interpreter Project. (2000). *Cultural and linguistic diversity series: Life experiences of Donnette Reins, American Indian, Muskogee Nation.* [ASL with English voiceover]. Retrieved from http://ncrtm.ed.gov/. El Paso, TX: El Paso Community College. Instructional supplement retrieved from http://ncrtm.ed.gov/. *This curriculum contains resources from The National Clearinghouse of Rehabilitation Training Materials (NCRTM).*

Practicing awareness of microagressions. (June 1, 2013). [Blog post]. Retrieved from http://littlelaughter.wordpress.com/2013/06/01/practicing-awareness-of-microaggressions/

Teaching Tolerance. (n.d.). *Test yourself for hidden bias.* Retrieved from http://www.tolerance.org/activity/test-yourself-hidden-bias

Gallaudet University. (2007). NCHDHH: Are you a victim of white privilege, hearing privilege, or both? [Video, 53:50-58:43]. Retrieved from http://videocatalog.gallaudet.edu/?video=16649

Commerson, R. (2008). Redefining D-E-A-F. Master's thesis. Washington, DC: Gallaudet University. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=JH0n342f9lA&list=PL0E80FFAC6FA77C76

第 4 章:移民と難民

ねらい

本章ではろうの移民の現状について、また、難民や移民の経験が、ろうコミュニティを含め一般のコミュニティにどう影響するかについて、学習者が考察できるようになる。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、難民や移民の経験についての自分たちの態度、また、それらがろう通訳者としての効果にどう影響するかについて、学習者に考えてもらう。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.3)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.2, 3.4)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.3)

目標

本章を履修した学習者は:

1. ろうの移民と難民の経験を比較、対比できる。
2. ろうコミュニティ内の主流派は、現在、ろうの移民、難民とどう影響し合っているか説明できる。
3. ろうコミュニティ内の主流派が体験するのとはまた違う、ろう移民や難民が直面する特殊な問題を 2 つ 3 つ挙げることができる。
4. 移民や難民に対する個人の偏見やステレオタイプについて考察できる。
5. 有色人種のろう者、とりわけ移民や難民を支援する団体が提供できる 3 つの主要なリソース(資源)と、それらのリソースがろう通訳の効果に果たす役割について説明できる。

主要課題

1. 移民はろうコミュニティ内の多様性にどう寄与してきたか?
2. 難民はろうコミュニティ内の多様性にどう寄与してきたか?
3. 難民と移民の共通点は何か?
4. 難民と移民はどう違うか?(1 例として市民権など)
5. ろうや盲ろうの移民や難民を支援する団体は、あるとすればどういう団体か?

演習 1

移民と難民という用語について検討し、話し合う。米国国勢調査事務所は、ろう、盲ろう、難聴の移民、難民を含む居住者数を表示していない。

1. 米国では難民はどう見られているか？
2. 上記の質問を念頭に置いて、米国は移民または難民であるろう者をどう見ているか？
3. ろう通訳者として、移民や難民に関する個人的な見解を述べよ。

演習 2

Deaf Plus: A Multicultural Perspective (Christiansen, 2000)の中の移民と難民についての章を見て話し合う。

1. 移民と難民は何が似ているか？どう違うか？
2. このうちのどちらかあるいは両方の人たちを相手に通訳した経験について述べる。

演習 3

Deaf students New to US find their footing (Powers, 2012) と *Seeking freedom, en masse* (Olson, 2011)を見る。それぞれのビデオを見て考えたこと、感想を話し合う。

演習 4

Interpreting in Vocational Rehabilitation Settings (NCIEC, 2012)にある、ハイチからのビクター、ソマリアからのモハメド、メキシコからのクリサンタ、3 つの人生経験それぞれを見て話し合う。*Deaf Immigrants Dream on Ellis Island* (Doane, 2010)を読んで、ビデオを見る。それぞれのビデオについて考えたことや感想を共有する。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Christensen, K. (2000). Exploring students' personal cultures. In *Deaf plus: A multicultural perspective* (pp. 221-223). San Diego, CA: DawnSignPress.

Doane, S. (2010, July 5). Deaf immigrant's American dream on Ellis Island [article & video]. *CBS News*. Retrieved from http://www.cbsnews.com/news/deaf-immigrants-american-dream-on-ellis-island/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Interpreting in vocational rehabilitation settings.* http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/. Boston, MA: NCIEC.

Olson, D. (2011). Seeking freedom, en masse. *The Press-Enterprise*. Retrieved from http://www.pe.com/articles/deaf-599498-asylum-people.html

Powers, M. (2012, March 12). Deaf students new to US find their footing. *The Boston Globe*. Retrieved from http://sbilingual.wordpress.com/2012/03/12/deaf-students-new-to-us-find-their-footing/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). Stories of immigrant experiences (Victor/Haiti) in *Interpreting in vocational rehabilitation settings*. Boston, MA: NCIEC.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). Stories of immigrant experiences (Crisanta/Mexico) in *Interpreting in vocational rehabilitation settings*. Boston, MA: NCIEC.

第 5 章：ろう通訳者に必要な知識とスキル

ねらい

本章で、学習者は、アメリカのろうコミュニティ内の文化的にも人種的にも異なる人たちを相手に、効果的に通訳するための知識やスキルを見つけ、考察することができるようになる。講義、クラス内での活動、さまざまな場での討議・討論を通して、多様な文化を持つ人たちを相手に効果的に通訳するのに役立つリソース（材料）を見出す。

さらに学習者は、現時点で自分たちが人種的に多様な人と働く時に持っている知識を確認し、それがろう通訳者としての仕事に影響を与えるかを知る。本編の第 1 章から第 4 章までに出てきた、人種的文化的な違い、偏見、ステレオタイプ、移民、難民に関する概念を考慮した上で、それらの情報の理解が自分たちのろう通訳者としての行動をどう導くかを議論する。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.3)
3.0 利用者のニーズを把握する力(3.4)
4.0 通訳実践力(4.5)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.3)

目標

本章を履修した学習者は：

1. さまざまな文化のろう者を相手に通訳する際、肝要な文化的価値観や慣習を知ることができる。
2. さまざまな人種のろう者を相手に効果的に通訳する方略を述べることができる。
3. さまざまな人種のろう者に加え、移民、難民のろう者を相手に効果的に通訳する方略を説明できる。
4. さまざまな人種のろう者を相手に通訳する時存在する課題と可能な解決策を決定するのに、デマンドコントロール・スキーマを利用することができる。

主要課題

1. ろうコミュニティにはどんな人種がいるか？
2. ろう通訳者として、異なる人種のろう者を相手にしたときどのような経験をしたか？
3. その経験はろう通訳者としての仕事の効果にどう影響した/するか？

4. ろう通訳者として異なる人種の通訳利用者を相手に通訳ができるような、どんな知識やスキルをあなたは持っているか？

演習 1

Introduction and Generalist Competencies (NCIEC, 2012)と *Use of a Certified Deaf Interpreter* (RID, 1997)を見て、話し合う。

学習者たちを小グループに分ける。それぞれのグループは、異なる人種や文化のろう者の通訳をするのにどの分野や技能を用いるか選択し、なぜそれにしたのか説明できるようにする。各グループはクラス全体にわかったことを発表する。

演習 2

Life Experiences of Donnette Reins (NMIP, 2000)の補助教材を復習することで作業の準備をする。学習者に、NMIP のビデオを見てから言語学の用語や以下の課題について話し合いをすることを説明する。

1. ドネットがアメリカンインディアンとして成長していく中で経験した抑圧というのはどういうものか？
2. 彼女が成長する中で優位な文化は何だったか？
3. その文化は変わったか？そうならば、どのように？
4. 彼女の使った手話の中で異なっていると見られた手話は何か？
5. アメリカンインディアンのろう文化以外でそのような手話の使用は認められるか、否か？それはなぜか？
6. ドネットが好む手話や文化的に独特なジェスチャーの使用は通訳場面にどう役立つか？
7. このビデオを観ることはろう通訳者にどう役立つか？
8. アメリカンインディアンのろう者に通訳するときに何を頭に入れておかなければいけないか？
9. ある特定の民族的/文化的集団を相手にするろう通訳者にデマンドコントロール・スキーマの活用はどう役立つか? (Dean & Pollard, 2013)

DID YOU KNOW? *アメリカのろう文化では、会話中に視線をそらさないようにするのが礼儀でありそれは言語学的にも必要とされている。しかし、地位の高い人（年配者、上司、指導者など）と目を合わせないようにすることが尊敬のしるしという文化もある。これを知った上で、ろう通訳者はこのようなパラリンガル上の要求にも対応するよう対策を考える必要がある。*

From the Deaf Multicultural Perspective (NMIP, 2000)でネイティブアメリカンの儀式やアジアの葬儀のビデオを観る。デマンドコントロール・スキーマを活用して、学習者と話し合いを行う。

1. ろう通訳者が自分の文化とは異なる場面で通訳を行う際認識しておかなければならない課題や問題（デマンド）とは何か？
2. 二つのビデオで、通訳者が犯した文化的言語的過ちは何だったか？
3. キューバ手話（コントロール）を知る手話通訳者を利用したことはどう役立ったか？
4. 文化行事で効果的な通訳するためのロジスティックな考慮（コントロール）について説明せよ。
5. あなたは他の手話ができるか？他の文化を知っているか？
6. 自分にとって文化的言語的にも馴染みのある場以外で行われるイベントや集まりでの通訳を依頼された場合、あなたはどうするか？どのような課題がありうるか。その課題に対してどのようなコントロールを使うことができるか。
7. 人種的に異なる人たちを相手に通訳するのに役立つリソースとは何か？

演習 3

Reflections on Cultural & Religious Diversity by Peterkin, L. G. (NCIEC, 2014) を見て、話し合う。

1. リリアンがこの通訳利用者に通訳するときに行った文化的調整とは何か？
2. この人種集団を相手にしたリリアンの通訳で役立った、彼女の言語外知識（ELK）とは何か？
3. 自分の属する人種内、あるいはそれ以外の集団の両方で通訳する時に、あなたはどういう調整ができるか？

TRAINER NOTE *演習 3 は、教室内でも家での課題としても行える。学習者は書面あるいはビデオを通して回答や意見を述べる。*

演習 4

ここでは、付録 B のケーススタディワークシートを使って、多様な通訳利用者を相手に通訳する方略について話し合う。通訳利用者に対して複雑な概念伝えるために、空書きや描画、マイム、小道具、など代替できる視覚的コミュニケーション手段を創造的に、柔軟に活用するのが望ましい。

ケーススタディを一つ選択し、下記のように、特に言語的、対人関係、内面上の考察に焦点を当てる。

1. どんな言語的課題が生じうるか？
2. どんな対人関係上の問題が生じうるか？
3. どんな内面上の問題が生じうるか？
4. どんな通訳方略が、その利用者に対する通訳で最も良いか？それはなぜか？
5. その通訳場面で、他に考慮するべきことは何か？
6. 以下のことを、この通訳に関係する人たちにどう説明するか？
    - 特別の通訳方略を使う理由
    - 通訳者の言語での交渉や利用者の言語制約が通訳された情報にどう影響するかについて分析

TRAINER NOTE *学習の活性化のために講師が選定した教材を追加することも、広い範囲のレジスター、ジャンル、ASL やあるいは第二言語のバリエーションという領域を越えて通訳するという、巧みさや柔軟性を学習者が表現できる機会を与えてくれる。その教材は、利用者の年齢、ジェンダー、人種的文化的背景、宗教、社会経済的地位、身体や認知状態、教育レベルを考慮して決めてもよい。*

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Dean, R.K., & Pollard, R.Q. (2013). *The demand control schema: Interpreting as a practice profession.* CreateSpace. See also http://demandcontrolschema.com

Dean, R. & Pollard, R. (n.d.). *Introduction to demand control theory*. [Videos]. Retrieved from http://www.interpretereducation.org/aspiring-interpreter/mentorship/mentoring-toolkit/mentoring-toolkit-videos

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Reflections on cultural & religious diversity by Forestal, E. Retrieved from https://vimeo.com/104121347 [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Reflections on cultural & religious diversity by Peterkin, L.G.* [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104122971

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Deaf interpreter institute: Introduction and generalist competencies.* [Includes video clip]. Retrieved from http://www.diinstitute.org/di-competencies/introduction-generalist-competencies/

National Multicultural Interpreter Project. (2000). *Cultural and linguistic diversity series: Life experiences of Donnette Reins, American Indian, Muskogee Nation.* [ASL with English voiceover]. El Paso, TX: El Paso Community College. Retrieved from http://ncrtm.ed.gov/. Instructional supplement retrieved from http://ncrtm.ed.gov/. *This curriculum contains resources from The National Clearinghouse of Rehabilitation Training Materials (NCRTM).*

National Multicultural Interpreter Project (2000). *Multicultural Interpreter Issues: From the Deaf multicultural perspective with Dr. Angel Ramos, Martin Hiraga and Dr. Howard Busby*. [ASL with English voiceover. Includes *Native American Powwow* segment 6:55-8:58, and *Asian Funeral* segment 9:26- 10:46]. El Paso, TX: El Paso Community College. Retrieved from http:// ncrtm.ed.gov/. *This curriculum contains resources from The National Clearinghouse of Rehabilitation Training Materials (NCRTM).*

Registry of Interpreters for the Deaf (1997). *Standard practice paper: Use of a certified Deaf interpreter.* http://rid.org/about-interpreting/ standard-practice-papers/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Reflections on cultural & religious diversity by Napier, C. Retrieved from https://vimeo.com/104047057

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). Deaf interpreter institute: Introduction and generalist competencies. Retrieved from http://www.diinstitute.org/di-competencies/

第 3 編：通訳利用者の把握ー文化、言語、コミュニケーションスタイルの確認

本編と各章の概要

概要

本編では、ろう通訳者が関わる通訳利用者をめぐる、広く様々な、言語やコミュニケーションスタイル、教育レベル、身体上の特徴、認知能力、社会言語学的要因を扱う。学習者は、ろう通訳者の実践に影響しうる利用者の特性を認識するための方法を練習する。

ねらい

学習者は、ろうや盲ろうの利用者の言語使用、文化的アイデンティティ、教育、身体的・認知的状態、経験の枠組みについて知る。また、場面での力関係についても知る。これらの評価をもとに、学習者は効果的な通訳方略を決める。

能力

1.0 基礎力(1.1)
2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.2, 2.4, 2.6.1)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.1, 3.2, 3.3, 3.4)
4.0 通訳実践力(4.2, 4.4, 4.5.1, 4.5.4)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本編を履修した学習者は：

1. 通訳者自身のアイデンティティを含め、ろうや盲ろう者の文化的アイデンティティについて、また、その理解が通訳利用関係者と仕事をするろう通訳者にとっていかに役立つかについて説明できる。
2. ろうや盲ろうの通訳利用者が好むコミュニケーション方法を知りそれを使う能力を示せる。

3. 通訳場面での力関係や、それが通訳者の決定や方略に与えうる潜在的な影響について分析できる。
4. 特定の方略や介入を用いる根拠を述べることができる。

事前に必要な知識とスキル

第3編

第1編　ろう通訳者の過去、現在、未来
第2編　ろうコミュニティ内の人種、文化の多様性

アプローチと順序

読書課題、ビデオ、発表スライド、クラス内での練習やオープンダイアローグを行う活動を含め、この編の4つの章に沿って順序よく指導するのがよい。講師がそれを行うことで、また課題やその他の教材を使った補習を進めることで、学習者がろう通訳の効果的な実践に不可欠なコンセプトを理解できるようになる。

第1章　コミュニティと文化的アイデンティティ
第2章　通訳利用者の言語使用を把握する
第3章　効果的なコミュニケーション方略
第4章　抑圧の意味と影響

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). Deaf interpreter institute: Introduction and generalist competencies. Retrieved from http://www.diinstitute.org/di-competencies/

第 1 章:コミュニティと文化的アイデンティティ

ねらい

ろう、盲ろうのコミュニティへの理解をさらに深める。講義、討論、クラス内での活動、提出課題を通して、学習者はろうや盲ろうコミュニティ内のさまざまな特徴について、言語力、文化的な規範、コミュニケーションの選好も含めて、深く知るようになる。

能力

3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.1, 3.2, 3.3, 3.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. ろう、盲ろうコミュニティの定義を探究できる。
2. ろう、盲ろうコミュニティ内の多様な集団を挙げられる。
3. 通訳者自身を含むろうや盲ろう者を含め文化的アイデンティティについて説明できる。また、その理解がそのコミュニティでのろう通訳者の仕事にいかに役立つかについて説明できる。
4. コミュニケーションや通訳方法に関わる、教育的、認知的、生理学的、社会言語学的、文化的要素について分析し、説明できる。

主要課題

1. ろう通訳者が通訳利用者のコミュニケーション上の必要性や優先するものを把握するのに、ろう、盲ろうコミュニティへの理解がどう役立つか？
2. ろう通訳者が自分の文化的アイデンティティを理解していることが、利用者への理解や通訳にどう役立つか？
3. ごく普通のろうや盲ろうの利用者は、ろうや盲ろうコミュニティ内にある別のグループと何が違うか？（訳注:同じコミュニティであっても共有できない部分があれば別グループができる。例えば、ろう者だが言語や社会環境が違うグループ、など）
4. 教育的、認知的、生理学的、社会言語学的、文化的要素は、ろう、盲ろうコミュニティにおける立場にどのような影響をおよぼすか？（訳注:例をあげるならば、教育的にも言語学的にもレベルが高いろう者は、ろうコミュニティではどのような立場にあるか）

演習 1

コミュニティの定義について話し合う。

1. コミュニティという言葉はあなたにとってどういう意味を持つか？
2. 「コミュニティとは、一定の地域において社会的相互的作用に関わり、一つまたはそれ以上の共通の絆を持つ人びとを指す。」（Hillerly、1955 年）

Inside the Deaf Community (Kannapell, 1989)にあるコミュニティやろうコミュニティの定義を復習し、話し合う。

これまで使われてきたろうコミュニティの定義と比較する。

1. ろうコミュニティというのは、共通の言語、共通の経験や価値観を共有し、お互い同士での、もしくは聴者との交流方法を同じくする、ろう者や難聴者から成り立つ。ろうコミュニティ の一員であるかを決める最も基本的な要素は、「ろうとしての振る舞い」と考えられ、それは、その人がろうコミュニティの一員であることを認識し、また他人もその人をそのコミュニティの一員として受け入れる時に決まるものである。（Baker＆Padden、1978）
2. 「特定の場所に住む人たちの集団で、目標を共有しさまざまな方法でその目標に向かって活動し」、「自分自身はろうではないが、そのコミュニティの目標を支援しろう者とともに活動する者もその中に含みうる」（Padden、1989）
3. 医学的・病理学的：「マジョリティである聴者の行動や価値観を“標準”または“普通”とみなし、ろう者をどれほど普通から外れているかを見る」文化的：「たまたまろうである特定の集団の言語、経験、価値観に焦点を当てる」（Cokely＆Baker-Shenk、1991）

学習者は、ろうコミュニティという言葉がどういう意味を持つか、個人個人で、またグループとして発表する。

演習 2

文化とろう文化の定義について復習し、話し合う

1. *Interpreting in multilingual, multicultural contexts*（McKee＆Davis、2010）にある文化の定義：
   - 二元性—ろうと聴
   - 多元的共存—さまざまな言語、文化、アイデンティティ
2. ろう文化の定義：
   - 「自分たちの言語、価値観、行動規範、伝統を持つ人々の集団が学び取った行動様式」（Padden、1989）
   - 「人々の生き方—世界の見方、彼らの信条、彼らが作り上げるもの、彼らの語り」（Ladd、1994）

「行動基準としての文化」(Mindess、2004＆2014)の定義について復習する。

1. 個人的—誰とも共有しない
2. 文化的—ある一定の集団の人たちと共有する
3. 普遍的—全員が共有する

付録 B の行動レベルワークシートを配布し、学習者個人個人で記入する。その作業の重要性についてグループで話し合う。

演習 3

So You Want to be an Interpreter? (Humphrey & Alcorn, 2007)の以下の章を読み、ろう通訳実践の応用についても話し合う。

1. コミュニケーションの重要性
2. 文化のコミュニケーションへの影響
3. 多文化コミュニティでの通訳
4. アイデンティティとコミュニケーション

以下について話し合いを行う。

1. 文化は行動にどう影響するか？
2. 文化はコミュニケーションにどう影響するか？
3. なぜ、ろう通訳者にとって、ろうや盲ろうの通訳利用者の文化的アイデンティティを知ることが重要なのか？
4. なぜ、ろう通訳者にとって、自分自身の文化への理解が通訳力の向上に重要なのか？

演習 4

以下のような、ろうや盲ろうの個人あるいは集団と共にした通訳者自身の経験、そこで見たコミュニケーションや言語使用について話し合う。

1. ろう、盲ろうの米国市民
2. 他国からのろう、盲ろうの旅行者や外国人
3. 正規のビザを持つ、ろう、盲ろうの留学生、労働者
4. ろう、盲ろうの移民
5. ろう、盲ろうの難民
6. 一般のろう、盲ろう者
7. 障害を持つろう、盲ろう者
8. ろうの親を持つろう、盲ろうの子ども

他にもろう、盲ろうの人や集団があればそれを挙げる。

DID YOU KNOW?

デフプラス（"Deaf Plus"）は、ろうに加えて、医学的、身体的、情緒的、教育的、社会的にもかなり重い困難を持つ者について使われる言葉である。

演習 5

Development of a Deaf Bicultural Identity (NCIEC, 2012)で Holcomb が定義している7個のバイカルチュラルアイデンティティの範疇について復習し、話し合う。付録 D の用語定義も参照のこと。

1. バランスの取れたバイカルチュラル
2. ろう優位のバイカルチュラル
3. 聴者優位のバイカルチュラル
4. 文化的孤立
5. 文化的分離
6. 文化的周縁化
7. 文化的隷属

小グループに分け、各範疇に属する個人に通訳する時のニーズや優先するものを仮に決めておく。各グループはそれぞれの考えを全体で共有する。聴の親を持つろう者（Holcomb、2013）にあるような、文化的覚醒に至るまでの 5 つの段階について復習し、話し合う。付録 D の用語定義も参照のこと。

1. 従順
2. 不調和
3. 抵抗と没入

4. 内省
5. 覚醒

学習者は、現時点において自分の立場を示すバイカルチュラルアイデンティティの段階を発表する。もしある段階から別の段階に移行しているのならば、何がきっかけでそうなったか、考えを共有する。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

American Association of the Deaf-Blind. (2011). American Association of the Deaf-Blind: *A new beginning*. Retrieved from http://www.aadb.org/index.html

Baker, C., & Padden, C. (1978). Focusing on the nonmanual components of American Sign Language. In P. Siple (Ed.) *Understanding language through sign language research, 27-57.* New York City, NY: Academic Press.

Cokely, D. & Baker-Shenk, C. L. (1991). *American Sign Language: A teacher's resource text on grammar and culture.* Gallaudet University Press.

Hillery, G. A., Jr. (1955). Definitions of community: Areas of agreement. *Rural Sociology,* 20: 111-123.

Holcomb, T. K. (2013). *An introduction to American Deaf culture.* New York City, NY: Oxford University Press.

Holcomb, T. K. (1997). Development of Deaf bicultural identity. *American Annals of the Deaf,* 142 (2), 89-93. Retrieved from http://muse.jhu.edu/journals/aad/summary/v142/142.2.holcomb.html See also https://www.youtube.com/watch?v=RMOVHREOqqk&feature=youtu.be (NCIEC, 2012).

Humphrey, J. & Alcorn, B. (2007). *So you want to be an interpreter? An introduction to sign language interpreting (4th ed.).* Everett, WA: H&H Publishing Co., Inc.

Kannapell, B. (1989). Inside the Deaf community. In S. Wilcox (Ed.), *American Deaf culture: An anthology.* Burtonsville, MD: Linstock Press, Inc.

Ladd, P. (1994). Deaf culture: Finding it and nurturing it. In C. Erting, R.C. Johnson, D. Smith & B. Snider (Eds.). The Deaf way. Washington, DC: Gallaudet University Press.

McKee, R.L. & Davis, J. (2010). *Interpreting in multilingual, multicultural contexts.* Washington, DC: Gallaudet University Press.

Mindess, A. (2014). *Reading between the signs: Intercultural communication for sign language interpreters (3rd edition).* Yarmouth, ME: Intercultural Press.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Interpreting in vocational rehabilitation: Faces of Deaf consumers.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/

- The challenge of terminology. (NCIEC, 2013). [Curriculum Resource]
- Identity, communication and characteristics. (NCIEC, 2013). Includes Development of a Deaf bicultural identity (Holcomb, 1997) and companion video (NCIEC, 2012).
- Inside the Deaf community. (Kannapell, 1989).

Padden, C. (1989). The Deaf Community and the Culture of Deaf People. In S. Wilcox (Ed.), *American Deaf culture: An anthology.* Burtonsville, MD: Linstock Press, Inc.

Holcomb, T. K. (1997). Development of Deaf bicultural identity. American Annals of the Deaf, 142 (2), 89-93. Retrieved from http://bit.ly/1vIIH7b (NCIEC, 2012).

第 2 章:通訳利用者の言語使用の把握

ねらい

本章では、ろう、盲ろうコミュニティ内の個々人または集団の言語、コミュニケーションの特徴について情報を提供する。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、学習者は、ろう者や盲ろう者たちが希望する言語やコミュニケーションの範囲を知る。

能力

1.0 基礎力(1.1)
2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.2, 2.4, 2.6)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.1, 3.2, 3.3)
4.0 通訳実践力(4.2)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.3)

目標

本章を履修した学習者は:

1. ろう通訳者サービスを受ける可能性のある通訳利用者の範囲を挙げることができる。
2. 目標言語・コミュニケーション方法を決めるために、ろうや盲ろうの利用者の言語使用(例:バイリンガル、モノリンガル、セミリンガル、使用言語の習熟度、コミュニケーション体系からの影響、国際手話、文化特有・個人特有のジェスチャーまたはホームサイン、触手話、弱視の人のために近くで表す方法、など)を特定できる。
3. 教育的、認知的、生理学的、社会言語学的、文化的な要素やコミュニケーション上の必要性が通訳方法やコミュニケーションへの介入にどう影響するかを認識できる。

主要課題

1. どのような人がろう通訳者サービスを利用すると考えられるか?
2. 通訳方略やコミュニケーション介入を決めるのに、ろうの通訳利用者の生活経験、教育的背景、身体的精神的状態はどう影響するのか?
3. ろうや盲ろうのろう通訳者サービス利用者が使用するさまざまな言語やコミュニケーション形式をどう分類し解釈するか?

演習 1

Teaching Modules for the Classroom: Deaf Interpreter/Hearing Interpreter Teams (NCIEC, 2015)にある、通訳利用の可能性のある者について読む、または鑑賞する。ろう通訳者サービスの利用する可能性のある者を把握する。学習者がそれぞれの利用者のタイプについて話し合えるようにし、それぞれを学習者の経験、スキルのレベル、話しやすいコミュニケーションレベルと結びつける。例を挙げる。

1. セミリンガル(訳註:2021 年段階ではダブル・リミテッドという表現が用いられることが多い)—語彙が少ない、文法的に間違いがある、自然に言葉を作り出せない、といったろう者の言語状態を表す用語の一つ。「セミリンガル」のろう者は時には“生きるためのコミュニケーション”をする。つまり、限られたコミュニケーションの中で必要最低限のものを得ることはできるがそれ以上は何も得られないということである。非常に重要なのは、ろう者の言語状態またはコミュニケーション能力対し人道的に尊敬の念を持って、蔑視することなく接することである(Boudreault, 2005)。現在、ろう通訳では、そのような人たちに限るわけではないが、このような通訳利用者を相手にすることが大変多い。他にも、最低限の言語力(MLS)、映像依存、モノリンガル、低い言語機能、限られた英語力(ＬＥＰ)といった用語が通訳利用者に使われることもある。このような言葉はいろいろな文章で使われるが、適切で好ましいのは、アリンガル(無言語)またはセミリンガルである(NCIEC, 2010)。

TRAINER NOTE *Teaching Modules for the Classroom – Interpreting in Vocational Rehabilitation (NCIEC, 2013)にある Individuals Who Are LFD Report (Dew, 1999)にさらに詳しい情報がある。*

---

2. 外国生まれ—外国から米国に移住してきたろう者に使われる。彼らは自国の手話に堪能、または堪能ではなく、ASL 習得上のいずれかの段階にある。
3. 国際手話—以前はジェスチューノと呼ばれ、1973 年に世界ろう連盟(WFD)委員会により作られた手話体系を指す。この体系は多様な手話言語の中から最も理解しやすい手話単語を取り入れたものである(NCIEC、2010)。「国際手話」は今では、自然な手話コミュニケーション体系ではない、つくられたものを指す用語として好んで使われる(Boudreault, 2005)。通訳通訳利用者の中には、ASL でない他の手話のネイティブで、世界を旅する国際手話が堪能な者もおり、国際手話を理解し使用できる者もいる。
4. 盲ろう者—コミュニケーションへの配慮が必要な、聴力や視力の程度がさまざまである人たちをいう(例:通訳をする空間上の位置—近くあるは遠く離す、または、触手話や触指文字、なぞる方法)。

5. デフプラス—この用語は、言語表現やその理解に影響するような、一つまたは一つ以上の障害（認知、運動機能など）を持つろう者のことを示す。デフプラスを相手に通訳する場合は、通訳チームにろう通訳者を入れることが必要になることもある。
6. 未成年者—18 歳以下のろう者全員をいう。言語環境、教育レベルや教育背景、年齢などにより、未成年者の言語能力はさまざまである。
7. ろう者—常にろう、聴の通訳チームの通訳を必要とするわけではないが、特別なイベントや場面などではろう、聴通訳チームが通訳するのが最適であるというろう者もいる。例として、麻酔、アルコール、薬などの影響を受けている、あるいは、トラウマあるいはストレスとなった事件（身体的・性的虐待、愛する者のを失った、など）を経験したろう者が挙げられる。

演習 2

Deaf Interpreter Institute: Critical Issues Forum (NCIEC, 2012)にある、下記の通訳利用者のニーズの把握についてのビデオを見て話し合う。

- ろう通訳者と手話の評価（Boudreault, 2006）
- ろうの通訳利用者の言語発達（Moyers, 2006）
- 意思決定の基準(Napier, C., 2006)

以下のように、学習者は、講師選定のビデオ鑑賞、またはコミュニティのイベントへの参加、あるいは下記のような通訳利用者へのインタビューを行う。

1. *Teaching Modules for the Classroom – Interpreting in Vocational Rehabilitation* (NCIEC, 2013)から 2、3 のビデオを選択する。付録 B のコミュニティイベントのワークシートに記入する。
2. コミュニティイベントに参加し、ろうや盲ろう参加者の言語使用や文化的行動を観察する。付録 B のコミュニティイベントのワークシートに記入する。
3. ろうや盲ろう者を 3 人選び、普通の、簡単な会話をする。その後付録 B のろうへのインタビューワークシートに記入する。

上の作業が終わったら、それぞれが記入したワークシートを利用してクラス全員に分かったことを共有する。

演習 3

小グループに分ける。各グループは、演習1にある通訳利用者のグループリストそれぞれに属する個人について通訳シナリオを考える。シナリオはそれぞれ、ろうまたは盲ろうの利用者、ろう通訳者、聴通訳者、聴の利用者の役を入れること。

学習者は、そのシナリオの場面、通訳利用者、言語、環境、通訳者について説明する。自分たちに課されたシナリオの役割を演じるのに必要な情報を持っていることを確認する。

それぞれの通訳利用者グループについてのシナリオを一つか二つ選び、教室で演じてもらう。下記のように学習者を指導する。

1. 通訳者が直面するコミュニケーションの課題、それがどのようにして生じるのかについて説明する。
2. ろう、盲ろう利用者の年齢、教育、認知的または身体的状態、生い立ちが、いかに、特定の通訳方略やコミュニケーションへの介入の必要性に影響したかを明らかにする。
3. ろうや盲ろうの通訳利用者の経験的、言語的背景に沿って、通じやすい方法でコミュニケーションをとるために通訳者が行った行動を明らかにする。通訳者は何をしたのか、それはなぜか？

演習 4

以下の英語をベースとしたコミュニケーション体系それぞれについて話し合う。学習者は、自分の経験、スキルのレベル、話しやすいレベルについて互いに共有する。さらに専門力を高めるためそれぞれ調べるよう奨励する。

- ロチェスター方式（指文字）
- 英語対応手話（SEE）
- 手指英語（サインドイングリッシュ）
- 接触手話
- キュードスピーチ

演習 5

学習者に国際手話（EUD, 2011 & Mench, 2010）について調べさせ、国際手話と他の国々の手話言語（WFD, n.d.）の違いについて話し合う。

国際手話の利用について視覚的な例を挙げて定義し、明らかにする。国際手話について個人的な経験、スキルのレベル、話しやすさについて話し合う。さらに専門性を高めるため、国際手話について調べるよう奨励する。

演習 6

ジェスチャーの定義について話し合う。学習者に視覚的ジェスチャー・コミュニケーションの概念（Crouch, 2009)について読み、話し合う。

さまざまな形のジェスチャー・コミュニケーションの違いを挙げる。

- 標準的でない特異性のある手話（ホームサインなど）
- 国際的に文化的特異性のあるジェスチャー
- 地域や土地ごとの違い

言語の土台について、*Deaf Interpreter Institute: Critical Issues Forum* (NCIEC, 2012)の Gestures (Morales, 2006)を見て話し合う。

ペアごとに分ける。講師が考案した質問を使い、与えられたシナリオに従って学習者はジェスチャーをやってみせる（例："私の青い自転車はどこ？"）。ジェスチャーによるコミュニケーションに関する各自の経験、スキルのレベル、話しやすさについて話し合う。さらに専門力を高めるために、ジェスチャーについて調べるよう奨励する。

演習 7

Teaching Modules for the Classroom －Deaf Blind Interpreting (NCIEC, 2013)にある、下に示した資料を見て、読んで、その後でグループで話し合う。

- 盲ろうコミュニティの概観
- 自分の通訳への修正
- 環境への盲ろう者が合わせた修正
- 盲ろう者の追加的責任負担

Spotlight on the Deaf-Blind Community and How Do Deaf-Blind People Communicate? (AADB, 2011)を見て、話し合ってもらう。

下記にあげた、盲ろう者が使う可能性があるコミュニケーション方法について復習し話し合う。付録 D の用語の定義も参照のこと。

- 触手話
- 触指文字
- トラッキング（なぞり）
- 適合（相手に合わせた）手話
- タドマ方式（唇、頬、喉に指を当てる）
- 手のひらに書く

盲ろうの通訳利用者の空間上のニーズ（例えば限られた、あるいは狭い空間など）、盲ろう利用者が使うコミュニケーション方法の一つとしてかなり最近使われるようになった Pro-Tactile（訳注：手話のみでなく身体の動きに触れることで理解する、触覚コミュニケーション）について説明する。

Interpreting for Individuals Who Are DeafBlind (RID, 2006), *Implications of Vision Loss on the Interpreting Process* (Foxman & Lampiris, 1999)を見て、話し合う。ろう通訳実践に上記のコミュニケーション形式を適用することについて話し合う。

Interpreting in Vocational Rehabilitation Settings (NCIEC, 2012)からビデオを選び、学習者に見せて話し合ってもらう。さまざまなコミュニケーション方法を挙げる。各自の経験、スキルのレベル、それぞれの方法を使った際の話しやすさについて調べるよう勧める。

さらに専門性を高めるために、盲ろうの通訳利用者のコミュニケーションニーズについて調べてもらう。

DID YOU KNOW?

盲ろう者にとって触れることはコミュニケーションのために大事なことであり、聴者にとって聴くこと、ろう者にとって見ることが大事なのと同じである。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

American Association of the Deaf-Blind. (2011). *How do Deaf-Blind people communicate?* Retrieved from http://www.aadb.org/factsheets/db_communications.html

American Association of the Deaf-Blind. (2011). *Spotlight on the Deaf- Blind community. Retrieved* from http://aadb.org/deaf-blind_community/spotlight.html

Boudreault, P. (2005). Deaf interpreters. In T. Janzen (Ed.) *Topics in signed language interpreting: Theory and practice* (pp. 323-355). Philadelphia, PA: John Benjamins Publishing.

Crouch, C. (2009). *What I've learned at Gallaudet: Mime and gesture vs. sign.* [Video]. Retrieved from http://gallaudetblog.wordpress.com/2009/07/08/what-ive-learned-at-gallaudet-mime-and-gesture-vs-sign/

European Union of the Deaf. (2011). *International sign disclaimer. Changed to International Sign Guidlines (2012).* Retrieved from http://www.eud.eu/about-us/eud-position-paper/international-sign-guidelines/

Foxman, L. & Lampiris, A. (1999). Implications of vision loss on the interpreting process In M. McIntire (Ed.), Interpreting: *The art of cross cultural mediation. Proceedings of the Ninth National Convention of the Registry of Interpreters for the Deaf* (pp. 63-77). Silver Spring, MD: RID Publications.

Mesch, J. (2010). *Perspectives on the concept and definition of International Sign.* Publication prepared for the World Federation of the Deaf. Retrieved from http://www.wfdeaf.org/wp-content/uploads/2012/03/Perspectives- on-the-Concept-and-Definition-of-IS_Mesch-FINAL.pdf

Mindess, A. (2004). *Reading between the signs workbook: A cultural guide for sign language students and interpreters.* Boston, MA: Intercultural Press.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Deaf Blind interpreting.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/

- Overview of the DeafBlind community. [Video]. Also retrieved from http://vimeo.com/30374196
- Modifications to the environment. [PDF].
- Additional responsibilities. [PDF].

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Deaf interpreter/hearing interpreter teams.* [Includes video resources; requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/course/index.php?categoryid=4

- Units 3.1 & 3.2 on Possible Consumers. [Video with slides]. Also retrieved from https://echo360.gallaudet.edu:8443/ess/portal/section/206d9d3d-585d-4b69-80ee-68d1362bf2c8

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Interpreting in vocational rehabilitation: Faces of Deaf consumers.* [Includes video resources; requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/

- Discussing the case of Elizabeth Smart (with Marsh, T.). [Video]. Also retrieved from http://youtu.be/5KGvPVInvSo
- Individuals who are LFD report. (Dew, 1999)
- Remembering the events of 9/11 (with Sifuentes, A.). [Video]. Also retrieved from https://youtu.be/-Y6TN6jit0Y

- Remembrances of 9/11 from Diana. [Video]. Also retrieved from https://youtu.be/lN-9K4L9JaI
- Stories of growing up with Charlotte. [Video]. Also retrieved from https://youtu.be/br64ONx5Ckk
- National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Deaf Interpreter Institute: Critical issues forum 2006.* [Includes video clips]. Retrieved from http://www.diinstitute.org/learning-center/critical-issues-forum-2006/
- *Consumer assessment: Deaf interpreters and sign language assessment* [Video]. (Boudreault, 2006).
- *Consumer assessment: Overview of Deaf consumer language development.* [Video]. (Moyers, 2006).
- Consumer assessment: Decision-making criteria. [Video]. (Napier, C., 2006).
- Language assessment: Gestures. [Video]. (Morales, 2006).

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Interpreting in vocational rehabilitation settings*. http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/. Boston, MA: NCIEC.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2010). *Toward effective practice: Competencies of the Deaf interpreter.* Retrieved from http://www.interpretereducation.org/wp-content/uploads/2011/04/DC_Final_Final.pdf

Registry of Interpreters for the Deaf. (2007). *Standard practice paper: Interpreting for Individuals Who Are DeafBlind.* Retrieved from http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/

World Federation of the Deaf. (n.d.). *Sign language.* Retrieved from http://wfdeaf.org/our-work/focus-areas/sign-language

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Interpreting in vocational rehabilitation: Faces of Deaf consumers.* [Includes video resources; requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/ – *Remembering the events of 9/11 with Sifuentes,* A.Retrieved from https://www.youtube.com/watch?v=-Y6TN6jit0Y&feature=youtu.be

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Deaf Interpreter Institute: Critical issues forum 2006.* Retrieved from http://www.diinstitute.org/learning-center/critical-issues-forum-2006/
Seated (L-R): Peterson, D., Malcolm, T., Lazorisak, C., and Morales, M.; standing (L-R): Boudreault, P., Solow, S.N., Forestal, E., Cole, J., Napier, C., Storme, S., DeLap, J., and Moyers, P.

第 3 章：効果的なコミュニケーション方略

ねらい

本章では、特定の場面でのコミュニケーションのデマンド（必要性）や決まりごとの中で、通訳利用者のニーズを把握することについて考える。講義、クラス内での活動、提出課題を通して、学習者は通訳方法や介入の範囲を知り、実践する。

能力

1.0 基礎力
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.2, 3.3, 3.4)
4.0 通訳実践力(4.5, 4.7)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3)

目標

本章を履修した学習者は：

1. 談話、あるいは場面のデマンドに関係する個々のろう、盲ろうの利用者の潜在的な違い(例えば情報や、経験値、受けてきた教育、あるいは視覚的、常識的、認知的、文化的なものの見方）を確認できる。
2. ろうの通訳利用者の経験、言語の枠組みと一致し、かつ、その場の決まりに見合った目標言語、またはコミュニケーション方略をどのようにして決めるか話し合える。
3. ろうや盲ろうの通訳利用者の複雑な概念を伝えるために、手描き、マイム、小道具、も含めた他の視覚的コミュニケーション手段を示せる。

主要課題

1. ろうや盲ろうの通訳利用者のコミュニケーション、通訳のニーズ、優先事項の把握に関係する直観的な意思決定のプロセスについて、ろう通訳者はどう説明できるか？
2. ろう通訳者は、特定の場面でろうや盲ろうの通訳利用者の経験や言語の枠組みに、通訳方略やコミュニケーションの介入をどう合わせられるか？
3. ろう通訳者にはどのような特別な方略が利用可能か？

演習 1

本章の予習として、*Using Functional Communication Assessment to Develop Meaningful interventions with Individuals who are Deaf and Lower Functioning* (Long, 2010)を見てもらう。ダウンロード可能な付属教材を復習し、下記について話し合う。

1. なぜロング（Long）は場面の把握を強調しているのか？
2. ろう通訳者がろう、盲ろう者のコミュニケーションニーズや優先事項をどう把握するかを理解するのに、コミュニケーション評価パラダイムのどの視点が役立つか、あるいは役に立たないか？
3. ろう通訳者は通訳の業務をするのにどのような準備をするべきか？現場に入る前に何を知っておく必要があるのか？
4. ろう通訳者は通訳現場に到着した時、特に知っているべきことは何か？

演習 2

小グループに分ける。各グループで、ろう通訳者が考慮に入れるべきコミュニケーション方略を含む事例を考え出す。事例の説明は以下の通りでなくてはならない。

1. ろうや盲ろうの当事者の詳しい像を描く。ホルコム（Holcomb）のバイカルチュラルアイデンティティの範疇にあるような、次の要因も含む。年齢、性別、その人の地位。また、学歴、成績、リテラシー。家庭状況、文化、家での使用言語。就業経験、一般的な健康状態、身体、機能、認知その他コミュニケーションに影響する障害も考慮に入れる。コミュニケーションの発信、受信の方法も含める（例えば、ASL、英語を基本とした手話、触手話、指文字、ジェスチャー、パントマイム、絵を描く、小道具、筆談など）。
2. コミュニケーションが行われる場面の詳しい状況を説明する。（場所？この対話は何のためか？誰が関わっているのか？その人たちの目的は何か？その場特有の決まりはあるか？ろうまたは盲ろう者に必要なもの、あるいはデマンドは何か？）
3. ろうや盲ろうの当事者が行う必要があることと、彼らの言語的または経験的な枠組みや現時点でできることの間にある差や不一致について説明する。

各グループのうちの一人が、自分たちの事例をビデオに撮り、できる限り十分に説明する。

演習 3

Demand Control Schema (Dean & Pollard, 2013)を紹介する。教室で、あるいは宿題として、この概念について説明しているビデオを見て、話し合ってもらう。

演習 2 でグループごとに作り上げたシナリオを見て、環境、人間関係、言語の周辺状況、通訳者の内(EIPI)に起因するデマンドを示し、コミュニケーションが最もよく機能する、実践可能なコントロールやコミュニケーション方略を見出す。

演習 4

演習 2 で作られたシナリオの中の一つを使って、情報を引き出したりろうや盲ろうの通訳利用者からのメッセージを明確にしたりするのを目指した方略の例を挙げて説明する。下記の方略を使う理論的根拠について話し合う。

1. 促す
2. 探りを入れる
3. 質問する
4. 関連づける
5. 言い換える
6. 意図したメッセージを確かめる

どの方略がどのようにコントロールとして役立てることができるか？

それぞれの方略はどのように上記で話し合ったシナリオに適用できるか？

演習 5

Reflections on Cultural & Religious Diversity by Beldon, J. (NCIEC, 2014) を見て話し合う。

1. ベルドンが使用した視覚コミュニケーションの代替的な方略とは何か？
2. それらは効果があったか？
3. 彼はなぜ、どのようにして、別の方略をとることを決めたのか？

ろうや盲ろうの通訳利用者に複雑な概念を伝えるための、手描き、マイム、小道具、も含む他の代替的な視覚的コミュニケーション方略を説明し、例を挙げてもらう。

それぞれの方略は演習 2 で話し合ったシナリオにどのように適用できるのか？どういうデマンドがあるか？最もうまくいくコントロールは何か？

演習 6

演習 2 で作られたシナリオの中の一つを使って、学習者に通訳プロセスにおける統語論的な形式への適合について話し合ってもらう（例：時系列に話す、空間活用、時制表現、代名詞化、ロールシフト、回答範囲を狭めた質問形式への変更、レジスター—の調整、など）

演習 7

もう一度、演習 2 で作られたシナリオの中の一つを使って、学習者にさまざまなコミュニケーションの方略を使ってロールプレイを試みてもらう。それはそれぞれのシナリオに関わる個人的、状況的な要素に基づいたものである。デマンドコントロール・スキーマを活用して、方略を考え出し適用するようにしてもらう。

演習 8

これまで議論されてきたろうや盲ろうの通訳利用者のニーズを把握するプロセスについて、学習者に話し合ってもらう。与えられた場面で特定の通訳方略を利用することについて、いろいろな論理的根拠を復習する。

相互行為を成功させるにはどのようなコントロールがろう通訳者に必要か？特に、以下のことを話し合う。

1. 通訳利用者が伝えているメッセージを理解しているかどうかを、ろう通訳者が一番よく把握できる方法は何か？
2. ろう通訳者が通訳利用者のコミュニケーションニーズをよく把握することができるような合図（明白なものや、間接的あるいは微妙なもの）は何か？
3. 創造性と柔軟性はなぜ重要なのか？

演習 9

以下の質問について話し合う。

1. ろう通訳者はどのようにして、通訳される側の言語のニーズやモーダリティを認識する力を向上させるか？
2. ろう通訳者の生涯学習には観察、自己判定、自己規制を行う能力も含む。能力を高めていく中で、ろう通訳者は継続的に自分の有効性をどう評価していけるか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Dean, R.K., & Pollard, R.Q. (2013). *The demand control schema: Interpreting as a practice profession.* CreateSpace. See also http://demandcontrolschema.com

Long, G. (2010). *Using functional communication assessment to develop meaningful interventions with individuals who are Deaf and lower functioning.* [Two-part webcast; resources available for download]. Retrieved from http://www.pepnet.org/resources/using-functional-communicationwc

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Reflections on cultural & religious diversity by Beldon, J.* [Video]. Retrieved from http://vimeo.com/104121348

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Reflections on cultural & religious diversity by Beldon, J.* Retrieved from http://vimeo.com/104121348

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Experiences with oppression: IEP session by Tester, C. Retrieved from https://vimeo.com/104093027

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Experiences with oppression: IEP session by Clark S. Retrieved from https://vimeo.com/104093026

第 4 章：抑圧の意味と影響

ねらい

本章では、ろうや盲ろうコミュニティにとって抑圧の持つ意味がいかに大きいかを理解することをねらいとする。学習者は過去の経験や抑圧がろうや盲ろうの通訳利用者の行動にどう影響するかを学ぶ。（自分または他人の）潜在的に抑圧的な行動となりうる場面について、またそれらがろうや盲ろうの通訳利用者に通訳するときの決定や方略にどのように影響しうるかということについて、認識を深める。

能力

1.0 基礎力(1.4)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.4)

目標

本章を履修した学習者は：

1. ろう、盲ろうコミュニティが過去、現在において経験してきた抑圧の程度や形を説明できる。
2. 抑圧の一つの形であるオーディズム（聴覚至上主義）について説明できる。
3. 抑圧の特定の性質を挙げることができる。

主要課題

1. なぜ、ろうや盲ろうコミュニティ内に抑圧が生じるのか？
2. 人は抑圧されたと感じるとどうなるか？
3. 抑圧にはどのような形のものがあるか？
4. ろう通訳者が抑圧された人たちの性質を理解するのが大事なのはなぜか？
5. 通訳現場で、ろう通訳者はオーディズム（聴覚至上主義）にどう対応すべきか？

演習 1

Audism Unveiled (Bahan, Bauman & Montenegro, 2008)を見て、ろう者や盲ろう者に対するのオーディズム（聴覚至上主義）の効果について話し合う。学習者に、以下のコンセプトそれぞれについて話し合いをしてもらう。

1. ろう者や盲ろう者を、スティグマ（汚名）を着せられた集団の人とみなす
2. 手話を価値がないとみなす
3. ろう者や盲ろう者を欠陥者とみなす

4. 聴者中心の教育
5. ろう者を医学的立場から見て、聴力の程度に重きを置く
6. 発話と読唇を重要とみなす
7. ろう者を障害者とみなす

DID YOU KNOW? *スティグマ(汚名)は、スティグマを着せられた人たちから個性を奪う可能性があり、ステレオタイプを打破しようとする人たちの試みがくじかれてしまう。詳しくは、Test Yourself for Hidden Bias (Teaching Tolerance, n.d.)参照のこと。*

「ろうの世界」の内容を背景に、以下のコンセプトについて話し合う。

1. ろうのアイデンティティ
2. ろうコミュニティと文化
3. アメリカ手話
4. ろう教育

演習 2

Characteristics of Oppressed and Oppressor Peoples: Their Effect on the Interpreting Context (Baker-Shenk, 1986) を読んで抑圧の概念について話し合い、*Interpreting in Vocational Rehabilitation: Faces of Deaf Consumers* (NCIEC, 2013)を観る。

TRAINER NOTE *さらに詳しく知りたければ、The Deaf World in the Developing Countries (ASLized, 2013)を参照のこと。これは教室内でも提出課題としても活用可能である。*

抑圧について話し合い、個人の経験を共有することを勧める。学習者を以下の対話に導く。

1. コミュニティ内でなぜ抑圧が生じるのか？
2. 人は抑圧されたと感じた時、どうなるか？
3. 抑圧にはどのような形があるか？
4. 抑圧された人たちの性質はどのようなものか？
5. 一般的に言えば、上記の内容は手話通訳者の実践にどう影響するか？

演習 3

Characteristics of Oppressed and Oppressor Peoples: Their Effect on the Interpreting Context (Baker-Shenk, 1986)をもとに、ろうや盲ろう者の抑圧の影響について話し合う。

1. 葛藤(二面性)
2. 自己非難

3. 自己不信、他人不信
4. 同胞への暴力
5. 消極性、順応、運命論（権力者の力や抗えない強さがだんだんと広がる不思議な信仰的なもの）
6. 抑圧者への感情的依存
7. 自由への恐れ（依存の喪失）と反動（さらなる抑圧）

上記の話し合いを続行し、*the Characteristics of Oppressors and the Impact on Deaf and DeafBlind persons* (Baker & Shenk, 1986)を復習する。

1. 方法はこれしかない、あるいはこれが最善である
2. 抑圧される側への蔑視
3. 抑圧される人たちはそのようでありたいのだと無意識に考える
4. 自分が取り仕切るという態度
5. パターナリズム（家父長主義的態度）
6. 所有意識
7. 認められ感謝されたいという望み
8. 自由になろうとする抑え込まれた試みに対する恐れと怒りの反応

下記について概念を話し合う。

1. 上記をもとに、ろう者や盲ろう者への抑圧の方法は、第 2 編で議論された民族的文化的集団とどう類似しているか？
2. ろう通訳者が自己分析し、ろう者や盲ろう者への抑圧を理解することがなぜ重要なのか？
3. 力関係の中でのろう者や盲ろう者の通訳利用者の位置が、ろう通訳者としての決定や方略にどう影響しうるか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

ASLized. (May 14, 2013). *The Deaf world in the developing countries.* [Video]. Retrieved from http://aslized.org/developingcountries/

Bahan, B., Bauman, H-D, & Montenegro, F. (2008). *Audism unveiled.* [DVD]. San Diego, CA: DawnSignPress.

Baker-Shenk, C. (1986). Characteristics of oppressed and oppressor peoples: Their effect on the interpreting context. In M. McIntire (Ed.), *Interpreting: The art of cross cultural mediation. Proceedings of the Ninth National Convention of the Registry of Interpreters for the Deaf* (pp. 43-54). Silver Spring, MD: RID Publications.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Interpreting in vocational rehabilitation: Faces of Deaf consumers.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/

- Characteristics of oppressed and oppressor peoples: Their effect on the interpreting context. (Baker-Shenk, 1986).

Teaching Tolerance. (n.d.). *Test yourself for hidden bias.* Retrieved from http://www.tolerance.org/activity/test-yourself-hidden-bias

ASLized. (May 14, 2013). The Deaf world in the developing countries. Retrieved from http://aslized.org/developingcountries/

第 4 編:ろう通訳者の倫理の考察および課題

本編と各章の概要

概要

本編では、ろう通訳者による意思決定の倫理的考察や課題を扱う。全米ろう協会(訳注:略して NAD)と登録手話通訳者協会(訳注:略して RID)により作られた専門職行動規範(Code of Professional Conduct)について学び、さまざまな状況や場面において倫理的な意思決定がどのように養われてきたかについて調べる。また、RID と NAD の倫理綱領(Code of Ethics)がろう通訳の分野にどう関わっているかを知る。

ねらい

NAD-RID の専門職行動規範をよく知り、ろう通訳者としての、また通訳サービスの利用者としての倫理的な意思決定への理解を深める。講義、クラス内での学習、提出課題を通して、ろう通訳者の道徳的価値観および倫理的な意思決定がろうや盲ろうコミュニティやろう通訳者の実践に及ぼす影響について学ぶ。

能力

3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.4)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本編を履修した学習者は:

1. 倫理的な意思決定がろう通訳者の仕事にとって必要不可欠である理由を明確に述べることができる。
2. 効果的な通訳の妨げとなり得る通訳者自身の行動・態度を確認し減らすことで、個人的な偏見の影響を減らすことができる。
3. 職業的境界に関わる決定には注意し、通訳に公平に取り組むことができる。
4. 通訳の前、間、後の倫理的な意思決定に影響する、教育的、認知的、生理的、社会言語学的な要素やコミュニケーションニーズを評価することができる。

事前に必要な知識とスキル

第1編　ろう通訳者の過去、現在、未来

第2編　ろうコミュニティ内の人種的文化的多様性

第3編　利用者の把握—文化、言語、コミュニケーションスタイルの確認

第4編

アプローチと順序

読書課題、ビデオ、発表スライド、クラス内での練習やオープンダイアローグを行う活動を含め、本編の 4 つの章に沿って順序よく指導するのがよい。講師がそれを行うことで、また関連資料を自宅学習の課題として補うことで、学習者がろう通訳の効果的な実践に必要な重要コンセプトを理解できるようになる。

第1章　倫理の基礎：まず自分を知ること

第2章　RID と NAD の専門職行動規範の歴史

第3章　ろう通訳者と倫理

第4章　アライとしてのろう通訳者

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Ethical considerations case study by Clark, S. Retrieved from https://vimeo.com/104093024

第 1 章:倫理の基礎 - まず自分を知ること

ねらい

学習者はこれまでの経験を分析し、自分の価値観、道徳観、信条、偏見を確認する。講義、クラス内での活動、討議・討論を通して、倫理的な意思決定がろう、盲ろうコミュニティやろう通訳者としての仕事に、どのように影響するかを考える。

能力

3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.4)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. 個人的な偏見の潜在的な影響について確認し、理解する。
2. 効果的な通訳の妨げとなり得る行動・態度を確認し減らすことで、個人的な偏見の影響を減らす。
3. Kohlberg(コールバーグ)の道徳発達の6つのステージを理解することが、ろう通訳者自身の決定理由を確認する上で役立つことを説明できる。

主要課題

1. 自分の核となる価値観、道徳観、信条について考えてみよう。
2. プロとしての行動・態度に潜在的な影響を及ぼしている可能性のある偏見を確認し、それらを減らす方法を考えてみよう。
3. 一般的に倫理的な意思決定とはどのように行われているか考えてみよう。

演習 1

So You Want be an Interpreter? (Humphrey & Alcorn, 2007)に紹介されている専門職の行動規範を読み、話し合う。下記にしたがって話し合いを進める。

1. メタ倫理の原則
2. プロフェッショナル(専門家)の特徴の確認
3. NAD-RID 倫理綱領に反映されている価値観
4. 倫理的な意思決定の 9 つのステップ

5. ろう通訳者の仕事に影響しうる個人の性格

TRAINER NOTE *学習者はMyers-Briggsの性格判断など、自分のパーソナリティ・プロファイルを分析するオンラインのツールを利用できる。このようなツールを活用することで、通訳活動に資する特徴を自分の中に発見したり、逆にろう通訳者として効果的に活動するには調整しなければならない点も見出すことができる。*

演習 2

Philosophy of Moral Development (Kohlberg, 1981)にある道徳発達の6つのステージを分析し話し合う。次に、2つのケーススタディを読んでから、下記にあるコールバーグの6つのステージについて話し合う。

1. 前慣習的水準
   ステージ1 – 罰と服従志向
   ステージ2 – 道徳主義的相対主義
2. 慣習的水準
   ステージ3 – 良い子志向（対人的同調）
   ステージ4 – 法と秩序
3. 後慣習的水準（自動的、主義に基づいた）
   ステージ5 – 社会契約的遵法
   ステージ6 – 普遍的な倫理基準

事例1 – あるろう通訳者が地元の健康フェアのHIV検査の場所で仕事をしている。列に並んでいたあるろうの参加者が、その通訳者に「針は痛いか」と聞く。通訳者は「NAD-RID倫理綱領により答えることはできません」と答える。以前通訳者自身の意見を述べたことで注意されたことを思い出したためである。話し合いのポイント：その通訳者はステージ1にとどまっており、文化的な介入に進むことができなかったことを説明する。

事例2 – 上記と同じ状況。この時、ろう通訳者は、その参加者に微笑みかけて言う。「ご質問があるなら喜んで通訳しますよ。HIV検査担当者を探しに行きましょう。過去にHIV検査を受けたことがありますが痛くなかったです。でも他の人は痛いかもしれません。針に強いかどうかは人それぞれです。いらっしゃい、探しにいきましょう。」話し合いのポイント：その通訳者はステージ6におり、ろうの通訳利用者から直接聞かれた時、人道的なサポートをして個人的な経験を知らせている。また、ろう通訳者たちはスキルアップのためにさまざまなステージを経験する。頑なでステージ1、2に留まる人もいれば、自分の経験や状況に応じてより柔軟に上のステージに上がれる人もいる。

TRAINER NOTE *学習者には、ろう通訳実践に特化した事例を作ってみることを促す。その際、Encounters with Reality: 1,001Interpreter Scenarios (Cartwright 2009)の中のろう通訳者が関わる事例を参考にすることを薦める。*

演習 3

How Good People Make Tough Choices (Kiddler, 2009)をもとに、倫理の定義、健全な倫理観とはどのようなことを意味するのかについて話し合ってもらう。

1. 道徳上の原理または価値観の組み合わせ
2. 道徳上の価値観の理論または構造（例：現在の物質主義的な倫理）
3. 個人または集団を統制する行動原理（例：プロフェッショナルの倫理）
4. 手本となる原理

倫理が以下の概念とどうつながっているか、学習者はそれぞれについて話し合った上で、説明する。

1. 目的
2. 価値観と道徳観
3. 倫理上の行動
4. 倫理に関する理論
5. メタ倫理の原理
6. 綱領の解釈
7. 倫理的決定
8. クリティカル・シンキング（批判的思考、本当にこれで良いかという視点で物事を考える力）

以下に関する個人の立場が倫理的な判断に与える影響について話し合う。

1. 人種・民族
2. ジェンダー
3. 年齢
4. 宗教
5. 職業
6. 社会経済的立場
7. 性的指向

以下の3つの一般的な倫理領域における倫理的な意思決定について改めて考察する。

1. 個人的な領域
2. 集団的/文化的な領域
3. 職業的・専門的な領域

以下の質問について討議する。特に、それぞれのろう通訳実践への影響や関連について考察する。

1. 手話通訳以外に倫理綱領や行動規範などがあるのはどのような職業か？
2. 倫理綱領や専門職行動規範の目的は何か？
3. 倫理的な意思決定とは何か？
4. 倫理上の行動や意思決定でろう通訳に考慮すべきことは何か、何が課題となるか？

ここまできたら、健全な倫理観についての概念 (Kiddler, 2009)に戻り、下記のろう、盲ろうコミュニティの概念への適合性について話し合う。

1. 正しい vs 正しいというジレンマ
   以下のパラダイムに直面した際に下さなければならない倫理的判断を分析し、このような倫理的な対立が生じる状況について知る。正しい選択は、正しい意思決定に繋がる。
   - 真実か忠実か？
   - 自己か集団か？
   - 短期か長期か？
   - 公正か記憶か？

2. 正しい vs 間違いというジレンマ
   以下のパラダイムに直面した際に下さなければならない倫理的判断を分析し、このような倫理的な対立が生じる状況について知る。正しい選択は、正しい意思決定に繋がる。
   - 法的に問題はないか？
   - 専門職行動規範違反か？
   - これが新聞の一面に載ったらどう思うか？
   - 自分の母親（またはメンター、ロールモデル)などが知ったらどう思うか？

学習者に以下のことについて考えてもらい、グループごとに分けて話し合う。

事例 1（短期 vs 長期）－ あなたは、知的障害があり行動に問題のある 16 歳の人の通訳を定期的に担当している。あなたとその学生は口論してしまい、その一件について指導チームと話し合うことになる。その学生が理解できるのはあなたしかいないということで、その行動について報告する一方でその学生との話し合いを通訳してほしいと頼まれる。

事例 2（個人 vs コミュニティ）－ あなたは就職面接官である盲ろう者の通訳依頼を受ける。ロビーで、盲ろう支援サービス提供職の志願者が座って待機しているのを見る。盲ろうの面接官は受付のそばで雑談している。あなたはそこに歩いていく途中、一人の志願者がもう一人の志願者に手話で話しているのを目にする。「この仕事を志望する理由は、奨学金を返したい、ただそれだけなんだ。この仕事は楽だからね。なんせ盲ろう者は聞こえないし見えないから、何してもわかりゃしないからね。」あなたは面談室に入り、盲ろうの面接官も後から続く。

ここであなたは何か伝えますか？その後、先ほどの志願者が部屋に入り、面接が始まる。面接の間、この志願者は言う。「志望理由は盲ろう者の手助けをしたいからです。出来る限り私は最良のサービス提供者になりたいです。」面接が終わった後、あなたは面接官にロビーで見たことを話しますか？その時あなたはまだ通訳していたわけではありません。

演習 4

参考資料の中の事例のビデオから一つ選び、学習者に見てもらい、先ずはペア、または小グループでビデオの内容について話し合い、その後クラス全体で話し合う。

ビデオについて討議する際にはデマンド・コントロール・スキーマ（Dean & Pollard, 2013）をガイドとして使用し、学習者の意見を引き出す。

1. ビデオを観た学習者たちはどのような課題に気付いたか？これらの課題はデマンド・コントロール・スキーマを使ってどのように確認できるか？
2. 学習者はどのようなコントロールに気付いたか？
3. もし自分が同様の状況にいた場合デマンド・コントロール・スキーマをどう活用するか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Cartwright, B.E. (2009). *Encounters with reality: 1,001 interpreter scenarios*,2nd Edition. Alexandria, VA: RID Press.

Dean, R.K., & Pollard, R.Q. (2013). *The demand control schema: Interpreting as a practice profession.* CreateSpace. See also http://demandcontrolschema.com

Humphrey, J. & Alcorn, B. (2007). *So you want to be an interpreter? An introduction to sign language interpreting (4th ed.).* Everett, WA: H&H Publishing Co., Inc.

Kidder, R.M. (2003). *How good people make tough choices (Rev. ed.).* New York: HarperCollins Publishers.

Kohlberg, L. (1981). *The philosophy of moral development: Moral stages and the idea of justice.* San Francisco: Harper & Row.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethics case study 2: Individual vs. community by Clark, S.* [Video, followed by Reflections videos, below]. Boston, MA: NCIEC. Retrieved from https://vimeo.com/104093024

- Reflections by Diaz, R. & Schertz, B. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104156339
- Reflections by Grigg, K. & Horn, A. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104092882
- Reflections by Marsh, T. & Dale, B. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104092937
- Reflections by Pollock, J. & Briggs, J. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104092878
- Reflections by Poore, K. & Schertz, J. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104092879
- Reflections by Tester, C. & Plaster, R. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104092877
- Reflections by Hinson, B. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104092876

第 2 章：RID と NAD の専門職行動規範の歴史

ねらい

RID と NAD の倫理綱領と NAD–RID 専門職行動規範の歴史を詳しく知る。講義、クラス内での活動、さまざまな場での討議・討論などを通して、これらの綱領が、意思決定のプロセスも含めろう通訳実践に及ぼす影響について理解を深める。

能力

4.0 通訳実践力(4.8)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は：

1. RID と NAD の倫理綱領の歴史がろう、聴通訳者の役割や機能にどのように影響したか説明できる。
2. RID-NAD 専門職行動規範の7つの原則を挙げ説明することができる。
3. RID の苦情処理過程での進め方を理解している。

主要課題

1. RID と NAD が共同して NAD–RID 専門職行動規範を作るという結果に導いたいくつかの歴史的な問題とは？
2. RID と NAD の協働は、ろう、聴通訳者の役割や機能にどのような影響を及ぼしたか？
3. ポリシー(方針)・規則・規範などとガイドラインの違いは何か？
4. ろう通訳者にとって通訳および関連分野（例：医療、メンタルヘルス、法定通訳）の最新情報やトレンドを把握していることは重要である。それはなぜか？

演習 1

NAD-RID Code of Professional Conduct (RID, 2005)と Role Definition: *A Perspective on Forty Years of Professionalism in Sign Language Interpreting* (Swabey & Mickelson, 2008) を読み直し、話し合う。下記について復習し話し合う。

1. RID の倫理綱領と NAD の倫理綱領
2. NAD–RID 全米通訳委員会と、NAD–RID 専門職行動規範(RID, 2005)の合同作成
3. NAD と RID の関係の再確認についての会長の報告(RID, 2008)

DID YOU KNOW? *かつてNAD とRID にはそれぞれの認定制度があり、認定した通訳者のためにそれぞれの組織の倫理綱領があった。この二つの組織は 2005 年に制度を統一してNAD-RID 専門職行動規範を作った。*

演習 2

Ethical Practices System and Enforcement Procedures (RID, 2013)に詳しく書かれている RID の苦情処理制度の基本について読み、話し合う。

1. RID の倫理実践制度（Ethical Practice System=EPS）
2. NAD-RID 専門職行動規範（Code of Professional Conduct=CPC）
3. EPS 執行手続き(Enforcement Procedures)

ASL Ethics Videos (RID, 2014)を見て話し合う。倫理上の苦情処理、専門職行動規範について詳しく述べ、通訳場面に関する対立などその他参考になる情報を扱う。

演習 3

NAD-RID 専門職行動規範 (RID, 2005)の各セクション、中心的理念、構造について復習し、話し合う。

1. セクション
   - 名称
   - 範囲
   - 理念
   - 行動規範
   - 原則
2. 中心的な理念：害を与えてはならない
3. 構造
   - 原則 (Tenets)
   - 行動規範 (Guiding Principles)
   - 模範的行動 (Illustrative Behaviors)

演習 4

NAD-RID Code of Professional Conduct (RID, 2005)の 7 つの原則、それぞれの行動規範及び模範的行動について詳しく述べ、話し合う。付録 F にある第 4 編の発表スライドを活用する。

NAD-RID 専門職行動規範

原則 1.0　機密保持
通訳者は機密情報の扱いの基準を遵守する。
行動規範：通訳者はコミュニケーションの言語、文化の両面の支援者として信頼される存在であることを保つ。秘密保持は通訳利用者にとって非常に重要であり、すべての関係者を守るという意味からも肝要である。

- それぞれの通訳場面（例：初等、中等、高等教育、または、司法、医療、精神保健など）には秘密情報の規範・基準がある。
- 合理的な通訳基準のもと、専門職の通訳者は、機密保持に関する一般的な規定及び様々な機密レベルの適用について知識を有することが期待される。
- 秘密保持の例外となるのは、例えば、連邦法や州法で義務つけられている虐待や自殺の恐れの報告、または証人喚問に応じる場合などである。

原則 2.0　専門職としての技術と知識
通訳者は、それぞれの通訳場面に必要な専門的技術と知識を有する。
行動規範：通訳者は、常に言語使用の変化、通訳という職業に関すトレンド、アメリカのろうコミュニティに関する最新情報などを把握していることが望ましい。

- 通訳者は、通訳依頼を受けた際に、その現場が要求するスキル、コミュニケーションモード、現場の状態、通訳利用者のニーズなどを考慮したうえで、実際に依頼を引き受けるかどうか判断する。
- 通訳者はアメリカのろう文化およびろう関係の知識やリソースを有するべきである。

原則 3.0　態度・振る舞い
通訳者はそれぞれの訳現場の状況に相応しい振る舞いをする。
行動規範：通訳者は、現場での振る舞い、外観が適切であることが望ましい。通訳者としての役割に反する結果を招いたり、対立する利害関係に直接的または間接的に関わることは避ける。

原則 4.0　通訳利用者への敬意
通訳者は、利用者に対して敬意をはらう。
行動規範：通訳者の資格の有無、手配可能か否か、その他現場の状況などを考慮しなければならない事実はあるが、通訳者の選定および通訳上の調整の際、できる限り通訳利用者の希望を尊重する。

原則 5.0　同僚への敬意

通訳者は、他の通訳者、インターン、通訳課程を学ぶ受講生・学生に敬意をはらう。

行動規範：通訳者は、効果的な通訳サービスの提供のために同僚と協働するのが望ましい。また、各々の通訳者の同僚との関わり方は、手話通訳業界全体に影響を及ぼすことも理解する。

原則 6.0　事業としての実践

通訳者は倫理的に事業実践を続けていく。

行動規範：通訳者は、働く形態がフリーランスであれ、団体・エージェントなどからの派遣であれ、専門職として相応しい仕事をすることが求められる。プロフェショナルの通訳者は、資格と業績に見合った報酬を得る。また、効果的なサービス提供のため、現場の労働環境を整える権利を有する。

原則 7.0　専門性の向上

通訳者は、常に専門性を高めること

行動規範：通訳者は、常に知識やスキルの向上を行うことで、通訳力やその専門性の水準を高め保持すること。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Registry of Interpreters for the Deaf. (2014). *ASL ethics videos*. Retrieved from http://rid.org/ethics/

Registry of Interpreters for the Deaf. (2013). *Ethical practices system.* Retrieved from http://rid.org/ethics/

Registry of Interpreters for the Deaf. (2013). *Enforcement procedures.* Retrieved from http://rid.org/ethics/

Registry of Interpreters for the Deaf. (January 2008). *President's report: Reaffirming the NAD-RID relationship. Alexandria, VA: RID VIEWS.* Retrieved from http://rid.org/publications-overview/views/views-archives/

Registry of Interpreters for the Deaf. (2005). *NAD-RID code of professional conduct.* Retrieved from http://rid.org/ethics/code-of-professional-conduct/

Swabey, L., & Mickelson, P.G. (2008). Role definition: A perspective on forty years of professionalism in sign language interpreting. In C. Valero- Garcés and A. Martin (Eds.) *Crossing Borders in Community Interpreting: Definitions and Dilemmas.* (Vol. 76). Philadelphia, PA: John Benjamins Publishing.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Ethical reflections by Diaz, R. & Schertz, B. Retrieved from https://vimeo.com/104156339

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethical reflections by Grigg, K. & Horn, A.* Retrieved from https://vimeo.com/104092882

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethical reflections by Marsh, T. & Dale, B.* Retrieved from https://vimeo.com/104092937

第 3 章:ろう通訳者と倫理

ねらい

事例検討を通して、さまざまな倫理上の課題について考え、話し合う。講義、クラス内での活動、様々な場面での討議・討論を通して、NAD–RID 専門職行動規範に則った倫理的な意思決定を行うための知識やスキルを高める。

能力

3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.4)
4.0 通訳実践力(4.8)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. なぜ倫理的な意思決定がろう通訳者の仕事にとって重要であるか、明確に説明できる。
2. NAD-RID 専門職行動規範に従った倫理的な意思決定を行うことができる。

主要課題

1. それぞれの事例において、判断の根拠となる倫理原則はなにか？
2. ろう通訳者と聴通訳者の倫理的意思決定のプロセスには違いがあるか？
3. ろう通訳者は、自分自身が持つ価値観、偏見、基準などと、職業上行う倫理的意思決定を区別するにはどうすればよいか？
4. ろう通訳者だから倫理上特に考慮することや直面する課題などはあるか？

演習 1

本編の第 1 章で学習した *Ethical Considerations: Case Study by Clark, S.* (Individual & Community)の内容を踏まえて、下記のように段階的にケース分析(事例検討)を行ってもらう。

TRAINER NOTE *事例を追加するならば、Encounters with Reality: 1,001 Interpreter Scenarios (Cartwright, 2009)の中の事例をろう通訳者に適した内容に修正して使用することができる。*

1. 何が起こっているのか？
2. なぜ起こっているのか？
3. 選択肢は何か？
4. どの選択肢が一番良いか？それはなぜか？
5. 選択したことをどう実行するか？
6. どのような成果が考えられるか？
7. どんな結果がありうるか？それは誰にとってか？

演習 2

倫理的な意思決定に至るプロセスおよび事例を検討する際の手順について学習者を指導する。下記に示した事例において、ろう通訳者が直面する倫理的な課題について話し合う。この学習の目的は、ろう通訳者たちの意思決定能力の効果性を評価することと長所と欠点を知ることである。

TRAINER NOTE *デマンドコントロール・スキーマ*(Dean & Pollard, 2013)*は今後の事例検討に役立つ。選んだ事例にはどのようなデマンドが確認できるか？―環境、人間関係、ことば、内面―その状況で通訳するのにどのようなコントロールが適切か？*

学習者たちにペアを組むか、小グループを作ってもらう。以下の事例（または本章の最後にある参考文献の中から選び出す）を各グループに配布し、下記の質問に沿って話し合ってもらう。その後グループごとに分析した結果をクラス全体に発表する。

1. この状況に置かれた場合、あなたならどうするか？
2. 意思決定にあたりどのような点を考慮するか？
3. NAD-RID 専門職行動規範に照らして自分の決定が正しいことを説明できるか？
4. 似たような場面だが、違った行動をとる(判断をする)ケースはあり得るか？それはなぜか？

事例 1 ― (ろう通訳者である）あなたと聴通訳者は、あるろう者がこれから受ける大きな手術について医師から説明を受ける場面の通訳を担当した。2週間後、あなたは家族と一緒に参加していたろうコミュニティのイベントで、先日通訳したこのろうの男性とばったり出会った。あなたは専門職として取るべき態度を貫こうとしたが、そのろう者はしつこくあなたと話したがった。できるだけ失礼のないように彼を遠ざけようとしたが、しばらくすると妻を連れてやって来た。彼は先日の医師との話しの内容を妻に説明してほしいと言う。あなたは内容を正確に覚えていないと言って断るが、彼は話すことを許可するので、どうしても今度の手術について妻に話して欲しいと食い下がる。

事例 2 – (ろう通訳者である)あなたと聴通訳者は、最近中国からアメリカに移住してきて ASL も英語もできないろうの患者がメンタルヘルスカウンセラー(聴者)と面談する場面の通訳を担当した。カウンセラーは特定の精神疾患が疑われるので、病院でスクリーニング検査を受けてみることを患者に勧めた。あなた(ろう通訳者)は地元にあるろう者専門のメンタルヘルスセンターがこのカウンセラーと患者にとって一番良い情報源になるのではないかと考える。

事例 3 – NIC 米国通訳認定制度の上級資格を有し、15 年のキャリアを持つベテラン通訳者のジョンから連絡を受ける。(ろう通訳者である)あなたと一緒に通訳現場を担当しないかという誘いを受ける。ジョンは地元の職業リハビリテーション事務局から通訳依頼を受けていた。内容は職業リハビリテーション・カウンセラー(聴者)と 16 歳のろう者のメイヴとの面談の通訳だ。メイヴは ASL を母語とするバイリンガルだが、最近視力をほとんど失っている。この面談でカウンセラーは、就労のための資格の基準、職業訓練、雇用などについて説明ことになっている。あなたは盲ろう通訳の経験もなく、盲ろうコミュニティに馴染みがない。また彼らのコミュニケーションニーズについても詳しくない。あなたの地元には他にろう通訳者がいない。

TRAINER NOTE *学習者には、上記の事例の他に、自分たちでもろう通訳の実践の事例を考えてもらう。これは授業中の課題としてでも宿題としてでもかまわない。*

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Cartwright, B.E. (2009). *Encounters with reality: 1,001 interpreter scenarios,* 2nd Edition. Alexandria, VA: RID Press.

Dean, R.K., & Pollard, R.Q. (2013). T*he demand control schema: Interpreting as a practice profession.* CreateSpace. See also http://demandcontrolschema.com

Gish, S. (1990). *Ethics and decision making for interpreters in health care settings: A student manual.* Minneapolis, MN: College of St. Catherine. [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethical case studies by Deaf interpreters.* [Videos]. Boston, MA: NCIEC. [M4/U3]

- Briggs, J. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104182638
- Dale, B. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104178133
- Diaz, R. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104028837
- Grigg, K. [Videos]. Retrieved from https://vimeo.com/104020505 and https://vimeo.com/104020508
- Horn, A. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/103869694
- Marsh, T. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104028836
- Plaster, R. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104178132
- Pollock, J. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104182594
- Poore, K. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104028835
- Schertz, B. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104178134
- Schertz, J. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104051870
- Tester, C. [Videos]. Retrieved from https://vimeo.com/104178135 and https://vimeo.com/104178136

Stewart, K.M. & Witter-Merithew, A. (2006). *Ethical decision-making: A guided exploration for interpreters.* Burtonsville, MD: Sign Media Incorporated. [Curriculum Resource]

第 4 章:アライとしてのろう通訳者

目的

アライとしてのろう通訳の役割について検討する。講義、クラス内での活動、さまざまな場面での討議・討論を通して、NAD-RID 専門職行動規範に従い、ろう、盲ろう者と聴の通訳利用者間の効果的なやりとりを進めるための方策を考え出す。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.6.4)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.4)
4.0 通訳実践力(4.6, 4.7, 4.8)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. アライ(訳注:理解しあい、協働できる人)、とアドボケイト(訳注:理解し、擁護してくれる人)の役割の違いについて説明できる。
2. アライとろう通訳者の役割の共通点について説明できる。
3. 仕事をする上で、ろう通訳者のプロとしての立場、公平性、誠実さを維持することの大切さを理解する。
4. 通訳前、中、後の倫理的意思決定に影響しうる、教育的、認知的、生理学的、社会言語学的な要素とコミュニケーションニーズを理解できる。

主要課題

1. アライ、アドボケイト、ろう通訳者のそれぞれの役割の相違点と共通点は何か?
2. ろう通訳者は、通訳者としての役割から一線を越えることなく、利用可能な通訳やコミュニティのサービスに関する情報をどのように正しく伝えられるか?

演習 1

アライとアドボケイト、それぞれの役割や責任も含め、比較して相違点を述べる。この学習の準備として、*Integrating and Interpreting Service Models* (Bar-Tzur, 1999) と *Deaf Self Advocacy Training Curriculum* (NCIEC, 2012)を見てもらう。アライとアドボケイトの区別方法について話し合ってもらう。

演習 2

小グループを作る。アドボケイトに対しアライとしてのろう通訳者の役割に関する話し合いの土台として、各グループは事例を考案する。
小グループはそれぞれ、事例の中の問題について各自発言し、互いにその発言を比較する。
小グループは他のグループと集まり、全体で結論について共有し話し合う。

演習 3

以下について学習者は復習し話し合う。

1. ろう通訳者にとって、仕事をするときにプロとしての立場、公平性、誠実さを維持するのが大切なのはなぜか？
2. 通訳前、通訳中、通訳後のろう通訳者の倫理的意思決定に影響を及ぼす可能性のある教育的、認知的、生理学的、社会言語学的要素およびその他のコミュニケーションニーズを評価するための方略にはどのようなことが挙げられるか。
3. ろう通訳者は、通訳者としての役割から一線を越えることなく、利用可能な通訳やコミュニティのサービスに関する情報を提供したり、そのようなサービスにつないだりするにはどのようにしたらよいだろうか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Bar-Tzur, D. (1999). *Integrating the interpreting service models.* Retrieved from http://www.theinterpretersfriend.org/misc/models.html

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Advocating for yourself and others. In Deaf self advocacy training curriculum toolkit (2nd edition), Trainer version.* Boston, MA: NCIEC.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethical reflections by Pollock, J. & Briggs, J. Retrieved* from https://vimeo.com/104092878

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethical reflections by Poore, K. & Schertz, J. Retrieved* from https://vimeo.com/104092879

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethical reflections by Hinson, B. Retrieved* from https://vimeo.com/104092876

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethical reflections by Tester, C. & Plaster, R. Retrieved* from https://vimeo.com/104092877

第 5 編:ろう通訳者の通訳理論と実践

本編と各章の概要

概要

本編では、通訳理論のさまざまなモデルをろう通訳者の仕事に適用する。学習者は逐次通訳、同時通訳、サイトトランスレーションの理論や実践を学ぶ。また、観察やロールプレイの演習を行うことで、さまざまなアプローチやディスコースのスタイルによる経験を積む。

ねらい

ろう通訳者の効果性を改善するために通訳理論モデルを用いる有益性について学ぶ。意思決定は通訳や翻訳の任務の中核である。また学習者は、ろう通訳者としてのスキルを向上させるために意思決定のプロセスを分析する。また、本編では、通訳やろう通訳実践について最近出されている多くの研究論文を読み、分析し、まとめることで、この分野の新しい情報を常に把握することの重要性を強調している。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.4, 2.5, 2.6.3, 2.6.4)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.3)
4.0 通訳実践力(4.1, 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本編を履修した学習者は:

1. 通訳や翻訳のスキルの分析や向上に通訳モデルを用いる方法を示すことができる。
2. ろう通訳実践力に理論を関連付けることができる。
3. 意思決定の方法とは、批判的思考と倫理的思考のプロセスであることを説明できる。
4. 効果的な通訳や翻訳の方略について説明できる。引き出し戦略、文脈戦略も含む。

第５編

事前に必要な知識とスキル

1. ろう通訳者の過去、現在、未来
2. ろうコミュニティ内の人種的文化的多様性
3. 通訳利用者の把握―文化、言語、コミュニケーションスタイルの確認
4. ろう通訳者の倫理の考察及び課題

アプローチと順序

読書課題、ビデオ、発表スライド、クラス内での練習やオープンダイアローグを行う活動を含め、本編の4つの章に沿って順序よく指導するのがよい。講師がそれを行うことで、また関連資料を自宅学習の課題として補うことで、学習者がろう通訳の効果的な実践に必要な重要コンセプトを理解できるようになる。

第1章　通訳モデル
第2章　翻訳
第3章　逐次通訳
第4章　同時通訳

第 1 章:通訳モデル

ねらい

本章では通訳プロセスの理解やろう通訳実践の向上に役立つ主要な通訳モデルの全体像について述べる。これには、Cokely の通訳の社会言語学的モデル、Colonomos の通訳の統合モデル(IMI)、Gile の努力モデル、Gish の情報プロセスモデルなどが含まれる。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.2, 2.3, 2.4, 2.5, 2.6)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.2, 3.3, 3.4)
4.0 通訳実践力(4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7, 4.8)
5.0 専門職的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. Cokely の通訳の社会言語学的モデル、Colonomos の通訳の統合モデル(IMI)、Gile の努力モデル、Gish の情報プロセスモデルの主な特徴を解説できる。
2. 通訳スキル向上やよりよい意思決定のためにそれぞれのモデルを用いた例を 2、3 挙げることができる。

主要課題

1. ろう通訳者が通訳プロセスを理解するのに、この 4 つの通訳モデルがどう役立つか?
2. ろう通訳者は、通訳者として自分が優れている面、あるいは改善しなければならない点などを確認するために、これら通訳モデルをどのように活用できるか?
3. ろう通訳者が、通訳失敗の根本的な原因を知り解決するのに、この4つのモデルがどう役立つか?
4. ろう通訳者は、通訳現場で有効な判断をするために、これら通訳モデルどう活用できるか?

演習 1

この学習の準備として、*So You Want to be an Interpreter?* (Humphries & Alcorn, 2007)の通訳プロセスを見てもらう。付録 D の通訳、翻訳の定義についての用語解説を読み、話し合ってもらい、以下について意見交換を行う。

1. 通訳とはどのようなことを意味するのか？また通訳とはどのようなことをする仕事なのか？
2. 翻訳とはどのようなことを意味するのか？また翻訳とはどのようなことをする仕事なのか？
3. 内容を翻訳する場合、または通訳する場合、それぞれ目指すのは何か？
4. 翻訳プロセスの概要を述べよ。

演習 2

Teaching Modules for the Classroom: Deaf Interpreter/Hearing Interpreter Teams (NCIEC, 2013) のイントロダクションと概要を見て話し合ってもらい、以下について意見交換を行う。

1. ろう通訳者が行う言語内通訳（イントラリンガル）と言語間通訳の違いは何か？
2. 言語内通訳（イントラリンガル）の例をいくつか挙げて、それらについて討議する。
3. 学習者はこれまで担当した言語間通訳の経験について改めて検証する。
4. クラス内に第二または第三手話言語が流暢な者はいるか？

Medical Appointment 1 & 2 Series (NCIEC, 2014)のビデオを使用し、通訳利用者の言語評価などについて話し合い、演習 3、4 のディスカッションの導入とする。話し合いを通して、学習者に以下のことを行ってもらう。

1. ろうあるいは盲ろうの利用者の使用言語を分析する（例：ASL が優勢な言語、セミリンガル、など）
2. 利用者に適した通訳モードを確認する。
3. これまで話し合ってきた通訳モデルに関連して、利用者の言語またはコミュニケーションニーズが通訳上どのような課題となり得るか確認し、その課題の解決方法について意見交換を行う。

演習 3

この学習の準備として、*Cokely Sociolinguistics Model of the Interpreting Process* (Solow, n.d.)の解説を読んでもらい、*Interpretation: A Sociolinguistics Model* (Cokely, 1992)を見てもらう。Cokely モデルの各処理段階について復習する。

1. メッセージの受容–起点言語のメッセージを知覚する
2. 初期処理–認識する
3. 短期記憶として保持…チャンク化する
4. 意図された意味の把握…理解する
5. 意味的等価性の確定…分析する
6. メッセージの統語的形成…準備する
7. メッセージの産出…目標言語を表出する

演習 4

この学習の準備として、*Integrated Model of Interpreting* (Colonomos, 1989, rev. 2015)を復習する。このモデルの要素である、「集中→変換→構想（C R P」）について復習し話し合ってもらう。

1. 集中する–起点言語のメッセージを理解する（観察、分析、メッセージの解放）
2. 変換する–起点言語の枠組みから目標言語への変換（視覚化）
3. 構想する–目標言語でのメッセージの構築（構成、修正、発信）

Cokely モデルと Colonomos モデルを比較するディスカッションを行う。それぞれのモデルは、通訳の評価やフィードバックにおいてどのように役立つか？

演習 5

この学習の準備として、以下を見てもらう。

1. *Basic Concepts and Models for Interpreter and Translator Training* (Gile, 2009) にある、「翻訳と通訳の理解」と「通訳の努力モデル」
2. *Deaf Interpreter Institute: Critical Issues Forum 2006* (NCIEC, 2012)にある、「ろう通訳のプロセス：理解、知識習得」と「通訳・翻訳の努力モデル」

Gile モデルの主な要素について復習し話し合う。C（comprehension 理解力）＝KL (knowledge of the language 言語の知識）＋ELK（extra-linguistic knowledge 言語以外の知識）+A（interpreter’s analysis 通訳者の分析）

1. 通訳する内容を効果的に、また深いレベルで理解する上で、KL と ELK が貢献することを強調する。
2. KL と ELK がないと、効果的な翻訳や通訳のために把握しようとさらに努力しなければならなくなること、また、事前準備は、内容把握の負荷を減らすのに不可欠であること、それによって通訳に必要な知的エネルギーを保つことができるのだということについて、説明する。

講師が持っているビデオを 1 個または 2 個以上を選び、以下についてグループで鑑賞後話し合ってもらう。

1. ろうや盲ろうの通訳利用者の言語特徴（例：ASL が優勢な言語、セミリンガル、など）を確認し、必要な通訳モードを決める。
2. Gile モデルに照らし、通訳利用者が使用する言語の特徴、あるいは、コミュニケーションスタイルによって、通訳者のメッセージの理解に負荷がかかる可能性があることについて話し合う。通訳利用者が発するメッセージの分析に役立つ KL や ELK にはどのようなものが挙げられるか学習者に考えてもらう。

3. 通訳利用者の言語使用やコミュニケーション方法は、通訳者の記憶する作業と訳出する努力に対して、主にどのような問題となり得るかについて話し合う。
4. メッセージを理解する負荷を軽減するためにろう通訳者ができることを確認する。

演習 6

この学習の準備として、*Gish Approach to Information Processing* (Gish, 1996)を読んでもらう。このモデルの構造について学び、話し合う。: 話者の意図、テーマ、目的、構成単位、データや詳細

ビデオを選びマッピング学習（付録 F の発表スライド参照）や Gish の構造を利用して、学習者が適切な構造的要素を使ったディスコースマップを作ることができるよう指導する。

学習者には、Gish モデルと、その他の3つの通訳プロセスモデル（Cokely, Colonomos, Gile）の共通点と相違点を分析してもらう。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Cokely, D. (1992). *Interpretation: A sociolinguistic model.* Burtonsville, MD: Linstock Press.

Colonomos, B.M. (1989, rev. 2015). *Integrated Model of interpreting.* College Park, MD: Bilingual Mediation Center. http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2016/01/IMI-Supplemental-Colonomos-2015.pdf

Gile, D. (2009). *Basic concepts and models for interpreter and translator training* (Rev. ed.). Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing.

Gish, S. (1996). The Gish approach to information processing. In S. Boinis, P.G. Mickelson, P. Gordon, L.S. Krouse, & L. Swabey, *MRID self-paced modules for educational interpreter skill development.* (pp. 52-89). Little Canada, MN: Minnesota Educational Services.

Solow, S.N. (n.d.). Mentoring toolkit: Cokely's model 1: *The importance of models and Cokely's model 2: Cokely's model.* [Videos]. Boston, MA: National Consortium of Interpreter Education Centers. Retrieved from http://www.interpretereducation.org/aspiring-interpreter/mentorship/mentoring-toolkit/mentoring-toolkit-videos/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Medical appointment series.* [Videos]. Boston, MA: NCIEC.

- Medical appointment 1: Meeting with Deaf patient. [Video]. Retrieved from https://vimeo.com/104156339
- Medical appointment 2: Meeting with Deaf patient and doctor- patient appointment. [Video.]. Retrieved from https://vimeo.com/104494172

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Deaf interpreter/hearing interpreter teams.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/teaching/classroom-modules

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Medical appointment 2: Hearing interpreter reflections in *Medical appointment series.* Boston, MA: NCIEC. Retrieved from https://vimeo.com/104177981

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Medical appointment 1: Meeting with Deaf patient in *Medical appointment series.* Boston, MA: NCIEC. Retrieved from https://vimeo.com/104156339

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Medical appointment 2: Doctor-patient appointment in *Medical appointment series.* Boston, MA: NCIEC. Retrieved from https://vimeo.com/104494172

第 2 章：翻訳

ねらい

本章には、ろう通訳者が一般的に実践する翻訳の方略（サイトトランスレーションも含む）を学習者に体験してもらい、逐次通訳や同時通訳のスキルを築く土台としての翻訳のさまざまな方略を実践する機会を与える、という二つのねらいがある。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.2, 2.4, 2.5, 2.6)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.2, 3.4)
4.0 通訳実践力(4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7, 4.8)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は：

1. 手紙、一般的な書式で書かれた書類、説明書等の書記形式の内容を ASL やその他の適切な目標言語に訳す「サイト（テキスト）トランスレーション（sight/text translation）」を行う。
2. ろうや盲ろう通訳利用者の手話によるメッセージを書き留める「筆記トランスレーション（written translation）」を行う。
3. ASL を書記英語に、またその逆に通訳するための方略を検証し、その方略が逐次通訳、同時通訳にも適用できることを確認する。

主要課題

1. 筆記トランスレーション（written translation)とサイト(テキスト)トランスレーション(sight translation)にはどのような違いがあるか確認する。
2. サイト（テキスト）トランスレーションは、逐次、同時通訳とどう違うか？
3. ろう通訳者がサイト（テキスト）トランスレーションをすることが適切であると言えるのはどのような場面か考える。
4. 翻訳に必要な知識や準備はどのようなものか？

演習 1

本章の準備として、*Toward Effective Practice: Competencies of the Deaf Interpreter* (NCIEC, 2010)にある用語集や *The Effective Interpreting Series: Translating from English* (Patrie, 2001)に概説されている翻訳の手順を見てもらう。

第5編
第2章

下記の定義について、復習し話し合う。

1. 文書・録画翻訳—ある言語で書かれた内容と同等の意味を他の言語の書き言葉に訳すことをいう(「翻訳」とも言う)。ASL には書き言葉がないため、書き言葉から手話という視覚的な言語に翻訳することになる。これにはその場で利用者に向けて訳出する方法と録画する方法がある。

   以下の二つのスキルが書記・録画翻訳の中核である。

   - 読解力および ASL の理解力(例:ある言語の書き言葉を理解する力)
   - 書く力および ASL の表出力(例:起点メッセージと同等の意味を第二言語に訳して筆記・録画する力)

   多くのプロの翻訳者は、自分の優勢言語への訳出という一方向の翻訳しか手がけない。音声言語通訳者あるいは手話通訳者と違って、翻訳者は時間もその他参考資料も十分にあり、原文の意味のニュアンスを捉える最良の方法を考えるゆとりがある。

2. バックトランスレーション—すでに他国語に翻訳された文章を元の言語に訳し戻す作業をいう。 バックトランスレーションは、はじめの翻訳者とは違う人が行う。バックトランスレーションを行う人は、(原文は見ずに)訳出された文章のみを使用し、題材に関する専門的知識で不明確な箇所や内容が曖昧な部分を指摘する。

3. バックトランスレーション・チェック—文の内容に関して知識のある人またはその分野の専門家が行うもので、最初に翻訳されたものとバックトランスレーションされたものとを比較する。このチェックの結果を受けて、文の内容を直すために必要に応じて微調整がされる。

4. サイトトランスレーション—書き言葉を即座に音声または手話に訳出することをいう。

   以下の 3 つのスキルがサイトトランスレーションの中核である。

   - 読むスキル(例:ある言語で書かれたテキストを読んで理解する力)
   - 口頭もしくは手話で話すスキル(例:ある言語で書かれたテキストの内容を他の言語に訳しながら口頭または手話で産出する)
   - 分析するスキル(例:内容を把握するために読む、チャンク化する、言い換える、発展させる)

ろう通訳者に、書記または活字化された文章を ASL、あるいはその他視覚コミュニケーション形式への翻訳が要求される場面について、確認し話し合う。

演習 2

この学習の準備として、Basic Concepts and Models for Interpreter and Translator Training (Gile, 2009)にある、サイトトランスレーションにおける努力と通訳と翻訳における理解について、学習者に見てもらう。

活字化された英語を ASL に翻訳する例について復習し話し合う。

1. 固定化された(フローズン）文章–合衆国憲法前文または合衆国人権宣言
2. 手順を説明する文章–レーザー手術後の目の処置についてのサイトトランスレーション（Beldon, 2006）
3. 説明文–Examples of a Deaf Interpreter's Work ろう通訳の仕事の例(Hollrah, 2012)のサイトトランスレーション(Morales)

下記について話し合いを行う。

1. 活字化された英語から ASL へ、またその逆の翻訳をする際に関係する Gile の理解と努力モデルにある要素
2. さまざまな文書を翻訳するのに必要な言語以外の知識（ELK）（例：芝居脚本、銀行の当座貸越の知らせ、SSI/SSDI 申し込み用紙、治療についての医療同意書、アパート賃貸契約書など）
3. 上記のそれぞれの文章の訳出に必要な準備、専門用語、処理にかかる時間

演習 3

英文の印刷物を例として使用する（例：診察記録、同僚からの E メール、術後の処置の指示、就職申し込み用紙など）。下記の手順に従って、この印刷物を ASL に翻訳するプロセスを指導する。

1. 予測—起点言語の資料にあるタイトルや情報をもとに、伝えたいポイント、伝える目的、対象となる情報の受け手を予測する。
2. 内容のマッピング—文章をしっかりと読みこなし、アウトライン(概要）またはマッピング(概念図）を作成する。必要ならば、アウトラインまたはマッピングを完成させるためにもう一度読み直す。
3. 特徴の分析—起点言語テキストの言語的特徴やその機能を確認する。
4. 内容の視覚的表現—起点言語テキストのコンセプトを絵や図として表現する。その際には、言葉や手話にとらわれず、テキストの意味や意図に集中する。
5. 目標言語の特徴を予測する—視覚的な図を描く際に注釈（gloss)を付けていくことで、目標言語の同等の特徴を予測する。
6. 目標言語で語る–起点言語の視覚的表現をもとに目標言語で語る。

7. 比較・対比分析—ASL や英語で使われている特徴を比較、対比し、5 で行った予測を評価する。
8. 翻訳—ASL -英文の分析から得た知識を参考に、起点言語テキストを目標言語に翻訳する。

演習 4

ペア、または小グループごとに分け、講師選定の英文や外国語（スペイン語、フランス語など）の文章を、上記のディスコース分析のプロセスに沿って学習者に一歩一歩分析してもらう。

ネットや印刷物として簡単に入手できる、申し込み用紙、募集要綱、登録用紙などを起点言語の書類として学習者に提供する。学習者にはより難易度の高い課題として、これらの内容を触手話、ASL とジェスチャーの組み合わせ、ジェスチャーと紙に書く図形等への翻訳を行ってもらう。

学習者の翻訳している様子を撮影する。つまり、クラスメートにその翻訳を見てもらい、自分たちが選んだ通訳モデルを用いた翻訳を分析する。

TRAINER NOTE *演習 4 の翻訳プロセスを練習する際には、4 つの通訳理論モデルを全て活用するようにする。*

演習 5

Interpreter Discourse: English to ASL Expansion/ASL to English (Finton & Smith, 2009) から選んだ章を見てもらい、ASL—英語の両言語の間の通訳における圧縮（compression）と展開の（expansion)のテクニックの概念をよく理解してもらう。これらの概念やろう通訳実践への適用性について復習し話し合う。
The Pursuit of ASL: Interesting Facts using Classifiers (Stratiy, 1999)から二つビデオを選ぶ。そこで通訳者が内容を展開して表している様子について学習者は確認し話し合う。

演習 6

学習者に実生活の場面を模したロールプレイを行ってもらう。病院の診察を受ける前に書き込む問診票、あるいは講師が選んだ同様の文書を学習者に提示し、英語から ASL へのサイト（テキスト）トランスレーションを行ってもらう。

小グループに分かれ、次の役割を割り当てる：サイト(テキスト)翻訳者、ろうまたは盲ろうの通訳利用者、観察者/ノートテイカー。サイト(テキスト)翻訳者は、数分間かけて問診表（または課題の文書）を読み、演習 3 にある準備段階から当てはまるものを決める。

ロールプレイを行う。終了後に、再びクラス全員が集合し、以下について観察したことを話し合う:

1. 引き出すための方略—情報を引き出して意味をより明確に把握することを狙いとする（例：促す、探る、質問する、前に語られたことと関連付ける、言い換える、ろうや盲ろう通訳利用者のメッセージに対する通訳者の理解が正しいかどうか確認にする等）。
2. 産出に関する方略—通訳利用者の経験や言語体系に合った目標言語/コミュニケーション形式の産出をねらいとする。通訳利用者が使用する統語形式も含む（例：時系列に話す、空間活用、時制表現、代名詞化、ロールシフト、回答範囲を狭めた質問形式への変更、レジスター—の調整、など）。
3. 文脈からの情報提供方略—視覚的描写、話し合われている様々な概念を関連付け、繰り返し表出し、再構成、類推、例を挙げる、定義する、文化的情報の追加、状況に適したプロトコルの説明などを行う。

演習 7

講師が選んだ字幕付き映画の DVD やテレビ番組を使って、リアルタイムで英語から ASL へのサイト（テキスト）トランスレーションを行う。大抵の学習者が見たことのあるポピュラーな、よく知られている番組を選ぶ。

1. 出てくるトピック、話し手の意図、言語上目立つ特徴、内容等を予測してもらう。それぞれの学習者は、字幕付き動画の一部(3～4 分の長さ)を選ぶ。
2. 学習者は選んだ部分を即時翻訳する。翻訳の様子を観察している学習者は、ASL への訳出が音声英語の影響を受けていないかチェックする。
3. 次に、2 と同様のことをするが、今回は即時翻訳ではなく、逐次翻訳を行う。翻訳者は訳出可能な長さの動画(チャンク)を見たら、一度 DVD を停止してその部分の翻訳を産出し、また適当な長さを見て止めるというように、DVD を付けたり止めたりと調整しながら逐次翻訳を行う。

即時、逐次翻訳を行ったことについての経験や視点を教室内での話し合い、レポートまたは動画を使った宿題、またはその両方として学習者たちの意見を共有する。

演習 8

Teaching Modules for the Classroom: To Your Future Health －Contemplating Interpreting in Healthcare (NCIEC,2014)にあるサイトトランスレーションについて見てもらう。

以下のような場面において、どのような条件ならばろう通訳者が 1～3 の行為を行うのが適切とされるかについて話し合う。

1. ヘルスケア担当者が不在の場面で、ろう通訳利用者のためのサイト/テキスト翻訳
2. ヘルスケア担当者がいるところでの、ろう通訳利用者のためのサイト/テキスト翻訳
3. サイト/テキスト翻訳を行うのではなく、通訳する

教室内での話し合い、筆記または動画を使った宿題、またはその両方で学習者たちの反応を共有する。

演習 9

演習 7 をベースにさらに長文の翻訳課題に取り組みたいという学習者には、読み上げ原稿付きの 5 分から 8 分間の音声英語による手続きまたは解説のビデオを講師が選んで提供する。同様に、3 分から 5 分間の ASL による手続きまたは解説のビデオを書記英語への翻訳用に選ぶ。宿題として筆記または動画による感想をクラスで共有する。

TRAINER NOTE *音声英語による手続きや解説の文章やその原稿は http://www.ehow.com/videos.html で入手できる。このサイトには、"how-to" videos のサーチエンジンがある。講師はこの学習用に多様な種類の手続きや解説のビデオを選ぶことが望ましい。*

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Beldon, J. (2006). *Eye care after laser surgery.* [Tied to sight translation/ instructions, source unknown]. Personal collection. St. Paul, MN.

Finton, L. & Smith, R.T. (2009). *Interpreter discourse: English to ASL expansion/ASL to English compression.* Rochester, NY: Rochester Institute of Technology/National Technical Institute for the Deaf Educational Materials.

Gile, D. (2009). *Basic concepts and models for interpreter and translator training (Rev. ed.).* Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing.

Hollrah, B. (2012). *Examples of a Deaf interpreter's work.* [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from http://digitalcommons.unf.edu/asleimats/50/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Teaching modules for the classroom: To your future health-Contemplating interpreting in healthcare.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online; see also http://healthcareinterpreting.org/faqs/fg-sight-translation/ [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2010). *Toward effective practice: Competencies of the Deaf interpreter.* Retrieved from http://www.interpretereducation.org/wp-content/uploads/2011/04/DC_Final_Final.pdf

Patrie, C.J. (2001). *The effective interpreting series: Translating from English, Teacher's set.* San Diego, CA: DawnSignPress..

Straitiy, A. (1999). *The pursuit of ASL: Interesting facts using classifiers.* [DVD]. Edmonton, Alberta, Canada: Interpreting Consolidated.

Gallaudet University. (2012). *Commencement ceremony. Honorary degree recipient and commencement speaker, Markku Juhani Jokinen, then-president, World Federation of the Deaf.* [Video]. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=zNRNw9Cc49Q&feature=relmfu

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). Helen Keller conference in *Teaching modules for the classroom–Deaf Blind interpreting.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/ Also retrieved from http://vimeo.com/user5994566/hknc-conference

第 3 章:逐次通訳

ねらい

本章では、逐次通訳の適切な利用を確認したりその理論的根拠を示すなど、逐次通訳に関わる任務の理解や実践を行う。また、学習者は、与えられた状況で通訳利用者のニーズや好みに合わせて、引き出すための方方略、文脈に関する情報提供、産出に関する方略を活用し始める。

能力

3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.2, 3.3, 3.4)
4.0 通訳実践力(4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7, 4.8)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. 逐次通訳行うプロセスを説明できる。
2. 逐次通訳を最も効果的な方法とする状況を示すことができる。
3. 効果的なコミュニケーションの促進を目指す方略を使って、さまざまな場面における逐次通訳を練習する。
4. さまざまな関係者に、逐次通訳を利用する論理的根拠を明確に専門的な立場で説明できる。

主要課題

1. ろう通訳者が逐次通訳すると決める要因にはどのようなものがあるか？
2. 逐次通訳を行う論理的根拠についてろう通訳者はどう説明できるか？
3. ろう通訳者は逐次通訳をどのようにして自分の最大の武器にすることができるか？

演習 1

本章の準備として、学習者は以下のことを復習する。

- 付録 D の「逐次通訳」という用語の定義
- *The Effective Interpreting Series: Consecutive Interpreting from English* (Patrie, 2004)の逐次通訳の歴史とその利用
- *Relay Interpreting in the 90s* (Bienvenu & Colonomos, 1992)

逐次通訳の歴史、長所、スキル、テクニックについて話し合いをしてもらう。逐次通訳が行われている場面のビデオを講師が選び、見てもらう。

下記のものも学習者に見てもらう。

- *Examples of a Deaf Interpreter's Work* (Hollrah, 2012)
- *Deaf Interpreting: Team Strategies for Interpreting in a Mental Health Setting* (Hollrah, 2012)
- *Deaf Interpreters at Work: Mock Trial* (NCIEC, 2011)

次に、上記のビデオの通訳場面において、以下のスキルが実践されている状況を学習者に確認してもらう。

1. リスニング
2. チャンキング（ためて記憶する）
3. 短期記憶
4. ノートテーキング
5. 意味の分析
6. 意味の共同構築
7. 通訳モデルの適用
8. 産出

演習 2

Application of the 10-step Discourse Analysis Process (Bonni, 2007)を見てもらう。談話分析のそれぞれのステップについて話し合い、例を挙げる:

ステップ 1 ― 予測
ステップ 2 ― 見て思い出す
ステップ 3 ― 内容のマッピング
ステップ 4 – 顕著な言語的特徴（起点言語）
ステップ 5 ― 抽象化
ステップ 6 ― 起点言語で改めて内容を語る
ステップ 7 – 顕著言語的特徴（目標言語）
ステップ 8 ― 視覚的マッピング
ステップ 9 ― 目標言語で内容を語る
ステップ 10 ― 通訳

TRAINER NOTE *上記の学習は、the 10-step Discourse Analysis Process (Bonni, 2007)を活用したあとの練習の土台となる。*

演習 3

小グループに分かれる。各グループにはろう通訳者とろう、盲ろう通訳利用者の役を担当する人を決める。各グループに以下の 4 つの事例のいずれか 1 つを割り当てる。*The Pursuit of ASL: Interesting Facts Using Classifiers* (Stratiy, 1999)にある「傷はどのようにできるか？」を使って演習 2 の談話マッピング・プロセスを指導する。必要ならば繰り返し見てもよい。ろう通訳者はそのビデオの一部を通訳する。

事例 1（一般校の 6 年生の保健のクラス）—両親もろうのろう生徒。ASL が L1（第一言語）であり、英語は L2（第二言語）である。小学校では SEE が使われているので生徒は SEE で教育を受けてきた。指文字を表しにくい（軽い脳性麻痺のため）。教師が生徒に求めているのは、傷のでき方を理解し、関連する用語を知ることである。来週には傷についてのテストがあり、多肢選択式の質問や穴埋め問題が出る。このテストでは、生徒たちは、傷がどのようにしてできるかについて完全な文章で回答ができなければならない。

事例 2（一般校の中学 2 年生の生物学のクラス）—ろうの生徒は小学1年生の時から一般校でインテグレートして学んできた。スペイン語が L1、ASL が L2、英語が L3（第三言語）。両親は聴者で、どちらもスペイン語を話し、簡単な ASL ができる。少数のろうの友達には ASL を使う者もいれば手指英語を使う者もいる。教師の目標は人間の血液と循環器について教えることである。教科書のこの章には傷のでき方に関する記述もある。生徒は、循環器、傷について、また、血管が損傷しても血液がどんどん流出しない循環器のしくみについて、作文を書かなければならない。

事例 3（医院）—外国から移住してきたろうの患者で、30 代後半。自国の手話に堪能である。米国に住んで 2 年たっており、他の移民やアメリカのろうコミュニティとの関わりの中で ASL を身につけてきた。医者にかかるのは 3 回目で、血液検査の結果を聞くためである。医者の目的は、傷のでき方、なぜそれほど傷が多くできるのか、おそらく血液の病気によるものだろうということを、説明することである。その医者は症状について非常に心配している。

TRAINER NOTE *上記の学習は、the 10-step Discourse Analysis Process* (Bonni, 2007)*を活用したあとの練習の土台となる。*

事例 4（医院）—ASL が L1（モノリンガル）のろうまたは盲ろうの母親を持つ聴の子どもが患者。（母親は）数年間一般校に通った後ろう学校に転校し、そこを卒業。この子どもが医者にかかるのは 3 回目で血液検査の結果を聞くことになっている。医者の目的は、傷のでき方、なぜそれほど傷が多くできるのか、おそらく血液の病気によるものだろうということを、説明することである。その医者は子どもの症状について非常に心配しており、白血病ではないかと疑っている。その子どもの母親は大変感情的である。

小グループごとに、担当した事例について、下記の Gish モデルの特定の要素を使って話し合ってもらう。

1. 予測（通訳利用者対象に必要な方略、技術、道具）
2. 準備
3. 話し手
4. 聞き手（通訳利用者と言語の評価）
5. 場面
6. 目的
7. テーマ
8. 対象
9. 単位
10. 詳細

演習 3 のまとめとして、学習者たちは、ASL の談話構造や特徴のそれぞれの段階を使用する。

1. 通訳の枠組みを作る技術
2. 適切なレジスターと談話の種類
3. 顕示的言語的特徴
4. 談話をコンテキストに合わせて展開する技術

TRAINER NOTE *通訳はビデオにある ASL 版とは異なるものであるべきこと、この学習ではろう通訳者の短期記憶(ワーキングメモリー)の活用が必要であることを強調すること。*

演習 4

演習 3 を行う際に、通訳者の意思決定プロセスについて観察したことを話し合う。

1. 通訳の効果性を高めるために用いた要素
2. 通訳する際に用いられていなかった要素
3. 通訳の中で行われた言語的、文化的仲介の例（ろう通訳能力に関わる重要な部分である）

演習 5

学習者に自分の経験を語ってもらう（演習 3 を参考に使う）。

1. ディスコース(談話）分析
2. ディスコースマッピング
3. 通訳プロセスモデルの適用

4. 学習経験
5. スキル向上や今後応用すべき分野

演習 6

演習 3 を見てもらい、フィードバックを行い、通訳中の判断について話し合ってもらう。その際 4 つの事例に含まれる様々な要素を考慮に入れる。

演習 7

演習 2 と同じやり方でディスコースマッピングプロセスを行う。*An Appointment in Gastroenterology (CATIE Center, 2003)*と*Hurry Up and Wait* (Bowen-Bailey, 2005)のビデオの一部を選ぶ。

演習 8

学習者には逐次通訳の練習に適した通訳事例を作ってもらう。(例:就職面接、大学のコース登録、セルフ・アドボカシーの指導、家探し、料理のレシピの説明、など)。その状況や参加者は Colonomos の通訳の統合モデルの CRP 構成それぞれにある課題通りにする。

1. 集中する(Concentrating)ー起点言語のメッセージを理解する(観察、分析、解放)
   - 起点言語のメッセージを理解するために通訳者の方略として、情報の引き出し、情報を明確にする方略を用いる(探り、質問し、通訳者の理解を確認する)
   - 短期記憶で手に負える情報量を調整する
2. 変換する(Representing)ー起点言語の枠組みから目標言語への変換(等価性、視覚化)
   - 起点言語テキストの構成を目標言語へ切り換える際に影響する言語的、文化、経験、状況の要素を考慮に入れる
3. 構想する(Planning)ー目標言語のメッセージの構築(構成、修正、発信)
   - 発信するメッセージの統語形式を調整する(展開、統合、出来事を順ごとに追う、質問形式の再構築、レジスターを適切に調整する。)
   - 通訳利用者または(聴者)の通訳チームに起点言語のメッセージをよりわかりやすくするために、文脈からより詳しい情報を提供する(内容の提示方法を構成しなおす、繰り返し同じことを表現する、類推、例を挙げる、文化的情報を追加する、状況に適したプロトコルの説明など。
   - メッセージが理解されているかモニターし、通訳利用者のニーズにコミュニケーションモードを合わせる(ジェスチャー、ホームサイン、道具、筆記、パントマイム等の方法が考えられる。)

TRAINER NOTE *学習者が作った事例を使用し、ロールプレイをする機会を与える。クラスメートはロールプレイを行っている「役者」を詳細に観察する。観察者は通訳者役の人がさまざまな方略をどのように活用しているかについて特に注意深く観察する。これに続き、通訳者、通訳利用者、観察者のそれぞれの視点から使用されていた方略とそれらの効果性についてグループで話し合う。*

演習 9

この演習の準備として、*Consecutive Interpreting, Or...Time is On My Side* (Russel, 2013)を見て、*A Comparison of Simultaneous and Consecutive Interpreting in the Courtroom* (Russel, 2003)を読んでおいてもらう。

法廷での同時通訳と逐次通訳の使用を比較した Russell の研究の重要点について復習し話し合う。

演習 4 の事例を活用し、学習者が逐次通訳をすることの正当性を説明できるように練習する。フィードバックを行い、説明の内容、説明方法、および正当性についての説得力についてグループで話し合ってもらう。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Bienvenu, M., & Colonomos, B. (1992). Relay interpreting in the 90s. In L. Swabey (Ed.), *The challenge of the 90s: New standards in interpreter education* (pp. 69-80). United States: Conference of Interpreter Trainers. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/Bienvenu.pdf

Bonni, E. (2007). *Application of the 10-step discourse analysis process.* [DVD]. Denver, CO: University of Northern Colorado DO IT Center.

Bowen-Bailey, D. (2005). *Hurry up and wait: Interpreting a visit to an emergency department.* [DVD and study guide]. Retrieved from http://healthcareinterpreting.org/for-interpreters/video-resources/hurry-wait/

CATIE Center at St. Catherine University. (2003). *Internal discussions: An appointment in gastroenterology.* [CD and study guides]. Retrieved from http://healthcareinterpreting.org/appt-gastroenterology/

Hollrah, B. (2012). *Deaf interpreting: Team strategies for interpreting in a mental health setting.* [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#H

Hollrah, B. (2012). *Examples of a Deaf interpreter's work.* [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from http://digitalcommons.unf.edu/asleimats/50/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2011). *Deaf interpreters at work: Mock trial.* http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#N

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2010). *Toward effective practice: Competencies of the Deaf interpreter.* Retrieved from http://www.interpretereducation.org/wp-content/uploads/2011/04/DC_Final_Final.pdf

Patrie, C.J. (2004). *The effective interpreting series: Consecutive interpreting from English, Teacher's set.* San Diego, CA: DawnSignPress.

Russell, D. (2013). A comparison of simultaneous and consecutive interpreting in the courtroom. *In International Journal of Disability,* Community, and Rehabilitation. Volume 2, No. 1. Retrieved from http:// www.ijdcr.ca/VOL02_01_CAN/articles/russell.shtml

Russell, D. (2013) *Consecutive interpreting or…time is on my side* [Video]. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=f7g7vZOyRH8&feature=youtu.be

Straitiy, A. (1999). *The pursuit of ASL: Interesting facts using classifiers.* [DVD]. Edmonton, Alberta, Canada: Interpreting Consolidated.

Hollrah, B. (2012). *Deaf interpreting: Team strategies for interpreti ng in a mental health setting.* [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#H

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). Mo difications to mode-close vision and tracking in *Teaching modules for the classroom–Deaf Blind interpreting.* [Requires account logi n]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/. Also retri eved from http://vimeo.com/30374306

第 4 章:同時通訳

ねらい

本章では、同時通訳のプロセスを理解し実践する。学習者は、同時通訳が行われるべき場面、逐次通訳が行われるべき場面、あるいは同時通訳、逐次通訳が併用される場面を確認し、その論理的根拠を説明できるようになる。ミラーリングとプロセスを経た同時通訳の違いを学ぶ。本章では、盲ろう者にも参加してもらい、同時通訳の実践に即した研修も行う。

DID YOU KNOW? *同時通訳という表現は不正確である。まず理解しなければ通訳はできない。「同時」と言っても処理(プロセシング)の時間を要するものであり、言語間の通訳ではそれは同時にはできない。*

能力

3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.2, 3.3, 3.4)
4.0 通訳実践力(4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7, 4.8)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. 同時通訳のプロセスを説明できる。
2. さまざまな場面で同時通訳を練習する。その際に効果的なコミュニケーションの促進のための方略を活用する。
3. 同時通訳が最も効果的な方法の場面、または逐次通訳と同時通訳を併用するのがの最も効果的な場面をそれぞれ示すことができる。
4. ミラーリングの定義を同時通訳と区別して述べることができる。
5. さまざまな関係者に、選んだ通訳方法について,その選択の理論的根拠を明確に専門的な立場で説明できる。

主要課題

1. ろう通訳者が同時通訳をすると決める要因と理由はどんなものか？
2. ろう通訳者が一般的に同時通訳を実践するのはどのような場面か？
3. ミラーリングと同時通訳の違いは何か？
4. 同時、逐次、または両方を併用する場合もあることについての論理的根拠は何か？

演習 1

この学習の準備として、下記を読み、見てもらう。

1. 付録 D の同時通訳の用語の定義
2. *The Effective Interpreting Series: Simultaneous Interpreting from English* (Patrie, 2005)にある同時通訳の歴史とその活用
3. Colonomos と Gish のモデル（第 5 編の第 1 章参照）

学習者には、ろう通訳者による同時通訳を通訳利用者として受けた時の経験について話し合ってもらう。

1. ろう通訳者が通訳しているのを見たのはどのような場面だったか？
2. なぜ通訳方法として同時通訳が選ばれたのか？
3. 学習者が「フィード」通訳を見る機会があったならば、その通訳者の使用言語（例：ASL、手指英語）や手話通訳者としての行動・態度について気づいたことは何か？
4. 同時通訳の場でのろう通訳者の仕事を観察し、気づいたことについて意見交換を行う。

学習者に「ミラーリング」を定義してもらう。Colonomos と Gish のモデルを使ってミラー通訳と同時通訳の違いを確認する。その際、処理(プロセシング)の深さ、形式、意味、努力などの観点から論じる。

DID YOU KNOW? *「ミラーリング」や「シャドウイング」という言葉ではろう通訳者の仕事を十分に説明できない。例えば、見ている人たちからの意見を通訳する時などがそうである。シャドウイングは演劇通訳に使われることが多く、ミラーリングに関しては、他により適切な用語がないために使われることが多い。*

演習 2

Relationship Simultaneous and Consecutive Interpreting (Bowen-Balley, 2005)を復習し、話し合う。

1. 同時、逐次どちらの通訳にするかを判断する際、何を考慮するか？
2. 同時通訳と逐次通訳との間を行き来するのはどのような時が適切か？

逐次通訳と比較した同時通訳の正確性についての Russel の研究(Russel, 2013&2013)の成果を読み直す。

学習者に事例を提供する。その際、使用する事例には現場の状況、通訳利用者がどのような人たちなのかそのプロフィール、課題となる要因などがきちんと提示されていると良い。学習者にはそれぞれの事例について、ろう通訳者がどのようにして逐次や同時の通訳方法を選んだか、またその決定についての正当性を話し合ってもらう。

演習 3

So You Want to be an Interpreter? (Humphrey & Alcorn, 2007)の「コミュニケーションの重要性」にあるレジスター(言語使用域)の概念を紹介する。学習者から例を示してもらう。

下記の 5 つのレジスターを使用するさまざまな場面や対象者、それぞれのレジスターが果たす役割などを示す例を考えて討議する。その後ビデオ課題に取り組む。

1. フローズン―常に同じ形式で話される文章(アメリカ国家への忠誠の誓い、ギャローデットのバイソンソングなど)
2. フォーマル―相当数の聴衆のいるところでの講演で、途中、講演者と他の人との談話も、聴衆との言葉のやりとりもない場合(基調講演者、大統領や大臣などのスピーチ)
3. 相談・協議―談話において、片方が専門家の立場で話すとき、または話題についてより熟知している立場の場合(弁護士と相談者、医師と患者など)
4. インフォーマルまたはカジュアル―全員が対等な立場にある時(近所の人たち、教会の仲間、など)
5. 内輪―共に過ごし、経験を共有している人同士(デフジョーク、please but, 2-5-8)

演習 4

以下の資料を学習者に見せる。これらは、フォーマル、相談・協議、インフォーマルのレジスターに応じたろう通訳者による同時通訳を示すものである。

1. ギャローデット大学卒業式での講演者、世界ろう連盟理事長マルク・ヨハニ・ヨキネン(2012)
2. ギャローデットのデフウェイⅡでの講演シリーズ:ビデオ会議通訳プロジェクト(ギャローデット、2002)
3. 全米ヘレンケラーセンター集会(NCIEC、2013)

それぞれの通訳例を見て、通訳を見る人、言語、モーダリティ、レジスター、場面も含めて話し合う。それぞれの場面において通訳者はどう準備しているかを説明してもらう。

TRAINER NOTE *この学習で、講師は自分が持っている他のビデオを参考にすることもできる。それを使って、フォーマル、相談・協議、インフォーマルのレジスターによるろう通訳者による同時通訳を見せる。*

演習 5

学習者に *ASL Registers* (Gallaudet, 2010)の復習をしてもらい、その後、二つのプレゼンテーションを考えてもらう。自分が決めたトピックで、一つはコンサルタント、もう一つはインフォーマルのレジスターで 5-10 分間話す。ここで学習者が考えたプレゼンテーションは演習 6、7 で討議の題材として使われることを知らせておく。付録 B の言語学レジスターのワークシートも参照のこと。

演習 6

TRAINER NOTE *学習者はこの学習を始めるときにインターネットにつないでおく必要がある。学習者を録画し、あとで再生しながら分析やフィードバックを行う。*

学習者に、演習 5 で考案したプレゼンテーションを使ってミラーリングを練習してもらう。小グループに分かれてもらう。学習者はミラーリングしてみたいトピックを選ぶ。

プレゼンテーションを始める前に、各自に 20 分間ミラーリングするトピックについて調べる時間を与える。教室内で調べる時間がない場合は、その準備段階は宿題としてもよい。

各グループ内では、講演者、ミラーリングする人などの役割がない人は観客や観察者となる。ここでの目的はできるだけ忠実に、正確に講演者の話をミラー通訳することである。ミラーリングをしている学習者は必要に応じてプレゼンテーションを行っている人を止めてもよい。観察者はプレゼンしている人とミラーリングしている学習者を記録し比較する。

学習者はこれまで話し合われてきた通訳プロセスモデルに照らして考察する。ここでは(通訳や翻訳をするのではなく)起点言語の言語形態をそのまま目標言語として表出するミラーリングの練習だが、それでも通訳モデルの理論を適用することで、効果的な通訳実践のためにより努力を必要とする面を見つけ出すことに役立つかどうか学習者と考える。

DID YOU KNOW? *「ミラーリング」という言葉は、観客からの意見を通訳する時のろう通訳者の仕事を十分に説明する言葉ではない。手話使用者からの情報をプロセシングし、正確に同等の意味内容に訳出する行為を表す用語を考案するためには、さらに議論を要する。*

演習 7

演習 5 で使用した同じプレゼンを、今度は同時的(即時)に言い換えるパラフレーズの練習を行う。(ミラーリングとは違い)パラフレーズの場合は学習者が選択した手話表現に言い換える。

TRAINER NOTE *演習 7 を行う際にはミラーリングは認めない！(あくまでも言い換えなければならない。)演習 5、6 での学習は、学習者に他にもテキストを考案させたり講師が選定したビデオを使ったりすることで発展できる。*

演習 6 同様に、これまで話し合われてきた通訳プロセスモデルが、学習者個人の改善が必要な力や分野について、どうヒントになるか、話し合ってもらう。

演習 8

TRAINER NOTE *演習 7,8,9 の教材には、Teaching Modules for the Classroom: DeafBlind Interpreting (NCIEC, 2013)が使える。*

講師は、先述の *Teaching Modules* にある全 6 時間の指導をうまく活用し、そして学習者とともに作業するときのその資料を利用することを勧める。

先述の *Teaching Modules* にある Modifications to Your Interpreting を読み、見て、話し合ってもらい、また、*Pro-Tactile: The DeafBlind Way* (Granda & Nuccio, n.d.)を見てもらう。Pro-Tactile は盲ろう者のために盲ろう者が考案した触覚コミュニケーションのテクニックである。

演習 9

以下について学習者は読み、見て、話し合う。

1. *Teaching Modules for the Classroom: DeafBlind Interpreting* (NCIEC, 2013)の環境、人間工学から見た考察
2. *Pro-tactile: Understanding Touch Techniques to Facilitate Communication with DeafBlind People* (Collins & Pope, 2014)

演習 10

ここの学習では、講師は学習者が視覚損失について擬似体験できるような材料を用意する。次の資料が役に立つ。*Teaching Modules for the Classroom: DeafBlind Interpreting* (NCIEC, 2013)の視覚・聴力両方の損失の擬似体験のすすめ

演習 11

先述の *Teaching Modules* にある全米ヘレンケラーセンター集会のビデオを見てもらい、見た感想について話し合う。

学習者とともに、ろう者や盲ろう者が参加する、地域の集会のシミュレーションを行う。集会のテーマはろう・盲ろう者に関係することにする。実際に盲ろう者をクラスに招くのが理想的であるが、もしそれが不可能であれば、クラスのメンバーが盲ろうの参加者の役を担う。ASL があまり上手ではない聴者の講演者、壇上のろう通訳者、ろうのフィード通訳、さまざまなコミュニケーションモードを使う盲ろう参加者の通訳をするろう通訳者たちの役もあった方がよい。

次に、この体験について学習者たちは話し合う。

1. 主な課題は何だったか？何がうまくいったか、それはなぜか？
2. Gile のモデルを適用して分析すると、英語対応の手話体系からの通訳作業はプロセシングの努力にどう影響したか？
3. ろう/ろう通訳チームの一員として通訳した時の体験はどんなだったか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Bowen-Bailey, D. (2005). *Relationship of simultaneous and consecutive interpreting. Ad junct to Hurry up and wait: Interpreting a visit to an emergency department* [DVD and study guide]. Retrieved from http://healthcareinterpreting.org/faqs/relationship-simultaneous-consecutive-interpreting/

Colonomos, B.M. (1989, rev. 2015). *Integrated model of interpreting.* College Park, MD: Bilingual Mediation Center. http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2016/01/IMI-Supplemental-Colonomos-2015.pdf

Gallaudet GSR 103. (2010). *ASL registers.* [Video]. Retrieved from https://www.youtube.com/watch?v=rhMU2PqMitg

Gallaudet University. (2012). *Commencement ceremony. Honorary degree recipient and commencement speaker, Markku Juhani Jokinen, then- president, World Federation of the Deaf.* [Video]. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=zNRNw9Cc49Q&feature=relmfu

Gallaudet University. (2002). The *Deaf Way II presentation series: Video conference interpreting project–Revolutionizing services for deaf.* [Video]. Retrieved from http://videocatalog.gallaudet.edu/?video=13868

Gile, D. (2009). *Basic concepts and models for interpreter and translator training* (Rev. ed.). Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing.

Granda, AJ & Nuccio, J. (n.d.). *Pro-Tactile: The DeafBlind* way. [Videos with transcripts]. Retrieved from https://youtu.be/l11lahuiHLA

Humphrey, J. & Alcorn, B. (2007). *So you want to be an interpreter? An introduction to sign language interpreting (4th ed.).* Everett, WA: H&H Publishing Co., Inc.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–DeafBlind interpreting.* [Requires account login]. Retrieved from http://interpretereducation.org/online/

- Modifications to your interpreting mode. [Video and PDF]. Also retrieved from http://vimeo.com/30801444
- Modifications to mode-close vision and tracking. [Video]. Also retrieved from http://vimeo.com/30374306
- Environmental and ergonomic considerations for DeafBlind interpreting. [Videos & PDF].
- Helen Keller conference. (DeafBlind interpreting). [Video]. Also retrieved from http://vimeo.com/user5994566/hknc-conference
- Suggestions for simulating vision and hearing loss. [PDF].

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2010). Toward effective practice: Competencies of the Deaf interpreter. Retrieved from http://www.interpretereducation.org/wp-content/uploads/2011/04/DC_Final_Final.pdf

Patrie, C.J. (2005). The effective interpreting series: Simultaneous interpreting from English, Teacher's set. San Diego, CA: DawnSignPress.

Pope, J. & Collins, S.D. (2014). Pro-tactile: Understanding touch techniques to facilitate communication with DeafBlind people, part 1. Retrieved from http://issuu.com/dbtip/docs/pro-tactile_understanding_the_touch

Russell, D. (2013). A comparison of simultaneous and consecutive interpreting in the courtroom. In International Journal of Disability, Community, and Rehabilitation. Volume 2, No. 1. Retrieved from http://www.ijdcr.ca/VOL02_01_CAN/articles/russell.shtml

Russell, D. (2013) *Consecutive interpreting or…time is on my side* [Video]. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=f7g7vZOyRH8&feature=youtu.be

Granda, AJ & Nuccio, J. (n.d.). *Pro-Tactile: The DeafBlind way.* [Videos with transcripts]. Retrieved from https://youtu.be/l11lahuiHLA

第 6 編：ろう/聴通訳チームとろう/ろう通訳チーム

本編と各章の概要

概要

本編では、ろう/聴、ろう/ろうの通訳チームの原理、理論、実践を扱う。学習者は、チームを組むことの正当性、完全なコミュニケーション・アクセスを達成するための各チームメンバーの重要な役割と貢献について話し合う。また、良いチームワークのための効果的な方略を考え、実践する。

ねらい

チームワークは、通訳をする中でのニーズに対応するため、通訳終了後の振り返りと総括のため、また今回の新たな気づきを今後の現場に適用するために重要であり、そのためには事前の準備と協働を必要とする。ろう通訳者は、他のろう通訳者とチームを組む場合も、聴者の通訳者（以下聴通訳者）とチームを組む場合も、チームワークが重要であることについて理解を深める。

TRAINER NOTE *ここでは、ろう通訳者/聴通訳者チーム、聴通訳者同士のチーム、ろう通訳者同士のチームそれぞれを、DI/HI, HI/HI, DI/DI チームと表す。*

能力

1.0 基礎力(1.4)
2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.3, 2.4, 2.6)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.1, 3.2, 3.3)
4.0 通訳実践力(4.1, 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7, 4.8, 4.9)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本編を履修した学習者は：

1. 効果的なチーム作りのための方略3つ以上正確に説明できる。

2. 通訳チームの役割、機能、プロセスについてわかりやすく説明できる。
3. 通訳チームの事前打ち合わせ、通訳中の通訳者間のやりとり、任務終了後の話し合いの目的と重要な要素について説明できる。
4. 意味を確認し、情報を収集・確認し、チーム内の情報の流れを確率し、完全で正確な通訳のためにチームが合意したモニタリングを行うといった効果的なチーム・プロセスを示すことができる。
5. 現場の人たちの力関係（パワーダイナミクス）が通訳チームに影響する例をか少なくとも２つ挙げ、可能な解決策を示すことができる。
6. ろう通訳者、聴通訳者、派遣責任者、ろうまたは盲ろうの通訳利用者など、それぞれの視点から、ろう通訳者が通訳を担うということに関する駆け引きを説明できる。ろう通訳者がこの議論にどのように建設的に貢献できるかについて、少なくとも２つの例を提案できる。
7. ろう通訳チームの通訳中のスムーズな交替のためには事前準備が大切であることを理解できる。

事前に必要な知識とスキル

第1編　ろう通訳者の過去、現在、未来
第2編　ろうコミュニティ内の人種的文化的多様性
第3編　通訳利用者を把握する―文化、言語、コミュニケーションスタイルの確認
第4編　ろう通訳者の倫理の考察及び課題
第5編　ろう通訳者の通訳理論と実践

アプローチと順序

読書課題、ビデオ、発表スライド、クラス内での練習やオープンダイアローグを行う活動を含め、本編の6つの章に沿って順序よく指導するのがよい。講師がそれを行うことで、また関連資料を自宅学習の課題として補うことで、学習者がろう通訳の効果的な実践に必要な重要コンセプトを理解できるようになる。

第1章　チーム作り
第2章　DI/HI チームの役割、機能、プロセス
第3章　準備―事前打ち合わせ、事後の話し合い
第4章　DI/HI チームの実践
第5章　DI/DI 通訳チームの実践
第6章　DI/HI チームの力関係と駆け引き

第 1 章:チーム作り

ねらい

本章では、効果的な DI/HI チームを作り上げるために適用すべきチーム作りのコンセプトやアプローチを学ぶ。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.6)
5.0 専門的知識・スキルを向上する力(5.1, 5.2, 5.3, 5.4)

目標

本章を履修した学習者は:

1. チーム作りの理論とチーム通訳への適用を説明できる。
2. 基本的なチーム作りの条件や課題を確認できる。
3. チーム作りの理論とモデルが、効果的なチーム通訳にどう役立つか説明できる。

主要課題

1. 具体的には、どのようなテクニックや方略が良いチーム作りを促進させるか？
2. 現場でのチーム作りの力学に影響を与える要因にはどのようなものがあるか？

演習 1

Effective Team building (Adair, 2011) Improving Work Groups (Francis & Young, 1992)に基づいた「チーム」といいう用語を定義する。どのような条件を満たせば「チーム」と呼べるか。また、どのような種類のチームがあり得るかについて話し合う。

まずペアで、次にクラス全員で、チーム内で仕事をしたこれまでの経験を共有する。

1. その時のチームの目的は何だったか？チーム全員が共有する目標はあったか？
2. チームとしてどのように仕事に取り組むかを決めたのは誰か？
3. どのようなことが上手くいったか？
4. どのようなことチームワークの障害となったか？
5. それぞれの経験談に共通する点はあるか？

TRAINER NOTE *経験を積んだろう通訳者たちに来てもらい、チームに関する経験や考えを共有し、学習者と効果的なチーム作りについて話し合ってもらう。*

演習 2

この学習の準備として、*The Team Building Tool Kit: Tips, Tactics, and Rules for Effective Workplace Teams* (Mackin, 2007)を見て話し合ってもらう。

次に、効果的なチームの一般的な特徴についてオンラインで調べてもらい、以下の課題を完成させる。

1. 「チーム」という用語の様々な定義を挙げる。
2. 効果的なチームの特徴について上位の 5 つを挙げる。
3. 基本的なチーム作りのプロセスの各段階について説明する。
4. チームとして仕事をすることのプラスの面とマイナスの面をそれぞれ 3 つ挙げる。
5. チームの効果を助長する、または妨げとなる態度や行動を3つ挙げる。

小グループに分かれ、以下の課題ついてそれぞれがわかったことを比較する。調べてわかったことを共有しそれをもとに、以下について各グループの意見が一致するようにする。

1. チームという言葉の定義
2. 効果的なチームの特徴について上位の 5 つ
3. 基本的なチーム作りのプロセスの段階
4. チームとしての仕事のプラス面、マイナス面をそれぞれ 3 つ
5. チームの効果を助長する、または妨げとなる態度や行動を 3 つ

それぞれの小グループで、この課題にどのように取り組んだか話し合ってもらう。自分のグループは効果的なチームの基準を満たしていたか？クラス全体に対して各グループに発表してもらう。

クラス全体として、学習者たちには取り組みの結果を比較してもらった上で、チームに関する考え方が DI/HI, HI/HI, DI/DI と言った組み合わせによって共通する点、あるいは違う点があるか話し合う。

演習 3

Team Interpreting as Collaboration and Interdependence (Hoza, 2010)の「チーム通訳：自分たちがやることを明確にする」を復習し、以下について話し合う。

1. DI/HI と DI/DI チームはどう定義づけられるか？
2. DI/HI と DI/DI チームは、「協働」や「相互補完」の特性や利点をどう活かすか？

演習 4

この学習の前に、*Standard Practice Paper: Team Interpreting* (RID, 2007) と *Standard Practice Paper: Use of a Certified Interpreter* (RID, 1997)を見ておいてもらう。

1997 年に RID が *Standard Practice Paper: Use of a Certified Interpreter* を公開したことを説明する。2007 年には *Standard Practice Paper: Team Interpreting* を出している。後者は聴者の通訳者のチームのプロセスに焦点を当てている。ろう通訳者の実践も取り上げ、反映させるためには両方の文書をどのように修正すべきかについて学習者に話し合ってもらう。

TRAINER NOTE *二つの文書の背景を話し、上記の課題を宿題とする。学習者は調べたことをクラスと共有し全体で話し合う。*

Perspectives on the 1997 RID CDI Standard Practice Paper: Introduction and Panel Discussion (NCIEC, 2014)を見てもらい、以下について話し合ってもらう。

1. 認定ろう通訳者の通訳活動を反映するには、RID 実践の指針(SPP)にどのような修正がまず必要と考えられるか？
2. RID はこの課題にどのように対応すべきか。
3. NAD もこのプロセスに関わるべきか？そうならそれはなぜか？
4. ろう通訳者はこのプロセスにどのように貢献できるか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Adair, J. (2011). *Effective teambuilding: How to make a winning team* (Rev. Ed.). London, England: Pan Macmillan.

Francis, D. & Young, D. (1992). *Improving Work Groups, A Practical Manual for Team Building* (Rev. ed.). Hoboken, NJ: John Wiley & Sons.

Hoza, J. (2010). *Team Interpreting as Collaboration and Interdependence.* Alexandria, VA: RID Press. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2014/08/RIDPressTeamInterpretingChap1_HOZA2.pdf

Mackin, D. (2007). *The team building tool kit: tips, tactics, and rules for effective workplace teams* (Rev. ed.). New York City, NY: AMACOM.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Perspectives on the 1997 RID CDI standard practice paper: Introduction and panel discussion.* [Videos]. Retrieved from https://vimeo.com/104121344 and https://vimeo.com/104121341

Registry of Interpreters for the Deaf (2007). *Standard practice paper: Team interpreting*. Retrieved from http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/

Registry of Interpreters for the Deaf (1997). *Standard practice paper: Use of a certified Deaf interpreter.* Retrieved from http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Perspectives on the 1997 RID CDI standard practice paper: Introduction and panel discussion.* Retrieved from https://vimeo.com/104121344 and https://vimeo.com/104121341

第 2 章：DI/HI チーム―その役割、機能、プロセス

ねらい

本章で、学習者は、聴通訳者とチームを組んで仕事する際の複雑な力学について理解するようになる。観察、話し合い、直体験を通して、正確で有意義な通訳に達するまでの協働プロセスを探っていく。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.6)
4.0 通訳実践力(4.5, 4.6, 4.7, 4.8, 4.9)

目標

本章を履修した学習者は：

1. 効果的な DI/HI チーム作りに欠かせないスキルを 5 個挙げることができる。
2. ろう通訳者とチームとして仕事する際に、聴通訳者が自分の通訳方法をどう調整するかについて説明できる。
3. DI/HI チームの一員として仕事する時の自分の力、好み、改善すべき部分を確認できる。
4. 通訳とシャドウイングの違いを説明できる。

主要課題

1. チーム通訳者と仕事で強固な関係を築くのに、重要な要件は何か？
2. 聴通訳者がろう通訳者と仕事する際に自分の通訳をどう調整するか、を理解することがなぜ重要なのか？
3. ろう通訳者は、チームの聴通訳者へのフィード、あるいは聴通訳者からのフィードに関する判断・決定をする際に何を考慮すべきか？

演習 1

DI/HI チームが通訳を担うさまざまな場面について話し合う。DI/HI チームが通訳すると役立つのはどのような場面か、どうしてもろう DI/HI チームが必要なのはどういう場面か、等について、通訳利用者のニーズという観点から話し合ってもらう。

ろう、聴の通訳者の効果的なチーム作りに不可欠なスキルについて話し合う。

1. それぞれが自立し、かつ相互補完的な協働(コラボレーション)ができる適応力
2. チーム内でつながりを持ち、相乗効果を作り出す能力
3. 言語、文化を橋渡しするスキル
4. スタミナ
5. メンタルの切り換えの速さ
6. 曖昧なことへの寛容
7. 多様性のある状況に対する寛容
8. (幼稚ではなく)大人であること
9. 幅広く、さまざまな人たちとうまく仕事ができる特性

TRAINER NOTE *学習者はいろいろな方法で自分のスキルや特徴を分析することができる。信頼できる仲間や同僚からのフィードバックも一つの方法である。メンター、教師、アドバイザーなどと話すことも役に立つ。人格診断はオンラインでもできる。ろう通訳/聴通訳チーム内の効果性を上げる、あるいは損ねるスキルや特徴があるということを学習者に認識してもらう。*

演習 2

Learning Community Series-Deaf/Hearing Interpreting Team Training (GURIEC, 2012)を見て下記の通り話し合ってもらう。

1. DI/HI チームで仕事をする場合、聴通訳者がフィード通訳をする際に行う調整とはどのようなことか？例を挙げよ。
2. Ressler の DI/HI チームについての研究は、通訳者になるための学習者にどう役立つか？

演習 3

フィード通訳者としてのろう通訳者について話し合ってもらう(例:会議通訳、講演会通訳、大きい会合など)。

ろう通訳者がこの役割を担うことも重要であることを強調する。学習者たちを小グループに分ける。

各グループは次のような役割を決める。一人目はフィード通訳者、二人目は通訳者、三人目は通訳利用者、四人目は観察者(グループに 4 人以上いる場合は他の全員も観察者とする)。通訳利用者は通訳者の前に座り、フィード通訳者は通訳利用者の後ろに立つ。観察者は注意して見て、チームの通訳プロセスについて気付いたことを書き留める。

フィード通訳者は ASL で何かの手順を説明する（例：唐辛子を使った調理方法、壊れた椅子を修理する方法、など）。通訳者はフィード通訳者の話を同時通訳でパラフレーズする（ミラーリングではない）。

小グループで、話し合う。

1. 通訳の正確さをチェックする。通訳利用者役の人は通訳者の表出から理解できたことと、フィード通訳者が手話で発信したメッセージを比較する。
2. フィード通訳者は、通訳者のニーズを考慮して自分の手話を調整したか？それはどのようにしてなされたか、観察者にはどう見えたか？
3. 通訳者は通訳をしたのか、それともミラーリングか（あるいは一部が通訳、一部がミラーリング）？観察者にはどう見えたか？
4. もしミラーリングだったとすると、なぜそうなったのか？
5. フィード通訳者と通訳者が次に向けて改善するなら、どのようなことができるだろうか？

以上の話し合いの後、各自それぞれの役を経験できるように役を交代する。フィード通訳者と通訳者は通訳を始める前に事前準備をするかどうかを決める。

再び全員集合し、学習者たちのこの作業についての感想を聞く。チーム作りのプロセスについて何を学んだか？うまくいったのはどのようなことか？通訳者とフィード通訳者チームが事前準備をすると決めた場合、具体的にどのような準備をしたか？チームとして仕事に取り組む際に効果的に協働(コラボレーション)できていたか？

演習 4

Learning Community Series-Deaf/Hearing Interpreting Team Series: Deaf/Hearing Interpreting Team Expert Panelists (GURIEC, 2012)を見てもらい、下記について話し合う。

1. 効果的なチーム作りに役立つこと、あるいは逆にチーム作りを阻害することのうち、主だったものを確認する。
2. チームとして効果的な事前打ち合わせの方法を説明する。
3. 通訳 vs ミラーリングに対するチームの考え方について話し合う。課題図書に出てくるパネリストたちは仕事の分析を行う機会としてどのようにミラーリングを活用したか？
4. 間違いの指摘について考える。あなたは自分の仕事へのフィードバックをオープンな心で受け止められるか？他のろう通訳者からのフィードバックは？聴通訳者からのフィードバックは？
5. パネリストたちは信頼についてはかなり議論している。パネリストの話を参考に、DI/HI チームメンバーの間で安心な環境を作り信頼し合う関係を築く方法についていくつか例を挙げる。

TRAINER NOTE *フィードバックをしたりされたりするための最も良いアプローチについて話し合ってもらう。Feedback: A Conversation About "The Work" Between Learners and Colleagues (Witter-Merithew, 2001)も参考資料として加えておく。*

演習 5

学習者には、ともに仕事をするDI/HIチームをどう思い描いているかについて話し合い、ポスターに描いてもらう。小グループに分ける。各グループにポスター紙とマーカーを配る。グループでの取り組みが終わったら、各グループから一人ずつ、クラス全体に自分たちの協働作業について発表し、それぞれのポスターの絵(と説明)につなげる。クラスでは、グループのポスターをもとに、DI/HIチームの協働が成功するための鍵となる重要な方略について話し合ってもらう。

演習 6

学習者にはそれぞれが実際のDI/HIチームへのインタビューを手配し実施させる。これができない場合は、Medical Appointment SeriesやIEP Appointment Series (NCIEC, 2014)のビデオのどちらかから選び、チーム作業についての情報を集めてもらう。学習者はそれぞれ、動画または書面で報告を準備し、クラスで発表する。報告には、自分が学んだことや、効果的なチームワークに必要な、チームプロセスやテクニック、適性、スキルに対する評価も含めること。

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. (2012). Learning community series: Deaf/hearing interpreting expert team training. [Video]. Retrieved from https://www.youtube.com/watch?v=aGRMTbcsdkw

Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. (2012). *Learning community series: Deaf/hearing interpreting team expert panel.* [Video]. Retrieved from https://www.youtube.com/watch?v=smpz5Ene114

Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. (2012). *Learning community series: Deaf/hearing interpreting expert team training.* [Video]. Retrieved from https://www.youtube.com/watch?v=aGRMTbcsdkw [Curriculum Resource]

Hollrah, B. (2012). *Deaf interpreting: Team strategies for interpreting in a mental health setting.* [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#H [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Individualized education program (IEP) meeting series.* [Videos]. Boston, MA: NCIEC.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Job Training: Dishwasher operation.* [Videos]. Boston, MA: NCIEC. [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Medical appointment series.* [Videos]. Boston, MA: NCIEC.

Witter-Merrithew, A. (2001). *Feedback: A conversation about "the work" between learners and colleagues.* Student handout. Denver, CO: University of North Colorado Distance Opportunities for Interpreter Training Center (UNC-DO IT). Retrieved from http://www.unco.edu/doit/resources/Publication_PDFs/FeedbackAConversationAboutTheWork.pdf

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Perspectives on the 1997 RID CDI standard practice paper: Introduction and panel discussion.* Retrieved from https://vimeo.com/104121344 and https://vimeo.com/104121341

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). First day: Pre-conferenc e with interpreting team in *Individualized education program (IEP) meeting series*. [Vid eos]. Boston, MA: NCIEC. Retrieved from https://vimeo.com/104182641

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Medical appointment 2: Pre-conference with interpreting team in *Medical appointment series.* Boston, MA: NCI EC. Retrieved from https://vimeo.com/104177983

第 3 章：準備-通訳前と通訳後の話し合い

ねらい

本章では、事前打ち合わせ、事後の話し合いを通して DI/HI チームが協働のためのチームワークを築く様子を観察し、実践する。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.3, 2.4, 2.6)
3.0 通訳実践力(4.9)

目標

本章を履修した学習者は：

1. DI/HI チームによる事前打ち合わせ、事後の話し合いで重要な要素を少なくとも 3 つ挙げることができる。
2. 通訳の任務を始める前に DI/HI チームが得るべきコンセンサス(共通認識、一致した意見）を少なくとも 3 つ挙げることができる。
3. チーム通訳者との事前打ち合わせ、事後の話し合いができる能力を示せる。
4. 通訳中に行う通訳利用者との打ち合わせの目的を確認し、このような打合せで共有される情報の例を述べることができる。
5. DI/HI の通訳終了後の話し合いを行うことが、その先の通訳実践に重要なのか、3 つの理由を述べることができる。

主要課題

1. 事前打ち合わせが、その通訳現場を決定づけるとも言われるのはなぜか？
2. 事前打ち合わせでどのような情報の共有が行われるべきか？
3. 事前にプランを立てることで避けられる過ちとは何か？
4. ろう通訳者はどのようにして事後の話し合いを最大限に活用できるか？

演習 1

Toward Effective Practice: Competencies of the Deaf Interpreter (NCIEC, 2010)を読み、チームの準備や合意に関する記述を確認する。

1. グループで、*Deaf interpreting: Team strategies for interpreting in a mental health setting* (Hollrah, 2012) から講師が選んだ事前打ち合わせ、あるいは *Deaf Interpreter Pre-Conference Sessions* (NCIEC, 2013)の中の一つを見て、チーム内の話し合いの様子・内容を分析する。
2. 付録 B の事前打ち合わせ分析ワークシートを使って、動画の事前打ち合わせで話し合われたスキル、テクニック、方略（また見うけられなかったものも）を確認し、チームでなされた合意を記録する。
3. 動画では通訳任務の準備に含まれていた（あるいは含まれていなかった）項目について話し合う。

下記について、動画で見た通訳者はどのような合意・確認をしたか？

1. 言語使用
2. 通常の状況、または複雑な状況に対応するテクニックや方法
3. 必要に応じて、臨機応変に方針変更する方法
4. 逐次通訳と同時通訳の使い分けと必要に応じた調整の方法
5. 起こりうる失敗への対処方法

演習 2

Deaf Interpreting: Team strategies for interpreting in a mental health setting (Hollrah, 2012) の通訳利用者との打ち合わせまたは通訳中の打ち合わせの場面を見てもらい、そのチームのやり取りを分析する。

付録 B の通訳利用者との打ち合わせ分析ワークシートを使って、動画の打ち合わせで見うけられたスキル、テクニック、方略（また見うけられなかったものも）を確認する。

通訳者同士(通訳者間）の関係について説明する。力関係について気付いたことはあるか？リーダーシップをとったのは誰か？

通訳チームは、通訳中に得た新たな情報や気づきのために、当初のプランや合意点に変更を加えなければならないような事態に直面したか？これを考える際に、下記について再考する：

1. 言語使用
2. 通常の状況、または複雑な状況に対応するテクニックや方法
3. 必要に応じて、臨機応変に方針変更する方法

4. 逐次通訳と同時通訳の使い分けと必要に応じた調整の方法
5. 起こりうる失敗への対処方法

演習 3

Deaf Interpreting: Team strategies にある通訳後の話し合いの様子を見て、チームのやりとりを分析する。動画のチームは、行った通訳の成功の度合いを評価する際、通訳中にチームワーク確保のために使用したテクニックを確認する際、また今後の任務に備えるための話し合いの際に、通訳モデルを活用していたことを確認し、これについて話し合う。

演習 4

Interpreting in Spanish-Influenced Settings: Video-Vignettes of Working Trilingual Interpreters (ASL/Spanish/English), (NCIEC, 2014)の動画の中の成人教室の部分を見てもらう。この動画では、通訳者たちの事前打ち合わせの様子、3 言語間通訳の通訳現場の様子、最後にそれぞれの通訳者が一人一人が現場について話している様子を見ることができる。

通訳者たちの事前の打ち合わせでの合意点、通訳利用者との打ち合わせで話し合われた内容、任務後の話し合いでの通訳の分析・評価等について、下記に従って話し合う:

1. 最後の個々の通訳者へインタビューで、通訳者たちが自ら指摘した問題点はどのようなことだったか？
2. その問題点はどのようにすれば避けられたか？
3. 今回のビデオの ASLースペイン語ー英語の 3 言語が使用される環境では、他にどのような困難が確認できたか？

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Hollrah, B. (2012). *Deaf interpreting: Team strategies for interpreting in a mental health setting.* [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#H

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Interpreting in Spanish-influenced settings–Video vignettes of working trilingual interpreters (ASL/Spanish/English)*. http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/. Boston, MA: NCIEC.

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2010). *Toward effective practice: Competencies of the Deaf interpreter.* Retrieved from http://www.interpretereducation.org/wp-content/uploads/2011/04/DC_Final_Final.pdf

第 4 章：DI/HI チームの実践

ねらい

本章では、DI/HI チームのメンバーとして実際に通訳を行う。学習者は通訳任務の準備をする段階から協働のための様々な方策を実践する。実際に通訳する中では意味の確認、明確化、通訳者の互いのモニタリング(相互観察)、談話の流れのマネージメントのための方策を考える。また、学習者は事後の話し合いを有効に利用する。全体として、学習者は、自分の訳出までの流れ（プロセシング）だけでなく、談話通訳の協働構築の分析にも通訳モデルを適用する。

能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.3, 2.4, 2.6)
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力(3.1, 3.2, 3.3)
4.0 通訳実践力(4.1, 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7)

目標

本章を履修した学習者は:

1. 通訳任務に向けてチームとして準備する力を示せる。
2. 模擬設定場面での通訳力を示し、談話通訳の効果を分析するために通訳モデルやチーム作りのモデルを適用することができる。
3. 相互観察、意味の確認、情報の明確化、通訳プロセスや談話の流れのマネージメントのスキルを示せる。
4. 逐次通訳、あるいは同時通訳を用いる論理的根拠を明確に説明できる。
5. 通訳チームの役割、機能、プロセスを説明できる。
6. 事後の話し合いを効果的に行う技術、進め方、作法を示すことができる。

主要課題

1. DI/HI チームの共同プロセスに通訳理論モデルをどのように適用できるか？
2. チーム作業中の失敗をどう認識し対処するか？
3. DI/HI チームのメンバーが効果的な通訳の達成のため、互いをサポートし合う最善の方法は？
4. DI/HI チームメンバーがチーム作業の相乗効果を高めるためには、どのようなチーム固有のテクニックや合図などを使用できるか？
5. ろう通訳者は次の現場に向けて更に力をつけるために、1 回ごとの現場経験からどのように学ぶべきか？

TRAINER NOTE *可能な限り、経験を積んだ通訳者、専門家、ろう、盲ろう、聴の通訳利用者をクラスに招いて、事例やロールプレイ学習に参加してもらうとよい。参加者全員から了解を得られたら学習ツールとして録画も行う。学習者には、通訳利用者の把握、状況の分析、適切な通訳方法も含め、十分に準備ができるように配慮する。また、通訳中の打ち合わせと事後の話し合いの徹底的な分析やフィードバックも含める。*

演習 1-5

講師が課題として提供する事例は、下記 5 つのいずれかのディスコーススタイル(談話様式）を必要とするものを選ぶべきでである。（各カテゴリーから1つ選ぶ）。

1. 質疑
   - 病歴を聞きとる
   - 大学の面接を行う
   - 失業手当を申し込む
2. ナラティブ(叙述）
   - 選挙の候補者と同行して選挙活動を行った一日の経験
   - アラスカへの旅
   - 通訳者になるまでの道のり
3. 手順
   - 水漏れする水栓の修理方法
   - 庭の設計と植え付け方法
   - 数学の問題の解き方
4. 解説
   - 1964 年公民権法の可決
   - 米国の健康保険の格差
   - 国際経済大国としての中国の発展
5. 説明
   - コミュニティの会議でリサイクル問題の改善についての議論
   - 盲ろう者のためのサービス拡充のための募金への協力依頼
   - 高齢のろう者にとってヨガ教室への参加がなぜ健康に良いか説得

演習 6

ろう通訳者が 1 つ以上の DI/HI チーム内で通訳する場合の設定や実践について復習し、下記について話し合う。

1. 同一現場に 1 つ以上（例えば 2 つか 3 つ）の DI/HI チームが入らなければならないことが起き得る、あるいは通訳利用者のニーズに応じて必要となる場面があり得ることを論理的根拠を示して説明する。
2. 既存のチームモデルや手法を、同一現場を複数の DI/HI チームが担当した場合に適用し、適応するための方法。
3. 複数の DI/HI チームを必要とする通訳利用者。
4. 現場を担当するすべての DI/HI チームメンバーが効果的なチームを作るために必要なスキル。（本編の第2章の 演習 1 参照）

演習 7

複数の DI/HI チームが現場を担当する場合のテクニックや方策について話し合ってもらう。ろう通訳者とのチーム通訳の経験が豊富な聴通訳者 2 人を手配し、この学習に参加してもらう。TED Talks のような教材から講師が選んだ 20 分程度のトークが収録されたビデオを、学習者と 2 人の聴通訳者に見てもらう。学習者がこのような活動から十分に学びを得るためには、計画と準備が不可欠である。

TRAINER NOTE *TED Talks のビデオレクチャーには音声記録とキャプション（字幕）がある。文字化したものはディスコース(談話）の分析に役立つ。動画は、学習者のスキルと経験に見合ったものを選ぶべきだが、同時に少し難しいと感じるようなものを選ぶと良い。*

学習者には通訳利用者について詳しく説明する。その際、*Medical Appointment Series* または *the IEP Meeting Series* (NCIEC, 2014)の stimulus materials のいずれかを使用するとよい。学習者には、事前打ち合わせ、通訳中の打ち合わせ、事後の話し合いのプロセスを行うことを確認する。またチームの判断・決定のプロセスやフィードの方法の選択等について確認する。

ビデオで講師が選んだ部分をチーム全体で通訳する様子をビデオに録画する。録画した動画を使って、学習者には以下の分析をしてもらう。

1. 講師が決めた通訳モデルを使用して、通訳の評価を行う。
2. 通訳に使用したプロセスの効果を評価する
3. 効果的なチームワークに必要なプロセス、方略、技術等が使用されていたか確認する。

演習 8

ここでは演習 5 と同じことを行う。だが、教材は異なる。2 人のろう通訳者と 2 人の聴通訳者がチームとして共に仕事をする想定で 4 人のチームを作る。他の学習者は全員オブザーバーとする。

4 人のチームには事前打ち合わせ、通訳中の打ち合わせ、事後の話し合いのプロセスを行うことを確認する。またチームの判断・決定のプロセスやフィードの方法の選択等について確認する。

ろうの通訳利用者がどのような人なのか説明する。Interpreting in Vocational Rehabilitation Settings (NCIEC, 2012)の中の職業訓練スタッフミーティングの場面を使って、ろう通訳利用者、設定場面、目的を詳しく説明する。講師が選定したビデオの一部をチーム全体で通訳している様子をビデオに録画する。

録画した動画を使って、クラスで以下について分析する。

1. 講師が決めた通訳モデルを使用して、通訳の評価を行う。
2. 通訳に使用したプロセスの効果を評価する。
3. 効果的なチームワークに必要なプロセス、方略、技術等が使用されていたか確認する。

TRAINER NOTE *講師が選んだ(あるいは学習者作成の)事例を使って、学習者たちが模範的なチームの協働プロセスの例を作る機会を与える。学習者は、本書にある NCIEC Release Form に記入すること。*

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Hollrah, B. (2012). *Deaf interpreting: Team strategies for interpreting in a mental health setting.* [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#H [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Interpreting in vocational rehabilitation settings.* http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/. Boston, MA: NCIEC. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#N

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Interpreting in Spanish-influenced settings: Video vignettes of working trilingual interpreters (ASL/Spanish/English).* http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/. Boston, MA: NCIEC. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#N [Curriculum Resource]

TED Talks. (2014). *TED Talks.* [Videos]. Retrieved from http://www.ted.com/talks/browse

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). First day: IEP Meeting in *Individualized education program meeting series.* [Videos]. Boston, MA: NCIEC. (Pictured left to right: Deaf interpreter, teacher, learning disability specialist, hearing interpreter, and parents, with observer in standing in background).

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). Medical appointment 1: Pre-conference with the interpreting team in *Medical appointment series*. Boston, MA: NCIEC. Retrieved from https://vimeo.com/104156407 (Hearing interpreter with two Deaf interpreters in pre-conference).

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). First day: Pre-conference with the teacher in *Individualized education program meeting series.* Boston, MA: NCIEC. Retrieved from https://vimeo.com/104182643 (Deaf interpreter/ hearing interpreter team in pre-conference with hearing consumer).

第 5 章：DI/DI チームの実践

ねらい

本章では、DI/DI チームのコンセプトに焦点をあてる。学習者は、DI/DI チームの実践に理論を用いて、DI/DI チームが効果的なアドボケイト（代弁者）やサービス提供者になることを学ぶ。事前打ち合わせ、通訳中の打ち合わせ、事後の話し合いの報告でも協働のためのさまざまな方策を用いる。また、学習者は、自分の訳出のプロセシングだけでなく、談話通訳の協働構築の分析にも通訳モデルを適用する。

能力

4.0 通訳実践力(4.1, 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7, 4.8, 4.9)

目標

本章を履修した学習者は：

1. チーム作りのモデルやチーム作りのためのテクニックを適用できる。
2. 特定の状況や特定の通訳利用者に適したチームのアプローチや方策を決定し適用することで効果的なチーム通訳を達成できる。
3. 効果的なチーム通訳のために、理論やチーム作りのモデル、意思決定のプロセス等を適切に応用できる。
4. DI/DI チームのプロセスの効果性を評価できる。
5. チーム内の意見調整や討議のテクニックを確認できる。
6. 効果的なチームプロセスのために解決すべき課題やニーズを確認できる。
7. メッセージの等価性を確保するためにチームの通訳に通訳モデルを適用できる。

主要課題

1. DI/DI チームの共同プロセスに通訳理論モデルをどう適用するか？
2. チーム作業中の失敗を認識し対処するためにどのようなテクニックや方策が必要か？
3. DI/DI チーム内の相乗効果を生み出すために、どのようなテクニックや合図が使われるか？
4. ろう通訳者は、DI/DI チームの利点をさまざまな通訳利用関係者（聴通訳者、通訳派遣エージェント、ろうの通訳利用者など）にどのように主張できるか？

演習 1

小グループで、ポスター紙に、DI/DI チームがどのように協働するかを思い描いてもらう。

学習者は下記について話し合う。

1. DI/DI チームとろう/聴通訳チームのダイナミクス(チーム内に生じる力学)はどう違うか？
2. DI/DI チームゆえに生じる特有の問題とは何か？
3. DI/DI チームはチーム内の課題をどのように解決できるか？

演習 2

学習者に、以下のことについて調べてもらい、わかったことを発表してもらう。

1. 通訳利用者のニーズや行動を考慮に入れた場合、DI/DI チームでもよい場面、DI/DI チームが必要になるかもしれない場面、または DI/DI チームでなければならない場面等を確認する。
2. 既存のチームモデルを DI/DI チームに活用するために必要な適用と適合。
3. DI/DI チームの方が有益な通訳利用者。
4. 効果的なろう通訳者チーム作りのために必要なスキル。(本編の第 2 章 演習 1 参照)

演習 3

小グループに分かれる。各グループは DI/DI チームの通訳者役を 2 名、フィードバックを行う観察者を 2 名決める。演習 2 の調査結果を使って、学習者は以下のうち一つを選ぶ。

1. 盲ろう通訳利用者のための触覚コミュニケーション
2. サイト(テキスト)トランスレーション(就職申込書、職業クラスでの訓練資料など)
3. 舞台通訳(例:国際会議、聴者の講演者、対応手話の通訳、観客は ASL の母語話者)

選択した場面の通訳プロセスにおいて、どのような事前打ち合わせ、本番での打ち合わせ、事後の話し合いが行われたか振り返る。2名の観察者は DI/DI チームワークや流れについて評価し、フィードバックを行う。役を交代し、上記と同様のことを行う。

TRAINER NOTE *サイト(テキスト)トランスレーションの場合は、教室内で、あるいは宿題として、Examples of a Deaf Interpreter's Work (Hollrah, 2012)にある少なくとも 2 つの動画を見てもらうこと。*

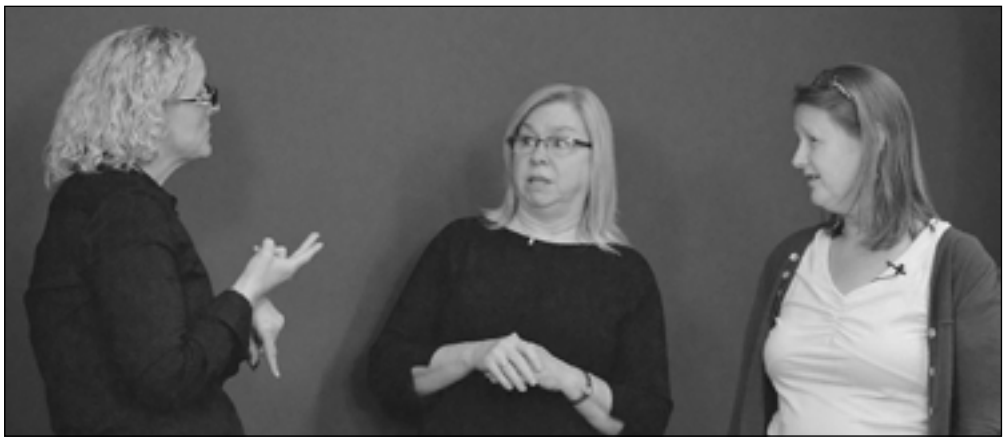
評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

Hollrah, B. (2012). *Deaf interpreting: Team strategies for interpreting in a mental health setting.* [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#H



第 6 章：DI/HI チームの力関係と駆け引き

ねらい

本章では、DI/HI チームの利用や機能を支える、あるいは逆に妨げとなる態度や考え方を明るみにし、かつ、学習者には DI/HI チーム実践の発展に役立つアプローチの提案に取り組んでもらう。また、学習者はチームのダイナミクスや通訳者の実践に対する力関係との影響を探る。

能力

1.0 基礎力(1.4)
2.0 言語、文化、コミュニケーション力(2.3, 2.4, 2.6)
4.0 通訳実践力(4.1, 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6, 4.7, 4.8, 4.9)

目標

本章を履修した学習者は：

1. 力関係が DI/HI チームの機能にどう影響するか 2 つの例を挙げ、解決策を提案できる。
2. ろう通訳者と仕事をすることの意味合いを、ろう通訳者、聴通訳者、派遣責任者、ろうや盲ろう通訳利用者の観点から説明できる。
3. ろう通訳者自信がこの議論に関わり、建設的に貢献するための案を最低 2 つ出せる。

主要課題

1. 聴通訳者の立場から考えて、ろう通訳者と一緒に仕事をする利点と欠点は何か？
2. DI/HI の関係においてどのような力関係が生じる可能性があるか？
3. ろう通訳者はろう通訳者同士のチームの必要性を効果的に主張するには、どのように主張すべきか？
4. ろう通訳者と聴通訳者を共に快く受け入れる土壌を作るには、どのようなことができるか？

演習 1

この学習の前に、下記の資料を読み、もしあれば、読者のコメントも読んでおく。

1. *The Benefits of Deaf Interpreters* (ASLized, 2014)
2. *Team Me Up? CDI* (Beldon & McCutcheon, n.d.)
3. *Interpreters: Gatekeepers for the Deaf Interpreter Community* (Bronk, 2012)
4. *Who Needs a Deaf Interpreter? I Do!* (Burns, 1999)
5. *Deaf Interpreters: The State of Inclusion* (Howard, 2013)
6. *Are Hearing Interpreters Responsible to Pave the Way for Deaf Interpreters?* (Mindness, 2014)
7. *Interpreting Without a Deaf Interpreter is an RID CPC Violation* (Brick & Beldon, 2014)

下記の質問について話し合う。

1. これらの記事や Vlog の主なポイントは何か？
2. これらの記事や Vlog で述べられているさまざまな感じ方とは何か？
3. ろう通訳者とチームを組むことに抵抗感を持つ聴通訳者もいるがそれはなぜか？
4. このような感じ方を変えるには何ができるか？

DID YOU KNOW? *ろう者はまず視覚、見ることを通して世界と関わる。ろう者は見ることをより習慣としており、視覚的な注意力を高め、見ることにより重きを置き、生物学的にも見ることがより習慣になっている性質があり、学ぶときも見ることに依存している（Hauser, P., et al., 2010）ろう通訳者は通訳チームの一員として仕事にこの性質を活かす。*

演習 2

Teaching Modules for the Classroom: Deaf Interpreter/Hearing Interpreter Teams (NCIEC, 2013)の、DI/HI チームの必要性に関する説明を見て話し合う。

1. ろう通訳者は、この情報を聴通訳者およびろうコミュニティの人たちと共有するにはどうすべきか説明する（またはそのプランを立てる）。
2. 聴通訳者と雇用者の両方に DI/HI チームの正当性を詳しく示す。

TRAINER NOTE *サイト（テキスト）トランスレーションの場合は、教室内で、あるいは宿題として、Examples of a Deaf Interpreter's Work (Hollrah, 2012)にある少なくとも 2 つの動画を見てもらうこと。*

演習 3

この学習では、提出課題として、学習者に DI/HI チームにインタビューを実施してもらうことで、チームのプロセス、方策、人間関係のダイナミクスなどについて学習を深めてもらう。インタビューの質問の例として以下を参考にする。

1. なぜ DI/HI チームメンバーは一緒に仕事をすることを選んだのか？
2. 時間がたつにつれて、チームワークはどのように改善されたか？
3. チーム内に生じた力関係について、通訳者たちはどのように調整していたか？それが意思決定にどう影響したか、メンバーたちはそれをどう認識して解決したか？
4. この仕事で、もし、オーディズム（聴覚至上主義）があったとしたら、それは仕事にどう影響したか、またどう解決したか？
5. 他の通訳者たちにチームを組んで仕事をする利点について伝えたいことは何か？
6. DI/HI チームの活用を促進させるためにどのように正当性を訴えてきたか？

クラス内での検証のために上記の質問に対する回答を記録、またはビデオ録画してもらう。

演習 4

学習者には、通訳教育プログラム（IEP）受講生、ゲスト講演者、講師、または指導者としての過去の経験について話し合ってもらう。話し合いは下記の通りに進める。

1. 向上心のある聴通訳者と/並んで、向上心のあるろう通訳者として共に学習することの良かったことは？逆に課題・問題はあったか？
2. ろうの受講生や専門家の関わりは、IEP やその受講生にとってどのようなプラス面があったか？
3. IEP がより積極的にろうの受講生、教育者、講師、研究者を受け入れるためにどのような方略があるか？

小グループに分かれ、IEP において、向上心があり、経験豊富なろう通訳者のより活発な関わりを支援するための案を出し合う。この後に、学習者は、ろう通訳者の関わりの利点、課題、提案について説明したビデオを制作する。

演習 5

可能であれば、聴通訳者、聴の通訳利用者（税理士、銀行員、IRA：積立退職金コンサルタント、など）、通訳派遣エージェント、盲ろう通訳利用者を招待し、この活動に参加してもらう。学習者たちを小グループに分ける。各グループの一人はろう通訳者になる。各グループに一人、招待客に入ってもらう。グループの学習者は、招待客に下記の質問を使ってインタビューする。

1. ろう通訳者と仕事をする利点は何か？
2. 課題は何か？
3. インタビューの後、学習者は返答をまとめ、下記について vlog を作る
   - ろう通訳者と共に仕事をすることのプラス面は、マイナス面よりはるかに大きいことを説明する
   - ろう通訳者を支持し、雇用し、共に仕事をする際の助言

TRAINER NOTE *上記の学習は提出課題にすることもできる。学習者は、インタビューで分かったことをクラスに報告し、共有することで、更に議論を深めることができる。*

評価

形成的評価

1. 読書課題やビデオなどを分析する。
2. グループ討議で知識を共有し、講師の質問に答える。
3. ロールプレイやグループ演習も含むクラスでの授業に積極的に参加する。
4. 書面(レポート)あるいは動画の課題を提出する。

参考資料

ASLized. (August 10, 2014). *The benefits of Deaf interpreters.* [Videos]. Retrieved from http://www.deafvideo.tv/235079 and https://www.youtube.com/watch?v=Ec8LjnVuJx8&list=UU0jdsYSKy1VNhKw79mw0RsA

Beldon J. & McCutcheon, P. (n.d.). Team me up? CDI. *Street Leverage*. Retrieved from https://www.streetleverage.com/team-me-up-cdi/

Brick, K. & Beldon, J. (2014). Interpreting without a Deaf interpreter is an RID CPC violation. *Street Leverage.* Retrieved from http://www.streetleverage.com/2014/09/interpreting-without-a-deaf-interpreter-is-an-rid-cpc-violation/

Bronk, A. (2012) Interpreters: *Gatekeepers for the Deaf interpreter community. RID VIEWS,* 26 (2), 27-28. Also retrieved from http:// www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/0409VIEWS- RIDCommittess-DML.pdf

Burns, T.J. (1999). Who needs a Deaf interpreter? I do! *RID VIEWS*, 16 (10), 7. Retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/Burns.pdf

Hauser, P., O'Hearn, A., McKee, M., Steider, A., & Thew, D. (2010). Deaf epistemology: Deafhood and deafness. *American Annals of the Deaf.* 154(5), 486-492.

Howard, N. (2013). Deaf interpreters: The state of inclusion. *Street Leverage.* Retrieved from http://www.streetleverage.com/2013/04/nigel-howard-deaf-interpreters-the-state-of-inclusion/

Mindess, A. (2014). Are hearing interpreters responsible to pave the way for Deaf interpreters? *Street Leverage.* Retrieved from http://www.streetleverage.com/2014/08/are-hearing-interpreters-responsible-to-pave-the-way-for-deaf-interpreters/

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom–Deaf interpreter/hearing interpreter teams.* [Requires account login]. Retrieve d from http://interpretereducation.org/online/

- Unit 2.1–Making the case for a Deaf interpreter-hearing HI) team. Also retrieved f rom http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/8931ea84-5308-4d45-a367-d2329f2e3de9
- Unit 2.2–Coda vs Deaf interpreter. Also retrieved from http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/e8581154-8972-486f-bdc3-b0e7f35066e3
- Unit 2.3–Benefits of having a Deaf interpreter as part of a team. Also retrieved fro m http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/4dcaf44a-f3e1-4498-b72e-0888158e63f1

Group dialogue during NCIEC *Deaf Interpreter Train the Trainers* Session held June 2014.